

第

70

回

岩手芸術祭

2017

記録集

ごあいさつ



第70回岩手芸術祭実行委員会
会長 柴田 和子

県民の芸術文化活動の祭典として定着しております岩手芸術祭も、多くの皆様に親しまれながらこれまで回を重ね、第70回の節目を迎えることとなりました。

岩手芸術祭は、戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようとする先人の努力により昭和22年に始まって以来、途絶えることなく毎年開催されてまいりました。さまざまな時代を経て長い歴史を刻んできたことを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

開幕に合わせて開催されてきた「総合フェスティバル」は、岩手県民会館での盛岡開催に加え、今年初めて、大船渡市民文化会館での地域開催となる「総合フェスティバルin気仙」を実施いたしました。岩手の文化芸術の魅力を総合的に発信する場が増えることで、県民の皆さまの鑑賞の機会も増え、岩手芸術祭の一層の盛り上がりにつながったものと確信しております。

更には第1回芸術体験イベントの開催も芸術祭に花を添えました。特に小さいお子さんに芸術文化に触れる機会を提供することは、私たちに課せられた責任でもあり、今後ますます重要になりますので、一層力を注いでまいりたいと存じます。

今年の総合テーマには「未来（あす）を彩る 岩手の芸術 みんなで刻もう 新たな歴史」が選ばれました。この言葉のとおり、今後の芸術祭の更なる発展のため、創造の歩みを止めないことが、先人に対する恩返しと考えております。

ここに第70回岩手芸術祭の一切を記録集としてまとめます。本データを芸術文化活動の参考資料として御活用いただければ幸いに存じます。

終わりに岩手芸術祭の開催に当たりまして、御支援、御協力いただきました岩手県文化スポーツ部をはじめとする各主催者団体並びに各市町村、関係団体、関係各位に感謝を申し上げます、ごあいさついたします。

♣ 第70回岩手芸術祭記録集 目次

ごあいさつ 第70回岩手芸術祭実行委員会会長 柴田和子

第70回岩手芸術祭の概要 4

開幕式典・フェスティバル 7

美術展 8

日本画 洋画 版画 彫刻 工芸 書道 写真 デザイン 現代美術 水墨画

三賞受賞作品 21

巡回美術展 32

小・中学校美術展 33

芸術祭受賞作品 42

巡回小・中学校美術展 44

演劇 45

伝統芸能 52

能楽 邦楽 茶道 華道 吟詠剣詩舞道

音楽 72

合唱 声楽 弦楽 三曲 吹奏楽 ピアノ ギター 管弦楽

舞踊 91

洋舞 日舞

演芸 95

民謡 新舞踊

県民文芸作品集 102

文芸祭 105

小説大会 戯曲大会 文芸評論大会 随筆大会 児童文学大会 詩の大会

短歌大会 俳句大会 川柳大会

アートフェスタいわて2017―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展 115

テーマ募集 116

実行委員会名簿 117

収支予算書 119

事務局日誌抄 120

ポスターデザイン 122

編集後記 123

第70回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧

第70回岩手芸術祭開催状況一覧

表紙デザイン 佐々木 優子



第70回岩手芸術祭の概要

平成29年10月7日（土）、岩手県民会館大ホールにて、「第70回岩手芸術祭開幕式典・総合フェスティバル」が開催され、翌2月まで行われる芸術祭イベントの幕を開けた。本来ならば総合フェスティバルを皮切りに部門毎のイベントが開催されることになるのであるが、今年は諸事情により華道展が9月に前倒しで開催されるという異例の年となった。とはいえ、いつもと違う時期の開催は花の種類も変わり、展示する側も鑑賞する側も楽しみが広がったであろう。

また、総合フェスティバルと同時開催となった「第1回体験イベント」では38種類の文化体験、4種類の集客イベント、4種類の特別展示により、10月7（土）・8日（日）の2日間で延べ4千人を超える県民が楽しんだ。

更には総合フェスティバルの地域開催も特筆すべき取り組みであった。

年明け1月20日（土）には「総合フェスティバル『気仙』が大船渡市民文化会館で開催された。初めての地域開催ということで、気仙地区の各芸術文化協会には多大なる御協力をいただき、素晴らしい舞台を披露することができたと自負している。

そのほか、今年度も岩手芸術祭では、県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を提供するため、盛岡市をはじめ県内各地で美術展、小・中学校美術展、演劇、伝統芸能、音楽、舞踊などの舞台公演等、さらには県民文芸作品集の刊行や文芸祭など

多彩な事業を展開した。

今年は第70回の節目に合わせて、公募部門において「第70回記念賞」を新設し県民にアピールした。更に部門の活動に貢献された方々を顕彰し、記念品を贈呈した。各部門においては今まで培ってきた足跡を振り返るとともに、次の10年を見据え気持ちを新たにする機会になったことと思う。

作品の応募状況は減少傾向にあるものの、新しい試みや若い方々の参加など明るい話題もある。各事業の入場者数については、3万人を割り込む状況にあるものの、アンケートでは8割近くの方が満足と回答している。人口減少、趣味の多様化、様々な困難があるかと思うが、これからも長く続けていきたいものだ。

実行委員会事務局としては、これまでの伝統を踏まえながら、より多くの県民の皆様が芸術祭に参加いただけるよう、時代に見合った事業運営を目指し、創意工夫をしていきたい。

第70回岩手芸術祭 実施状況の概要

実 施 内 容 等	
実行委員会	開幕式典／表彰式／テーマ募集／記録集作成／実行委員会（3回）
総合フェスティバル	盛岡開催（鑑賞者1,800名）／地方（大船渡市）開催（鑑賞者1,200名）
美 術 展	公募展 日本画／洋画／版画／彫刻／工芸／書道／写真／デザイン／現代美術／水墨画（応募831点、鑑賞者4,255名）
巡回美術展	美術展上位入賞者作品78点県内7会場で巡回展示・上映（鑑賞者1,707名）
小・中学校美術展	児童・生徒の書写・美術作品の公募展 小学校絵画・書写／中学校美術・書写（応募8,084点、鑑賞者2,909名）
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展全入賞作品及び入選作品の一部、合わせて384点を県内5会場で巡回展示（鑑賞者835名）
演 劇	6会場で6団体が公演（鑑賞者1,201名）
伝 統 芸 能	茶会／吟詠剣詩舞道／謡と仕舞の会／華道展／邦楽のつどい（鑑賞者5,220名）
音 楽	ソロと室内楽の調べ／ピアノ演奏会／三曲演奏会／声楽部門演奏会／ギター音楽の夕べ／吹奏楽演奏会／合唱祭／管弦楽フェス（鑑賞者3,088名）
舞 踊	洋舞発表会／日本舞踊発表会（鑑賞者2,393名）
演 芸	新舞踊発表会／岩手民謡まつり（鑑賞者1,550名）
移動公演	新舞踊〔奥州市〕／声楽〔一戸町〕（鑑賞者246名）
県民文芸作品集	公募による作品集の刊行 小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳（応募510点）
文 芸 祭	小説大会／戯曲大会／文芸評論大会／随筆大会／児童文学大会／詩の大会／短歌大会／俳句大会／川柳大会（参加者381名）

公募事業応募点(者)数一覧（第70回／第69回）

美 術 展	種 目	応募点数	種 目	応募点数	種 目	応募点数
	日 本 画	28/34	小 説	15/18	小・中学校美術展	小・絵画 3,864/3,100
	洋 画	182/176	戯曲・シナリオ	6/10		小・書写 2,776/2,314
	版 画	43/37	文芸評論	7/4		中・美術 434/418
	彫 刻	24/19	随 筆	58/48		中・書写 1,010/1,041
	工 芸	59/53	児童文学	10/13	合 計	8,084/6,873
	書 道	174/191	詩	82/75		
	写 真	140/131	短 歌	67/78		
	デザイン	42/52	俳 句	187/178		
	現代美術	35/38	川 柳	78/61	ピ ア ノ	18/14
	水墨画	104/109	合 計	510/485		1/3
	合 計	831/840			声 楽	

総合フェスティバル

開幕式典・総合フェスティバル／平成29年10月7日(土)、岩手県民会館大ホール

今回のフェスティバルは、70回目の節目にふさわしいプログラムを取りそろえ、県芸術文化協会専門団体のコラボレーションなど多様なジャンルの演目を披露し、充実したフェスティバルとなった。

特筆すべきは毛越寺の藤里明久貫主による「国指定重要無形民俗文化財・毛越寺の延年『老女』」であった。百歳の老女に扮した貫主が静かに舞う姿に、満席の客席は息を飲んだ。

途中「感謝のセレモニー」として、岩手芸術祭功労者への感謝状贈呈を行った。

中盤の盛り上がりは葛巻町の「5歳児たちのヴァイオリン」演奏であった。演奏はたどたどしかったものの、一生懸命、且つ楽しそうに「チューリップ」を演奏する子どもたちの姿に、心を動かされない者はいなかっただろう。

後半は「国指定重要無形文化財 岳神楽&ジャズダンス」、「吹奏楽&盛岡山車太鼓」などのコラボレーションが展開され、フィナーレは出演者全員と会場の皆さんによる大合唱「岩手県民の歌」で感動の幕を閉じた。鑑賞者は

1800人だった。

総合フェスティバルin気仙／平成30年1月20日(土)、リアスホール（大船渡市）

構成・演出は上田次郎氏、プロデュースは藤川智美氏、舞台監督は近藤英一氏、演出補助は大沼まゆみ氏で、運営補助として岩手女子高校の協力をいただいた。

○功労者表彰（13名）

美術部門／小田原光晴（洋画）・佐藤平泉（書道）・角田良一（写真）・吉田康則（デザイン）
 舞台等部门／田島俊子（演劇）・杵屋寿慧（邦楽）・武田守榮（茶道）・昆 啓雅（華道）・小濱和子（合唱）・松坂尚子（三曲）・三浦竹寿（民謡）
 文芸部門／佐藤怡當（短歌）・沼田和子（俳句）

美術展

県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を広く県民に提供し、芸術文化の創造と発展に寄与することを目的として開催しているものである。

美術部門実行委員会の運営

5月9日 第1回実行委員会

(部門役員の選出、開催計画、公募要項等について協議)

6月1日 事務局員会議

(展示日程、印刷物の配布計画等について協議)

8月23日 第2回実行委員会

(開催日程、作品搬入・審査等について協議)

2月20日 第3回実行委員会

(実施状況の報告、次回の開催計画、公募要項等について協議)

作品搬入・受付

9月9日(土)、県民会館及び公会堂において行われた。

応募点数は10種目で831点であった。(昨年は840点)

作品審査

9月10日(日)、各搬入・受付会場において種目別に行われた。種目別の入賞・入選作品数は次のとおり。

○日本画	28	(28)	○洋画	182	(182)
○版画	43	(43)	○彫刻	24	(24)
○工芸	57	(59)	○書道	149	(174)
○写真	132	(140)	○デザイン	42	(42)
○現代美術	35	(35)	○水墨画	94	(104)

※()内は応募点数

展示会場及び会期

会場・岩手県民会館展示室

第1期 10月7日(土)～10日(火) [日本画・版画・水墨画]

第2期 10月12日(木)～15日(日) [写真・デザイン・現代美術]

第3期 10月19日(木)～22日(日) [洋画・彫刻]

第4期 10月26日(木)～10月29日(日) [工芸・書道]

表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、第70回記念賞及び部門賞受賞者の表彰式を11月18日に行った。(会場・サンセール盛岡)

美術部門実行委員会委員

〔日本画〕西川善有・片山道子〔洋画〕石川西三・日下信介〔版画〕日山登啓・鈴木和雄〔彫刻〕清武英司・曾根達也〔工芸〕阿部裕之・竹田康夫〔書道〕吉田晨風・佐々木飛鴻〔写真〕太田信子・菊池克美〔デザイン〕竹村育貴・吉田康則〔現代美術〕小笠原卓雄・浅倉 伸〔水墨画〕鈴木孝男・北村義美

種目別の記録

日本画

芸術祭賞 〔Feel like dancing〕高橋 諒 (山形県)

優秀賞 〔千冬〕ジョン・ジェソル (盛岡市) 奨励賞 〔風〕花立ゆかり (矢巾町) / 〔想〕浅沼正子 (兵庫県)

第70回記念賞 〔和〕藤原妙子 (矢巾町) 部門賞 〔富貴〕松田津多子 (盛岡市) / 〔豊穣〕濱田雄司 (宮古市) / 〔夜の風景〕関 尚子 (山田町)

古市) / 〔夜の風景〕関 尚子 (山田町)

古市) / 〔夜の風景〕関 尚子 (山田町)

《講評》 日本画の本年度

の出品数は、32点でした。そのうちの2点は県外からの出品でした。また、個々の作品テーマも、人物、風景、動物、花鳥など、絵の種類も多様にわたり、活力に溢れた作品になりました。今までになかった前向きな姿勢が新鮮なムードを作ってくれていました。大作だけでなく、小品の作品も丹念に取り組



▶日本画審査

み、大作に劣らない出来栄でした。全体に細やかな描写や丹念な色彩など作品に対しての配慮がきめ細かくなされていたと感じました。

芸術祭賞 〔Feel like dancing〕高橋諒は、画面からあふれんばかりに踊る人物から息づかいが伝わってくる、そんな雰囲気包まれて画面全体にエネルギーが発散しているように感じられる作品でした。

優秀賞 〔千冬〕ジョン・ジェソルは座っている女性が何を考えているのでしょうか。体中に満ちあふれた緊張感と思考が体内を駆け巡っているように感じました。

奨励賞 〔風〕花立ゆかりは静かに落ち着いて何を思案しているのでしょうか。そんな雰囲気かわりと伝わってきます。奨励賞 〔想〕浅沼正子は、風雪に耐えた歴史ある煉瓦造りの旧岩手銀行の歴史と年輪を重ね合わせ大地にどっしりと腰をおろして建っている建造物の重みを感じられました。第70回記念賞 〔和〕藤原妙子は、親子鳥の動作と親しげに和やかな感じが画面いっぱいにあふれ出ていました。

(西川善有)

審査員 西川善有 (岩手県日本画協会会長)

片山道子 (事務局長)

【洋画】 芸術祭賞＝「葛藤」小杉博光（盛岡市） 優秀

賞＝「震災の記憶」高田松原（高澤俊郎（福島県） 奨

励賞＝「Reborn」心の振子が動き出す」佐々木和江（一

関市）／「騒音」藤田もも絵（盛岡市） 第70回記念賞＝

「RANDOM3」泉山教道（矢巾町） 部門賞＝「セレナーデ」

北村敦子（花巻市）／「風刻」山根ノブ子（山田町）／「時」

平山由紀子（盛岡市）／「夕風」山内峯男（宮古市）／「雪

の里（金成）」萩原國昭（一関市）／「平和な構図」佐藤

栄一（二戸市）／「なぞなぞ」伊藤真理子（盛岡市）／「に

ぎやかな夜」武藤 章（宮古市）／「出漁の夜明け」菊池

洋（奥州市）／「北の納屋」辻 齊一（奥州市）／「海の

造形」中村治章（盛岡市）／「夏の陽射し」小野寺輝美（矢

巾町）／「KIZUNA-017」松岡けい子（秋田県）／「Tiny

light」佐々木利奈（滝沢市）／「映帯Ⅱ」石川千恵子（一

関市）／「鎮座する安穩」本郷広隆（盛岡市）

《講評》 昨年度より微増の182点が寄せられた。毎年

のように出品している常連作家の安定感のある作品に加え、

若さを感じる新人作家の作品も序々に増えており、具象・

抽象の枠を越え、バラエティに富んだ展示構成となった。

芸術祭賞、小杉博光さんの『葛藤』は、女性をモチーフ

に、人生の喜怒哀楽や不安、悩みを一人の大きな顔の中に

描き込んでいる。また、並置加法混色や点描画的表現も加える等、表現技法にも工夫が見られ、人間の心の中でうごめく『葛藤』を抽象的に描いている。

優秀賞、高澤俊郎さんの『震災の記憶』高田松原』は、入念に作り込まれた基底材に、卓越した緻密な描写で、震災直後故郷である陸前高田への心情を、無惨に被災した松に託し描き起こしている。内面に迫るような写真表現は、ありのままのリアリティを越え、見る側を圧倒する。

奨励賞、佐々木和江さんの『Reborn』心の振子が動き出す』は、やはり震災をテーマに、大きな挫折や喪失感に苛まれながらも、時の流れや自然の摂理の中で少しずつ生まれ再生されていく新たな希望を、人物を囲む光の輪で幻想的に表した。

同じく奨励賞、藤田もも絵さんの『騒音』は、本人が感

じる自分の怒りや悲しみと、社会から向けられる誹謗中傷を『騒音』と捉え、それに屈しない強い『私』を表現している。

第70回記念賞、泉山教道さんの『RANDOM3』は、アクリル絵の具での描写をベースに、ボールペンやマーカーでの描写や写真、ダンボールをコラーージュ等様々な要素を渾然一体に表現し、ランダムで奔放さが魅力の作品に仕上がった。

全体として、小振りな作品が多かったが、例年以上に丁寧に描き込まれた質の高い作品が目立った。課題として、作品のテーマの絞り込みや狙いをしっかり定め、描画に反映させていく制作姿勢を更に期待したい。（日下信介）

審査員＝洋画部門理事

【版画】 芸術祭賞＝「pale moon」伊藤由美子（盛岡市） 優秀賞＝「春陽」工藤勝機（滝沢市） 奨励賞＝「Improvisation 風模様」福井 柳（奥州市）／「里山暮色Ⅰ」日山登啓（盛岡市） 第70回記念賞＝「その時が来た」渡辺万里（盛岡市） 部門賞＝「群衆・kiwifruit」紺野順子（盛岡市）／「重なる縁Ⅰ・重なる縁Ⅱ」小野寺花佳（盛岡市）／「昨日みた夢」遠藤雅子（盛岡市）／「スムトコ

ロⅡ」瀬川はるひ（奥州市）

《講評》 ここ数年、版画部門は出品者及び作品点数とも低迷していたが、本年度は、絵画性に富んだ質の高い作品が多く、制作の意図やこだわりが感じられるなど、それぞれの賞に相応しい、見応えのある展覧会となった。

これは美術展の会期最終日に実施する「審査員の講評会」が恒例になったことで、出品者ひとりひとりが自分の創作原点に気づき、表現したい何かをつかむため地道に探究した結果であろう。本版と銅版が概ね同数、シルクスクリーン（孔版）と紙版が各1人ずつの応募があり、版画表現の多様性を感じることができる。

芸術祭賞の「pale moon」の伊藤由美子さんは、明度の高い色彩とシンブルは構成で、空間の浮遊感を軽やかに表現した。工藤勝機さんは、木版の細密な彫りを



▶洋画審査



▶版画審査

活かし、「春陽」で優秀賞を獲得している。今後、光の明暗を工夫すれば力強い構成になる。「Improvisation 風模様」の福井柳さんと「里山暮色Ⅰ」の日山登啓さんは、ともに芸術祭賞を受賞したベテランである。2作品とも木版だが、「軽快」と「重厚」とで違った味わいを見せている。

部門賞には4人を選出した、小さい作品でありながらも味わい深い銅版の数々だ。近づいて覗くと小さな世界観を味わえよう。紺野順子さんの2点「群衆」、「[awhinit]」、遠藤雅子さんの「昨日みた夢」では、ともに銅版の清潔な作業が好ましい。シルクスクリーンの小野寺花佳さんは「重なる縁Ⅰ」と「重なる縁Ⅱ」の2点で彩色の可能性を暗示した。「スムトコロⅡ」紙版の瀬川はるひさんは、もっと自由に弾けたら楽しさが増す。

渡辺万里さんは、「その時が来た」第70回記念賞に輝いた。うつつな時間のはかなさを銅版に線描で表現した。

受賞作品に限らず、版画部門の充実感を思う一年であった。
(阿部陽子)

審査員 阿部陽子 (版画家・国画会会員)

田村晴樹 (画家)

彫刻 芸術祭賞 〓「[imagine]」佐々木有華 (釜石市) 優秀賞 〓「ダンス」松川ナオ (矢巾町) 奨励賞 〓「受容」黒沼 令 (福島県) 〓「Sさん」遠藤守夫 (奥州市) 第70回記念賞 〓「日常」山岸 稜 (矢巾町) 部門賞 〓「裸婦」村上涼香 (東京都)

《講評》 昨年度の19点を上回る24点の出品があり、展示会場は活気のある空間となった。内容は人物をテーマとした作品が多かった。素材は幅広く、それぞれの特性を活かした個性的な表現が見られた。全体評を含め受賞作については、審査員の山内正宣氏の講評を掲載する。

『若い作家の意欲的な作品が多く見られた。内容的にもレベルが高く、それぞれの作家の創作に対する熱意が強く感じられた。芸術祭賞を受賞した佐々木有華さんの「[imagine]」は、粗削りではあるが大きな可能性を感じる作品である。彫刻の生命線である量感にあふれ、作者の意図が見事に表現されている。対象の観察と作品としての見せ方を研究し、今後の飛躍につなげて欲しい。優秀賞松川ナオさんの「ダンス」は、完成度が高く、バランスの良い秀作である。作品の大きさ以上の広がりを感じさせるような表現が今後の課題である。奨励賞黒沼令さんの「受容」は、技術的に高く、完成された作品であるが、動きがない点に

で感謝の意を表したい。

(清武英司)

審査員 山内正宣 (彫刻家)

工芸 芸術祭賞 〓「青風地をめぐる」昆野明栄 (遠野市) 優秀賞 〓「かけら・水Ⅰ」門馬経智 (盛岡市) 奨励賞 〓「朱華四方盛盞」青柳ひで子 (一関市) 〓「交錯する宇宙」松ノ木好恵 (遠野市) 第70回記念賞 〓「古代蓮」鈴木正二 (奥州市) 部門賞 〓「躍るⅡ」竹田康夫 (盛岡市) 〓「夏恋星」多田みえ子 (遠野市) 〓「生長」矢津田貴慧 (盛岡市) 〓「敷物「光」」昆野晴香 (北上市) 〓「自然の造形」田中京子 (盛岡市) 〓「行灯」菅原治男 (一関市)

やや物足りなさを感じる。同じく遠藤守夫さんの「Sさん」は、彫刻としての強い存在感がある。彫刻に対する真摯な姿勢が、作品を通して表現されている点にも好感が持てる。第70回記念賞、山岸稜さんの「日常」は、まとまりすぎている印象は受けるが、発想がおもしろく、表現力が豊かである。部門賞村上涼香さんの「裸婦」は、表面的な美しさはあるものの習作の域にある。さらなる表現の可能性を追求し、独自のスタイルを確立して欲しい。彫刻に限らず表現において重要なのは「創作の意図」すなわち「何を表現したいか」である。その点を明確して制作にあたることは言うまでもないが、作品を見る人を意識した「タイトル」の在り方も考察して欲しい。』

70回という記念すべき

年に、このような盛り上がり



▶ 彫刻審査

《講評》 第70回岩手芸術祭工芸部門の総搬入数57点、昨年より若干増加傾向の出展数であった。もとより工芸は多様な分野がある。第70回記念の今回展の受賞作品は染、織、金工(鑄金、彫鍛金)、陶、漆、その他(植物、布等のコラージュ)と実に7分野にわたり多様な岩手工芸作家層の厚みを表わしたものとなった。また受賞作家の年齢も20歳代より80歳代と歳の幅も大きく、この幅広い作家層こそ将来に向け明るい展望となり期待する。と審査をされた春山氏は述べている。

第70回工芸部門芸術祭賞

は「青風地をめぐる」昆野明栄氏、藍染の個性豊かな表現による秀作として選考された。優秀賞の「かけら・水工」門馬経智氏、金工のオブジェで、鑄造の形状と着色の変化に創意工夫とストーリーを感じさせる作品である。奨励賞の「朱華四方盛器」青柳ひで子氏、朱漆の美しさと施された直線の模様の一体感が印象的である。同じく奨励賞の「交錯する宇宙」松ノ木好恵氏、染織の布によるドレープの交錯が独特の立体感を生み出している。第70回記念賞「古代蓮」鈴木正二氏、打ち出しの平面金工作品である。このように菊池氏は語っている。部門賞の作品については、陶芸・染織・金工・押花と様々な分野から優れた作品、新しい挑戦者の作品が選出されている。昨年度受賞された方々のお名前と初めて出品された方々の名前が半数ずつを占めた本年度に期待を持てる記念展の結果であった。

工芸審査



齢化の影響等で出品点数は減少したものの、公募作品には文字造形と余白の美しさを意識した躍動感のある作品が目立った。

芸術祭賞、清水嶺鵬さん（宮古市）の作は規模の大きい動きに線の力強さ、余白の美に見応えがあり、躍動感溢れる快作。優秀賞の菊池茜鈴さん（北上市）は、仮名の美しさを繊細に、かつ墨の量感を巧みに生かした作品。奨励賞・千葉寿幸さん（一関市）の篆刻は三顆の印を三様に変化させた力作。同じく奨励賞の熊谷碓斗さん（盛岡市）の漢字作品は、多様な文字連綿の技法を用い、練度が高い。記念賞・餘目彩佳さん（盛岡市）の作は、数少ない縦形式の仮名作品で、行間がうまく響き合い仮名の流れを効果的に演出した美しい作品。

三賞作品に加え、巡回展には兼平岱夔さん（軽米町）と橋元玉秀さん（盛岡市）の漢字作品、金野翠苑



書道審査

（阿部裕之）

審査員 春山文典（日展会員）

菊池房江（岩手工芸美術協会会長）

【書道】芸術祭賞Ⅱ「孟浩然詩」清水嶺鵬（宮古市）優秀賞Ⅱ「月よめば」菊池茜鈴（北上市）奨励賞Ⅱ「近作三種」千葉寿幸（一関市）／「甘瑾詩」熊谷碓斗（盛岡市）

第70回記念賞Ⅱ「つくよみの」餘目彩佳（盛岡市）部門賞Ⅱ「勝太郎の詩より」金野翠苑（大船渡市）／「王士禎詩」高橋素香（盛岡市）／「蘭亭の遊び」千田香葉（奥州市）

／「匡による」長澤紅苑（宮古市）／「近作二種」中野春石（盛岡市）／「杜甫詩」畠山素園（花巻市）／「王文治詩」古館葩水（一戸町）／「趙鶴詩」岩崎静水（盛岡市）／「花は咲く」横田朗子（盛岡市）／「王漁洋詩」兼平岱夔（軽米町）／「老陶芸家の話」山形流里（盛岡市）／「鮑恂詩」橋元玉秀（盛岡市）／「自分」舟山 文（宮古市）／「王屋詩」佐藤千香（奥州市）／「四季の歌」小野茜葉（盛岡市）／「小倉百人一首より（やへむぐら・）」中村聡苑（盛岡市）

《講評》出品点数174点、入賞入選作品149点、展示作品は公募、招待、審査員合わせて174点。近年続く高

さん（大船渡市）の漢字仮名交じり作品の3点が選出された。兼平さんは大胆で墨色鮮やかな力強い行草作品。橋元さんは、爽やかな線条で明るさがある多字数作品。金野さんは、小気味良い運筆リズムでムード感のある漢字仮名交じり作品に仕上げた。

入賞者はいずれも個々の顔が見られ、共通して文字と余白の関連を強く意識していた。全体的にベテランの方の研鑽に加え、若い層の取り組みが活力をもたらしている。

（佐々木飛鴻）

審査員Ⅱ吉田晨風（岩手書道協会会長）

斎藤溪石（副会長）

堀内青巒（副会長）

野田杏苑（副会長）

大河原節子（理事）

藤澤華星（理事）

玉澤岑砦（理事）

山火葉舟（理事）

【写真】芸術祭賞Ⅱ「6年目の鎮魂」遠藤顕一（釜石市）

優秀賞Ⅱ「新盆に弔う」北井崎昇（盛岡市）奨励賞Ⅱ「故郷の尊徳像」内村義夫（花巻市）／「いつか行く道」佐々

木八重子（盛岡市） **第70回記念賞**「いのち」松木世以子（矢巾町） **部門賞**「時間が育むもの」松木尚子（盛岡市）／「おは〜っ」菅原章次（奥州市）／「小春日和に」川村 誠（盛岡市）／「春うらら」松島嘉子（盛岡市）／「季節の恵み」佐々木保（花巻市）／「もっと飛べ」細野 清（滝沢市）／「光風」伊藤栄理子（盛岡市）／「出番前」久慈省一郎（盛岡市）／「切り絵師」菊池賢一（釜石市）／「幸せの予兆」黒田隆治（盛岡市）／「雪夜のできごと」町屋伸一（盛岡市）／「復興を待つ」星 岩男（盛岡市）／「夏に飛び込め！」盛田盛信（盛岡市）／「縄張り」平 宏之進（花巻市）／「静雅」田村雅子（盛岡市）／「樺林の朝」後藤靖行（盛岡市）／「厳冬の美」松澤光雄（盛岡市）／「やさしさにつつまれて」佐藤文明（奥州市）／「村まつり」高橋 清（平泉町）／「襲来」高橋順吉（盛岡市）

《講評》 想像していたより高いレベルで僅差だった。大きなサイズの審査は初めて。大きいと写真の良さは拡大されるが、一方でアラも目立つ。プリント時点でミスったかなと思ったのが多かった。

芸術祭賞「6年目の鎮魂」遠藤顕一／今のカメラは信じられない位撮れるようになった。しかし変わらないものがあった、見せたいものがシンプルなほど人の心に届きやす

い。背景が真っ暗だから選んだ。背景で情景を説明していないから人に目が行く。新聞のタイトルが効いている。二人の、それぞれの思いの深さを抱えながら生きているという思いが伝わる。

優秀賞「新盆（あらほん）に弔（とむら）う」北井崎昇／デジタルの時代だからとれる写真。クリアに細かいところが見える。右の川の中の人と、手前の祈っているのか熱がっているのかの人がいないと選ばなかった。縦横のサイズがちょうど良かった。

奨励賞「故郷の尊徳像」内村義夫／いきなりゆるい犬の絵から入ったのんびりした感じ。次、弁当を食べている。緩い絵だがよく見ると作業後の手足が汚れた様が見える。次、農作業で疲れた感じが出てくる。3枚で頑張る姿がだんだん強くなっていき、最後に尊徳さんが出てくる。写真の並べ方がストーリーを重厚にした。



◀写真審査

奨励賞「いつか行く道」佐々木八重子／アサヒカメラはスナップにうるさい。右と左だけ見るとつまらないが、2つ組み合うと面白くなる。何でもない情景が写った瞬間に面白くなる写真。面白いなと思った時パッと撮ってみる。後でなんで面白いただろうと考えるとおのずと題名が浮かんでくる。

第70回記念賞「いのち」松木世以子／大きい写真の中に探さなければわからないくらい小さく妊婦さんが写っている。この大きさになると写真の周辺が良く見えて、命に囲まれた自然の中に妊婦さんがいる。「身近な絶景」と言う言葉がある。目で見えるいわゆる絶景と、写真で撮られる事で初めて見えてくる絶景「身近な絶景」は違う。

（佐々木広人）
審査員＝佐々木広人（アサヒカメラ編集長）

デザイン **【自由 芸術祭賞】**「猿も木から落ちる」「井の中の蛙、大海を知らず」佐々木海太郎（盛岡市） **優秀賞**「四季もりおか 春・夏・秋・冬」吉田康男（盛岡市）
奨励賞「IDEA+」白石幸久（矢巾町）／「Alphabet Animals」川村亮二（矢巾町） **第70回記念賞**「遙かなる核廃絶」蛇口慎治（大槌町） **部門賞**「絶望を殺めたアオ色（みどり）」加村なつえ（盛岡市）／「世界の蝶展」

小田島凌一（釜石市）／「Z A I A K U 観音」千葉準也（盛岡市）
【課題】金賞「いの、生きる強さ」宇夫方康夫 **銀賞**「SAVE THE GREEN」佐々木海太郎（盛岡市） **銅賞**「廻るゝ人の力と自然の力」村野充弘（盛岡市）

《講評》 今年はいラストレーション作品が揃う中、芸術祭賞・佐々木さんのポスター「諺」連作2点がひと際、存在感を放つ。日本古来の「ことわざ」をシンプルなモチーフと色彩で、ユーモラスに表現した。また、動物のデフォルメや配置を通して、デザインすることの面白さを明快に印象づけた。デジタル処理の中にも暖かさが感じられる魅力的な作品となっている。

優秀賞・吉田さんの4連作「四季もりおか／春・夏・秋・冬」は、イラストの緻密さと大胆なアングルが視



▶デザイン審査

覚に迫ってくる。並外れた描写力が奥行きを感じさせる。

奨励賞・白石さんの「[IDEA+]」は、岩手の森林資源にアイデアを加えることの必要性をセンシティブに視覚化した。岩手を象った木片の美しさが目を引く。川村さんの「[Alphabet Animals]」は、AからZまでを愛らしい動物で楽しくシンボライズした。単純化の方法が絶妙だ。

第70回記念賞・蛇口さんの「遙かなる核廃絶」は、核廃絶への届かぬ思いと憤りを感じさせる作品となっている。

部門賞・加村さんの「絶望を殺めたアオ色（みどり）」は、絶望をも浄化してくれるという青い空と海を独特の世界観で幻想的に表現した。小田島さんの「世界の蝶展」は、蝶のパターンが織りなす形と色彩が、リズムカルに伝わってくる。千葉さんの「[ZAIKU] 観音」は、罪悪感が支配する日常を、木を焦がす手法を用いた線画に定着させた。

課題部門、金賞・宇夫方さんの「この、生きる強さ」は、自然の偉大さと生きる力の強さを改めて喚起させ、自然を守ることの責任を前向きに示唆している。銀賞・佐々木さんの「[SAVE THE GREEN]」は、葉のシルエットに人間を意味する指紋を付着させ、自然へ介入することへの注意を促している。銅賞・村野さんの「廻るゝ人の力と自然の力」は、人と自然との力のバランスの重要性を訴えている。

（村上由美子）

審査員＝長谷川羊介（クリエイティブディレクター）
村上由美子（岩手デザイン協会会長）

現代美術

芸術祭賞＝「執着天国」千葉準也（盛岡市）

優秀賞＝「[Journal 643]」清武佳世（盛岡市） 奨励賞＝「私事2」伊藤真理子（盛岡市）／「絶望を殺めたアオ色」加村なつえ（盛岡市） 第70回記念賞＝「プリンを限界まで揺らす」三河 渉（盛岡市） 部門賞＝「[Mack'N'Roll]」岩佐英明（盛岡市）／「世界平和のための武器」キムラタイコ（宮古市）／「近未来！もうひとりのあなたが産まれる」高橋克宏（盛岡市）

《講評》

本部门では「平面、立体、映像、インスタレーション、音響を含むものなど、様式や技法にとられない表現」を対象としている。言い換えれば、絵画や彫刻、写真といった従来の出品枠を超えた実験的な表現である。そこで私は、①どのような表現方法を試みているか、②その方法が作品として完結しているか、③さらにコンセプトが明確に伝わってくるか、の3点を軸に選考を行った。

その結果、芸術祭賞には千葉準也の「執着天国」が選ばれた。絵画によって空間全体を支配しようとするこの

「執着」心に、見る者は圧倒される。優秀賞は清武佳世の「[Journal 643]」。絵画の中に時間的な要素を取り込もうとする理知的な作品だ。奨励賞には伊藤真理子と加村なつえの2名。伊藤の「私事2」は、キャンバスの表と裏を使って絵画の両義性を示す。また加村の「絶望を殺めたアオ色」は、小さな箱の中に思い入れのある素材を並べてごく個人的な世界観を展開させる。

第70回記念賞には三河渉の「プリンを限界まで揺らす」。何の役にも立たないことを真剣にやり続ける。これこそが人類に偉大な発見をもたらしてきた最大の力だ。部門賞には岩佐英明、キムラタイコ、高橋克宏の3名。岩佐の「[Mack'N'Roll]」はプリント技術と素材の性質を効果的に利用した作品。キムラの「世界平和のための武器」は、不穏な世界情勢に対するウィットに富んだ提案。高橋は「近未来！もうひとりのあなたが



▶現代美術審査

産まれる」で電脳化していく人間の未来を暗喩的に示す。

今回は私にとって初めての審査だった。本展の出品者はそれぞれ、身近なところから作品のテーマを導き出しているように見えた。これまで私たちは「大きな物語」を求めて世界と向き合ってきた。しかし、これからからはむしろ「小さな物語」が大切になるという。出品者たちの中では、すでにそうした物語づくりが始まっているのかもしれない。

（松永 康）

審査員＝松永 康（アートコーディネーター）

水墨画

芸術祭賞＝「山響」千葉光子（一関市） 優秀

賞＝「ふるさとと雪」小笠原妙子（盛岡市） 奨励賞＝「逢

滝」加藤真智子（盛岡市）／「煙霞小安峡」小野寺不二子（一

関市） 第70回記念賞＝「兜明神岳」谷村キヌ子（盛岡市）

部門賞＝「那智の霊気」平塚祐子（盛岡市）／「新緑の清流」

清水恒男（盛岡市）／「涼流」北村義美（盛岡市）／「樺

林再生」近江 力（盛岡市）／「岩木山花ぐもり」三浦洋

子（花巻市）／「朝もや」小原隆則（北上市）／「秋明菊」

高橋峯子（北上市）／「高くそびえる五連山」永澤英子（一

関市）／「静寂」佐藤清子（一関市）／「輝く海」佐藤秀

男（一関市）／「秋風」猪股多枝子（一関市）

《講評》 第70回を重ねた記念すべき岩手芸術祭です。イベントとして、「キテミテ体験！みんなでアート」を、水墨画部門でも2日間に亘り実施いたしました。子供から大人まで140人を超える多数の参加に順番待ちも有り、水墨画の醍醐味を体験していただきました。

今回の応募総数は104点と、昨年より若干少ないものの、ほぼ例年並みでありました。作品傾向としては花卉を題材にした作品が多く見られました。また、高齢化と共に大型作品が減少し中型作品が増加しつつあります。

全体的に見て描き過ぎや、重ね描きが少なくなっており、墨の美しさを強調した作品が多く技術の向上が見受けられました。唯、表現方法にもう少しの工夫と気配りがあれば、もっと生きた作品になると思われるものも数多くありました。

これは、今後の課題として益々お互いに研鑽し合い、更なる水墨画への挑戦を切望して止みません。

芸術祭賞 「山響」

筆勢の強弱によって、山峡の質感が適確に表現されており、山の響が伝わってくるような気韻のある作品です。

優秀賞 「ふるさと雪」

昔なつかしい倉を安定した構図と柔かい筆致で表現されており、観る者の心を引き付ける安らぎの作品です。

奨励賞 「逢滝」

合流した流れは力強さを増し勢いよく流れて行く様を、筆勢を生かした技法でよく表現されている奥行きのある作品です。

奨励賞 「煙霞小安峡」

構図もよく墨色の強弱が生かされており、煙る小安峡の表情がとてもいい作品です。

70回記念賞 「兜明神岳」のびやかなタッチで堂々と聳える山岳を、整理された構図で巧みに仕上げた、さわやかな印象深い作品です。

(昆野スミ子)



◀ 水墨画審査

審査員Ⅱ 鈴木孝男

(岩手県水墨画協会会長)

昆野スミ子

(副会長)

菊池一政

(副会長)

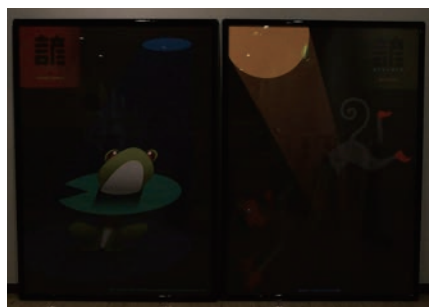
阿部慶造

(理事)

美術展三賞受賞作品



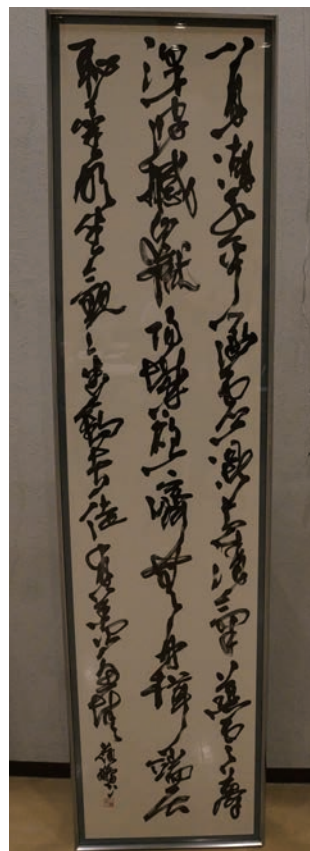
▲写真「6年目の鎮魂」
／遠藤 顕一



▲デザイン「猿も木から落ちる」
「井の中の蛙、大海を知らず」
／佐々木 海太郎



▲水墨画「山響」
／千葉 光子



▲書道「孟浩然詩」
／清水 嶺鵬



▲現代美術「執着天国」
／千葉 準也



▲洋画「葛藤」
／小杉 博光



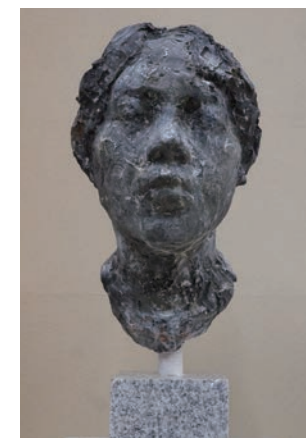
▲日本画「feel like dancing」
／高橋 諒



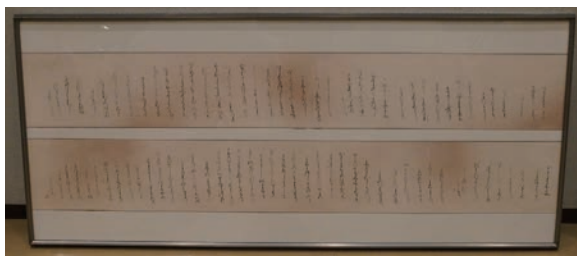
◀版画「pale moon」
／伊藤 由美子



▲工芸「青風地をめぐる」
／昆野 明栄



▲彫刻「imagine」
／佐々木 有華



▲書道「月よめば」
／菊池 茜鈴



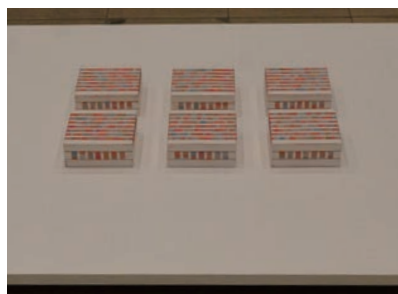
◀写真「新盆に弔う」
／北井 崎昇



▲デザイン「四季もりおか 春・夏・秋・冬」／吉田 康男



▲水墨画「ふるさとは雪」
／小笠原 妙子



▲現代美術「journal 643」
／清武 佳世



▲洋画「震災の記憶～
高田松原」
／高澤 俊郎



▲日本画「千冬」
／ジョン・ジェソル



▲工芸「かけら・水Ⅰ」
／門馬 経智



▲版画「春陽」／工藤 勝機



▲彫刻「ダンス」／松川 ナオ



▲彫刻「受容」／黒沼 令



▲版画「Improvisation風模様」
／福井 柳



▲洋画「Reborn—心の振子が動き出す」
／佐々木 和江



▲日本画「風」
／花立 ゆかり



▲彫刻「Sさん」／遠藤 守夫



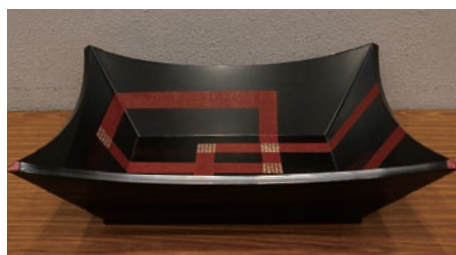
▲洋画「騒音」
／藤田 もも絵



▲日本画「想」／浅沼 正子



▲工芸「交錯する宇宙」
／松ノ木 好恵



▲工芸「朱華四方盛器」／青柳 ひで子



◀版画「里山暮色Ⅰ」
／日山 登啓



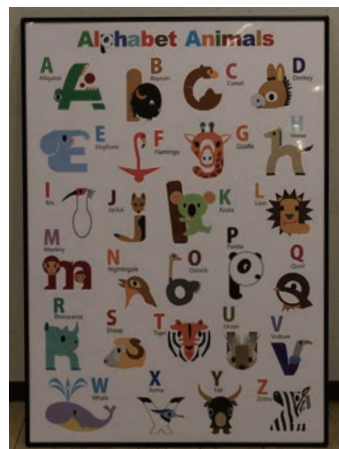
▲現代美術「私事2」／伊藤 真理子



▲水墨画「煙霞小安峡」
／小野寺 不二子



▲水墨画「逢滝」
／加藤 真智子



▲デザイン「Alphabet Animals」
／川村 亮二



▲現代美術「絶望を殺めたアオ色」
／加村 なつえ



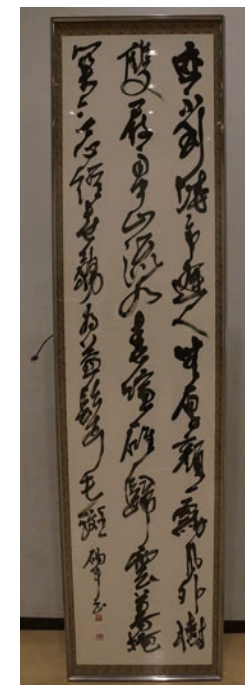
▲写真「いつか行く道」／佐々木 八重子



▲写真「故郷の尊徳像」／内村 義夫



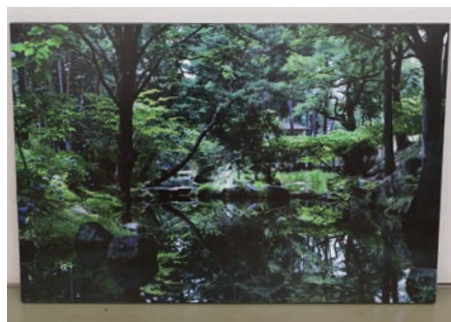
▲デザイン「IDEA+」／白石 幸久



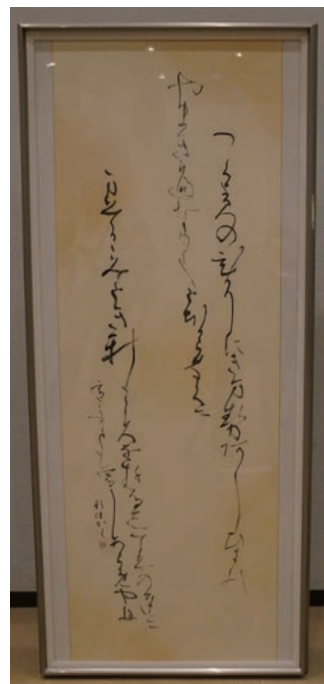
▲書道「近作三種」
／千葉 寿幸



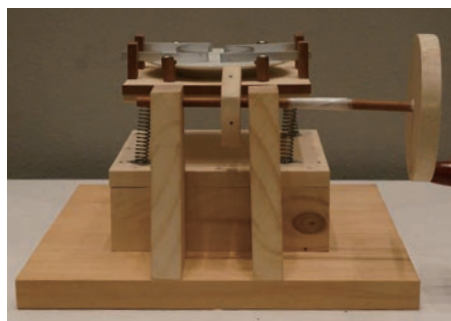
▲書道「甘瑾詩」
／熊谷 碓斗



▲写真「いのち」／松木 世以子



▲書道「つくよみの」
／餘目 彩佳



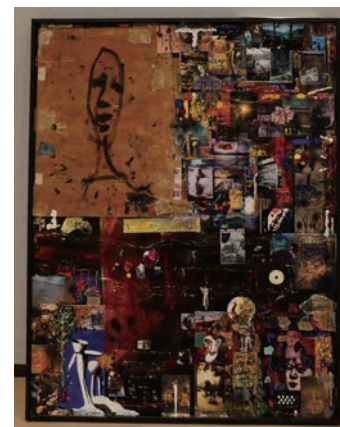
▲現代美術「プリンを限界まで揺らす」
／三河 渉



▲デザイン「遥かなる核廃絶」
／蛇口 禎治



▲水墨画「兜明神岳」／谷村 キヌ子



▲洋画「RANDOM3」
／泉山 教道



▲日本画「和」
／藤原 妙子



▲版画「その時が来た」
／渡辺 万里



▲彫刻「日常」／山岸 稜



▲工芸「古代蓮」／鈴木 正二

巡回美術展

巡回美術展は、美術展の優秀作品を県内市町村において巡回展示し、県民に芸術鑑賞の機会を提供するために実施しているものである。

今年度は県内7会場において美術展における芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、第70回記念賞及び部門賞のうち部門推薦作品（最大3点）、計78点を巡回展示した。うち、巡回展示することが困難な現代美術部門8点については、当該作品の写真パネルを展示した。

鑑賞者数は1707名であった。

▽巡回日程・会場（計20日間・7会場）

11月3日（金）～6日（日） 一戸町コミュニティセンター
 11月16日（木）～19日（日） 奥州市文化会館
 11月23日（木）～26日（日） 山田町中央公民館
 12月2日（土）～3日（日） 久慈市文化会館
 12月9日（土）～10日（日） 一関文化センター
 12月13日（水）～14日（木） 宮古市文化会館
 平成30年1月19日（金）～20日（土） 大船渡市文化会館

小・中学校美術展

◆小学校絵画部門

芸術祭賞Ⅱ 菊池彩希（江釣子小2）・渡辺夢頼（湯本小3）・伊山結人（杜陵小6）

優秀賞Ⅱ 小野寺莉久（厨川小1）・山内俐空（山岸小1）・齋藤滉大（城北小1）・長澤咲人（仙北小2）・晴山叶大（手代森小2）・吉田直輝（見前南小2）・佐々木ひまわり（山岸小3）・天摩明愛（盛岡・永井小3）・藤根 爽（湯本小3）・津野愛子（仙北小4）・菊地 毅（吉浜小4）・伊山百華（大浦小4）・新本陽子（桜城小5）・田代桜雪（厨川小5）・林紗理奈（津志田小5）・齊藤 零（盛岡・土淵小6）・西村碧唯（鶴飼小6）・瀧本 詢（一本木小6）

奨励賞Ⅱ 久保屋敷真乙（山岸小1）・大須賀隼人（手代森小1）・白木澤秀治（吉浜小1）・山浦柊哉（手代森小2）・野田峻介（鶴飼小2）・飯野希海（大浦小2）・伊藤夕夏（城北小3）・中澤妃奈（津志田小3）・松岡杏奈（鶴飼小3）・菅原玄親（城南小4）・熊谷陽奈（盛岡・土淵小4）・館野陶子（種市小4）・中島碧海（杜陵小5）・菊池梨花（江釣子小5）・柴田光樹（大浦小5）・山内良志乃（羽場小6）・井出佳介（鶴飼小6）・高橋明希子（江釣子小6）

第70回記念賞Ⅱ 伊山 瞳（大浦小1）・中島梨耀（山岸小2）

▽出品作品数

日本画8点、洋画8点、版画8点、彫刻6点、工芸8点、書道8点、写真8点、デザイン8点、現代美術8点、水墨画8点



▶戸町コミュニティセンター



▶奥州市文化会館

阿部莉乃（城北小3）・高村琳惶（米内小4）・林崎奈央（江釣子小5）・前田侑那（鶴飼小6）

《審査評》

今年度の審査会は、10月10日、盛岡市立中野小学校を会場に、21人の審査員によって行われました。会場には子ども達が思いを込めて描いた3864点の作品が県下50校から寄せられました。子ども達の作品から、図工の時間に生き生きと描いているようすや「できた!」と喜ぶ表情が目に見え、審査員が皆、幸せな気持ちで審査を進めることができました。

出品された作品を見ると、低学年は花や動物を題材にしたものが目立ちました。中学年は物語や空想から生まれた絵が多く、高学年は生活の一場面や学校近くの建物などを描いた絵が多く見られました。また、低学年はクレヨンを中心に水彩絵の具も使ってぐいぐいと思いのままに描く傾向がありました。中学年になると水彩画の技法に慣れ、にじみや重ね塗りなどにも挑戦する絵も見られました。高学年では、色彩を追究したり、明暗や遠近感を表したりしてよりリアルな表現を求める絵も多く見られました。また、子どもが思いを個性的に表現できるように、様々な技法を指導者がよく研究していることにも気付かされました。さ

らに、多様な表現を促すため、教室の環境の設定にも力を入れ、ローラーやペン、色画用紙やキャンパス紙、ボール紙などを準備するなど、子どもが自分の思いにぴったりの色や材料、技法は何か、選択し追究することができるよう設定していることも分かります。

低・中・高学年の部それぞれの芸術祭賞の作品等について述べたいと思います。

低学年の部芸術祭賞の江釣子小2年生菊池彩希さん「雨でもたのしい」は、クレヨンの下描きに、絵の具でリズムカルに彩色し、カラフルなカサをさして歩いた雨の日の楽しさが画面全体から伝わってきます。カタツムリやあじさいとの会話やカサに当たる雨粒の音すら聞こえて来そうな、豊かな感性が感じられる感動的な作品です。芸術祭賞の候補になった優秀賞の城北小1年生の齋藤晃大さんの作品「ちいたあのおえ」は、チーターと遊ぶ子どもの笑顔と強調された長い尾が面白く、楽しい想像の世界に心が惹かれます。

中学年の部の芸術祭賞の湯本小3年生渡辺夢頼さん「手ぶくろを買いに」は、子ギツネと母ギツネの物語の一場面を情感豊かに描いています。雪が積もりかけた美しい山々が重なり、道に残された子ギツネの足跡は心細さを表しているようです。そんな子ギツネを優しく見守る母ギツネの

姿も小さく描かれています。この作品と最後まで芸術祭賞を争ったのが、大浦小4年生伊山百華さん「何をあげようかな」です。物語「ごんぎつね」の一場面を多色木版画で幻想的に表現しており、素晴らしい作品です。奇しくもどちらもギツネの登場する物語の絵の対決となり、審査はとても白熱しました。

高学年の部芸術祭賞の杜陵小6年伊山結人さん「岩手銀行赤レンガ館」は、学校の近くにある歴史的な建築を正面からとらえた作品です。水彩画の透明感を生かして色を重ね、堂々とした建物の存在感やレンガの味わい深い色合いを追究した魅力的な作品です。作者がこの建物を見た時の感動がストレートに伝わってきます。芸術祭賞の候補となった優秀賞の厨川小5年生田代桜雪さん「羽をひろげろくじゃく」は的確に形をとらえるとともに、丁寧な「青や緑を重ねて画面いっぱいに広がった羽を表現し、とても美しい作品です。

最後になりましたが、県内のたくさんの中から個性的で素晴らしい作品を応募いただき、心から感謝いたします。また、感性豊かな作品を描いたみなさん、子ども達の個性を引き出し、より美しい造形表現を目指す子ども達の学習を支援してくださった指導者のみなさん、そして応援してくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。また来年

も素晴らしい作品と出逢えることを楽しみにしています。

(松園小学校長 高橋眞司)

◆小学校書写部門

芸術祭賞Ⅱ 渡辺真央（岩大附属小2）・渡辺果歩（岩大附属小4）・八木橋晃也（城北小6）

優秀賞Ⅱ 高橋紗帆（向中野小1）・菅生聖那（岩大附属小1）・柳谷祐希（鵜飼小1）・田澤佳歩（向中野小2）・堀米翔子（岩大附属小2）・佐藤翔一（岩大附属小2）・松村 滯（東松園小3）・玉井瞭平（滝沢東小3）・柳谷咲希（鵜飼小3）・柴垣琴乃（北松園4）・佐藤優亮（岩大附属小4）・古館歩奈（岩大附属小4）・西川さくら（青山小5）・斎藤美咲（滝沢東小5）・遠藤美佑（石切所小5）・馬場悠歌（津志田小6）・吉田彩乃（津志田小6）・越前はな乃（岩大附属小6）

奨励賞Ⅱ 神崎結衣（向中野小1）・古館杏梨（岩大附属小1）・梅津果歩（岩大附属小1）・高橋乃愛（青山小2）・堂前詩乃（河北小2）・渡辺菜月（岩大附属小2）・瀬川ちひろ（城北小3）・菅生紅恋葉（岩大附属小3）・山生帝雅（滝沢・滝沢小3）・菅生結来（青山小4）・横沢希和（津志田小4）・伊藤桃子（岩大附属小4）・三浦悠唯子（杜陵小5）・小向琉月（盛岡・中野小5）・柿崎千歳（鵜飼小5）・藤原 蘭（手代森小6）・高村 汐（白百合小6）・小原日菜（滝沢・

滝沢小6）

第70回記念賞Ⅱ 鈴木武尊（向中野小1）・中村 尊（岩大附属小2）・千葉夏希（滝沢東小3）・安野太陽（桜城小4）・大平瑞希（御辺地小5）・山生奈月芽（滝沢・滝沢小6）

《審査評》

今年度の応募作品数は、硬筆作品1022点（1、2年生）、毛筆作品1754点（3～6年生）でした。

今年度応募数が増加に転じたことから、各校で関心をもった取組みがなされたことがうかがわれます。

【1年生】

一字一字丁寧に書かれている作品が多く見られました。基本点画の「とめ、はね、はらい、むすび」に気を付けて書いている作品が多く、入門期の文字指導が行き届いているということを感じました。

今後の課題として、句点、濁点の位置や大きさに気を付けること、「る」や「ん」の折り返しの運筆に慣れること、課題本文と名前を書くときに使用する筆記具の太さのバランスを考えることの3点が挙げられます。これから、練習を重ね文字感覚を養いましょう。

【2年生】

最後の文字まで丁寧に書かれている作品が多く見られま

した。次の点が課題です。

- ・「風」のそりとはねの方向に気を付けて書くこと
 - ・「走」の右はらいに気を付けて書くこと
 - ・「る」「は」「ま」の結びの形に気を付けて書くこと
 - ・漢字と平仮名の大きさに気を付けて書くこと
 - ・線書き練習を十分に行うと、線の震えがなくなります。
- これからも練習を重ねていってほしいと思います。

【3年生】

小学校書写で初めて毛筆の学習に取り組んだ3年生。縦画、横画、右はらい、点、曲がり、はね等多くの要素を含む課題でした。

入賞、入選した作品は十分に練習を重ね書かれたものが多く見られました。始筆や終筆にまで気を配って書かれ、力強い作品になりました。

本文の練習に加えて名前の筆使いや大きさにも気を配ると、作品としてより見応えのあるものになると思います。

【4年生】

4年生の課題は、へんとつくりの組み立てがポイントとなりました。具体的には、「のぎへん」の2画目を右上がり、5画目を点にして、へんとつくりの1画目が入り込むようにすることです。入選作は、へんとつくりの組み立てが考えられているものが多く、普段の学習の成果

が現れていました。

半紙の中心に文字の中心が来るようにすると、さらにバランスが整います。学校名を入れることと学年は書かないということは、徹底してください。

【5年生】

5年生の課題は、11画と8画の文字ですが、上下のバランスに気を付けて書かれていました。「進」の「ふるとり」の筆順も正しく書かれており、ご指導の賜と感心いたしました。

課題として、「しんによう」の3画目の始筆が右上がりを意識すること、「しんによう」の右はらいをしっかりとめてから書くこと、「歩」の8画目の「はらい」は直線的ではないように書くことに気を付けていただくとさらによりよい字になると思います。

【6年生】

6年生の課題は、3つの部分の組み立て方と左右の組み立て方がポイントでした。横画のゆずり合いや上下の空間のとおり方、中心のそろえ方等、配列に注意が必要でした。また、「街」と「灯」の画数の違いも意識して書くことが大切です。画数の多い「街」は「灯」よりも心持ち大きく書かないと窮屈に見えてしまいます。

文字の組み立て方や配列を意識し、名前を含めた紙面全

体のバランスを考えてひとつの作品を仕上げていくとまとまりのある作品ができ上がると思います。

（盛岡市立杜陵小学校副校長 吉田淳子）

◆中学校美術部門

芸術祭賞Ⅱ三谷典加（下野橋中2）・佐々木菜穂（岩大附属中3）

優秀賞Ⅱ吉田彬人（岩大附属中1）・久道菜々子（上田中2）・川上航平（岩大附属中3）

奨励賞Ⅱ佐々木海音（下橋中1）・黄川田笙人（下橋中2）・邊 華蓮（城西中3）

第70回記念賞Ⅱ帷子晴析（城西中1）・瀬川まお（雫石中2）・鎌田 思（岩大附属中3）

《審査評》

今年度の第70回記念展には、県内の中学校16校から434点の応募がありました。厳正な審査の結果、入賞11点、入選110点を選ばれ、その中から入賞作品を含む36点が県内を巡る巡回展に選ばれました。

審査全体を通して、生徒の皆さんが美術の学習に熱心に取り組み、構想や思いを深め、しっかりと自分の作品に向き合っている姿勢が伝わってきました。また、どの作品も

主題やイメージに合わせて試行錯誤を重ね、技法や用具の使い方などを工夫し、学年に応じた感性豊かな素晴らしい作品をつくり出していることに感心しました。

【第1学年の作品について】

中学生になって半年、生徒の皆さんが美術の時間や写生会で一生懸命に取り組んだ熱気や真剣さが伝わってくる作品ばかりで大変嬉しく思いました。

美術の基礎基本を丁寧に扱い、完成度の高い作品に仕上げたものが多く、これからの成長がとても楽しみです。

【第2学年の作品について】

1学年で学んだ美術の学習内容を基に、風景画や静物画は、対象への鋭い観察力と描写力を発揮している作品が多く感じました。ポスターなどデザイン作品は、テーマや使用目的を的確に捉えて多様なアイデアで表現しており、技能の向上も含めて2学年らしい成長を嬉しく思いました。

今後は、さらに自分の思いや表現意図を大切にしたい表現活動を期待します。

【第3学年の作品について】

中学校3年間の美術学習の成果が最大限に発揮された個性あふれる作品が多数出品されました。主題が明確な自画像や風景画、デザイン作品など、生徒の皆さんが真摯に対

象と向き合っている姿から自己の世界をつくりだす達成感や喜びが伝わってきます。15歳の成長の証であり、秀作ぞろいです。

今後自分らしさや独創性を大切にして楽しんで表現活動に取り組んでほしいと思います。

【芸術祭賞】

「鮮緑」(下野中2年 三谷典加)

新緑のぶどう棚に差し込む柔らかな陽光、地面の陰影や棚の奥行きなど、作者の心をとらえた風景が抜群の描写力で表現されています。作者の感性の豊かさが伝わる秀作です。

「春の盛岡城跡公園」(附属中3年 佐々木葉穂)

春の息吹と生命力が鮮やかな色彩のコントラストの中で描かれ、神秘的で静寂な空間が見事に表現されています。草木の細部も思いを込めて丁寧を描き、印象深く美しい作品です。

【優秀賞】

「春の盛岡城跡公園」(附属中1年 吉田彬人)

新緑の香りを感じる公園の風景です。柔らかな青葉と重厚な幹、背景の丁寧に描かれた石垣の存在感が際立ち、構図もよく考えられており、作者の純粋な見方や思いが伝わる作品です。

「理科室の風景」(上田中2年 久道葉々子)

理科室の一角を鋭い観察眼でリアルに描き、独特の空気が伝わります。試験管や水道の蛇口、プラスチックの籠や暗幕など、その材質感を表現する抜群の描写力に感服しました。

「春の盛岡城跡公園」(附属中3年 川上航平)

鶴ヶ池を望む公園の新緑を丁寧な筆のタッチで描き、心地よい春の陽光を感じさせます。構図も素晴らしく、池の水面に映り込む木々や橋が見事に表現されています。

【奨励賞】

「新しい緑」(下橋中1年 佐々木海音)

新緑の季節、爽やかな陽光や空気を感ずる作品です。太く重厚な幹を描くことにより遠近感もうまく表現できています。池の水面に映り込む木々の葉のゆらめきが美しい作品です。

「雪の風」

雪の降り積もる公園の石垣の風景が見事な描写力で表現されています。ダイナミックな構図が印象深く、繊細な彩色や筆使いで、作者の対象への豊かな感動が伝わってきます。

「十五歳の自画像」(城西中3年 邊 華連)

今を生きる自分を見つめ、揺れ動く内面が画面全体から伝わってきます。折り重なる色彩の渦の中に、現実世界を

まっすぐに見つめる眼光が印象に残り、作者の感性の豊かさが伝わります。

【第70回記念賞】

「心の宇宙」(城西中1年 帷子晴祈)

色彩や美術の多様な技法の学習を基に、自分のイメージを個性的にまとめ上げています。画面構成を工夫しながら、丁寧かつ効果的に表現しています。

「見上げる」(雫石中2年 瀬川まお)

眩しい日差し、青い空に天高く伸びる樹木、太く乾いた幹、濃い緑が圧巻の描写力で見事に表現されています。作者の湧き上がる感動が伝わります。

「春の盛岡城跡公園」(附属中3年 鎌田 恩)

陰影と奥行きを意識して丁寧に描いた石垣と歩道が遠近感を上手に表しています。静けさとともに新緑の穏やかな風景が見事に表現されています。

(盛岡市立黒石野中学校 齊藤眞理子)

◆中学校書写部門

毛筆条幅入賞

芸術祭賞Ⅱ中村文香(下小路中3)

優秀賞Ⅱ橋本星那(滝沢・滝沢中2)・藤原 凜(滝沢南中3)

奨励賞Ⅱ小林優香(厨川中1)

毛筆半紙入賞

芸術祭賞Ⅱ大澤花音(北松園中3)

優秀賞Ⅱ平塚雅子(城西中1)・福士 朋(北陵中3)

奨励賞Ⅱ玉井しの(滝沢第二中1)・大矢胡晴(北陵中2)・和田 晟(北松園中3)

第70回記念賞Ⅱ志田菜々美(福岡中1)・若狭芽桃(津軽石中2)・関 恭花(城西中3)

《審査評》

平成29年度の中学校部門の応募総数は、昨年より30点程少ない1100点でした。しかし、出品校数は6校も増え、ここ数年の中で一番多く、嬉しい限りです。全校で取り組んでくださる学校も増加の傾向にあります。お忙しい中、熱心に取り組んでいただいた指導者の方々、生徒もみなさんに感謝申し上げます。

審査会は10月10日に盛岡市立城西中学校で行われました。審査員一人一人が、作品の良さをみとり、取り組みの様子を想像しながら慎重に審査しました。

その中で、入賞・入選された皆さん、本当におめでとうございます。展示会では自分の作品だけでなく、他の作品もよく見て、色々な表現の仕方、書きぶりなども学んでいただければ幸いです。

さて、各学年の審査で気づいた点をまとめました。今後の参考にしていただければ幸いです。

〈1年・半紙〉

中学生になり、積極的に行書に挑戦している作品が多く見られました。楷書、行書ともに、ムリのない運筆で線質が澄んでおり、爽やかな仕上がりの作品になっています。文字と余白とのバランスも良く、名前もよく練習されていました。字形は「へん」と「つくり」、「かんむり」と「あし」など文字の中の組み合わせが難しかったようです。行書は、さらに筆脈を通すことや、はねの方向などに気を付けて書くことを期待します。

〈1年・条幅〉

1年生らしく、伸び伸びとした筆致で、墨量もたっぷりとし、筆遣いもなめらかで書き込んだ作品が多く見られました。また、本文と氏名とのバランスがよい作品が多かったです。一方で「河」の字形のとり方に苦勞の跡が見られました。「へん」と「つくり」の配置を意識し、次の画に向かって筆脈を通すことに気をつけるとさらに魅力のある作品

〈2年・半紙〉

3学年の中で一番多い出品数でした。行書の特徴を理解し、筆遣いもなめらかで書き込んだ作品が多く見られました。また、本文と氏名とのバランスがよい作品が多かったです。一方で「河」の字形のとり方に苦勞の跡が見られました。「へん」と「つくり」の配置を意識し、次の画に向かって筆脈を通すことに気をつけるとさらに魅力のある作品

品になると思います。

〈2年・条幅〉

どの作品も字形が整い、筆遣いに迫力が感じられる作品でした。漢字と平仮名の大きさのバランスに気をつけるとさらに作品全体が整うと思います。

〈3年・半紙〉

漢字・ひらがなが3字ずつの課題でしたが、入賞した作品は、紙面にバランス良く調和させて仕上げられていました。行書の筆脈に留意した、3年生らしい成長を感じさせるまとまりの良い作品が多く見られました。6文字目まで集中力を切らさずに書き上げる作品が増えると良いと感じました。

〈3年・条幅〉

全体的にレベルが高く、どの作品も紙面の大きさに負けない、のびやかな線質で書かれていました。よく書き込まれた、完成度の高い見応えのある作品が多かったと思います。

半紙の部で芸術祭賞を受賞した北松園中学校の大澤花音さんの作品は、筆脈が一貫し、隅々まで心が行き届いていました。線に潤いと伸びやかさがある作品です。

同じく条幅の部の芸術祭賞、下小路中学校の中村文香さんの作品は、丁寧な筆遣いで充実した線質です。落ち着い

た中に気品を感じさせる作品です。

たくさんさんの素晴らしい作品に出逢い、感動いたしました。次回も、県内多くの地区、学校から、たくさんさんの応募をお待ちしております。

（城西中学校教諭 小野寺弥生）

第70回岩手芸術祭小・中学校美術展 応募状況

項目	部門	小学校絵画	小学校書写	中学校美術	中学校書写	合 計
応 募 点 数		3,864	2,776	434	1,010	8,084
応 募 学 校 数		50	71	16	38	175
入 賞 者 数		45	45	11	13	114
入 選 者 数		450	552	110	234	1,346
入 選 の う ち 巡回展出品数		36	96	25	113	270

中学校美術部門・書写部門芸術祭賞



▲「春の盛岡城跡公園」
岩手大学教育学部附属中学校
3年 佐々木 菜穂



▲「鮮緑」
盛岡市立下橋中学校
2年 三谷 典加

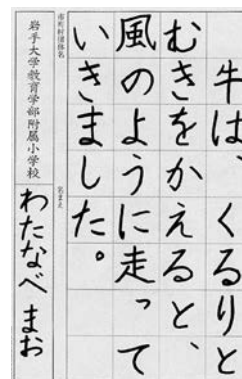


▲盛岡市立北松園中学校
3年 大澤 花音



▲盛岡市立下小路中学校
3年 中村 文香

小学校絵画部門・書写部門芸術祭賞



▲岩手大学教育学部附属小学校
2年 渡辺 真央



▲「雨でもたのしい」
北上市立江釣子小学校
2年 菊池 彩希



▲岩手大学教育学部附属小学校
4年 渡辺 果歩



▲「手ぶくろを買いに」
花巻市立湯本小学校
3年 渡辺 夢頼



▲盛岡市立城北小学校
6年 八木橋 晃也



▲「岩手銀行赤レンガ館」
盛岡市立杜陵小学校
6年 伊山 結人

巡回小・中学校美術展

小・中学校美術展におけるすべての入賞作品と入選作品の中から巡回用に選定した作品を、県内各地で巡回展示した。県内の児童、生徒をはじめ、広く県民に鑑賞の機会を提供するとともに、児童・生徒の創作活動の向上に資するために実施しているもので、今回が41回目になる。

小学校絵画81点、小学校書写141点、中学校美術36点、中学校書写126点、合計384点を巡回展示した。期間は12月16日(土)～平成30年2月4日(日)までの11日間、5市村で開催し、入場者は835名であった。

▽巡回日程・会場

12月16日(土)・17日(日) 九戸村公民館
12月23日(金・祝)～24日(日) 久慈市文化会館
平成30年1月19日(金)・20日(土) リアスホール(大船渡市)
1月26日(金)～28日(日) 宮古市民文化会館
2月3日(土)・4日(日) イオンタウン釜石イベントスペース



▶久慈市文化会館



▶大船渡市民文化会館

演劇

演劇部門の公演は、県内5か所で行われた。

〔盛岡地区〕

10月28日(土)～29日(日)
盛岡劇場・タウンホール
劇団ゼミナール第33回公演
「シ・ア・タ・ー」

〔県南地区〕

平成30年2月25日(日)
日本現代詩歌文学館(北上市)
北芸の会
「朗読劇と詩の朗読―相澤史郎作品集から―」

〔沿岸地区〕

11月19日(日)
宮古市民文化会館
劇研麦の会第76回定期公演
「朗読劇『サルと人と森』・海の墓標」

〔県北地区〕

12月24日(日)

二戸市民文化会館／大ホール
二戸市演劇協会「the・雲人第36回公演
「銀河鉄道の夜」

〔市民劇場〕

平成30年2月25日(日)
縄文ホール(一関市)
第19回一関藤沢市民劇場
「弥栄神社外典『砂子田村騒動記』」

《講評》

〈劇団ゼミナール〉

第70回右手芸術祭演劇部門は、劇団ゼミナールの第33回目の本公演として行われた。

劇団ゼミナールは平成元年に旗揚げし、「肩の凝らない軽演劇」をモットーに、コメディーを中心とした、幅広い年代の方々が楽しめる舞台の上演を続けて来た。劇団ゼミナールの本公演の脚本は、第2回公演より劇団主宰であり座付作家でもある斎藤英樹の作品のみを上演し、本公演以外の特別公演やプロデュース公演などでは、既成脚本や劇団員による創作脚本の上演にも挑戦している。

東日本大震災後すぐの4

月、盛岡で最初に演劇を上
演したのは劇団ゼミナール
だった。最大余震の翌日か
らの公演にも関わらず、た
くさんの観客が会場に足を
運び、会場は笑いの渦に包
まれた。誰かを笑顔にし、
その笑顔がまた誰かを笑顔
にする。自分たちの使命を
感じた公演だった。

今回上演した「シ・ア・タ・
ー」は完全なるコメディ
であり、劇作上の構造とし
ては、フィクションであることや舞台上での出来事である
ことを前提とした上で、そのことを観客側に共通認識させ
ることで生まれる笑いを目指した展開とした。

観客のアンケートでは、ストーリーの内容やセリフ、役
者の動き等、芝居そのものを楽しみ、笑って下さったとい
う内容のものが多く、大変嬉しく感じたと同時に、脚本の
構造やストーリー展開、作者の意図する狙いについて共感頂
いたもの、或いは考察を加えて頂いたものなど、作り手の

▲劇団ゼミナール



創作意欲を刺激する内容のものも多く、演劇の盛んな町と
言われる盛岡の文化度の高さ、演劇リテラシーの高さを再
認識した。

第70回岩手芸術祭に参加したことで、盛岡という地で演
劇活動が行えることを誇りに思いつつ、今後も自分達の表
現を発信していきたいと改めて思うことが出来、本当に良
かった。劇団旗揚げ30周年に向けての素晴らしい追い風と
なる公演であり、劇団の新たな代表作と言える作品となっ
た。関係各位に感謝申し上げます。

(斎藤英樹)

＜北芸の会＞

「ホッと一安堵」

標題の如く、ホッと一安堵の心境一人の毎日です。
やっと幕が降り、と同時に肩の荷が下りひと息ついてお
ります。

今回の公演は本公演当日に至る迄、苦渋の日々が続いて
おりました。

当初の公演日は二十九年十二月十日でした。翌十一日は
一年前に遠く旅立たれた、「北芸の会」の産みの親であり
座付作者を自称しておいで相澤史郎先生の一周忌に当る
ので先生の追悼公演と銘打っての舞台を、代表作の「二人

爺イ」を新な配役でと案を練り着々と進んでいたのですが
主役を担う一人の身に度重なる身内の不幸が重って二転三
転し、公演日の延期、出し物も初期の相澤作品の「さいは
ての女」(二人芝居)に変更の止むなきに至ったのです。

その役を言い出さしつべの私が受けてはみたものの一人
は荷が重かったので他の二人に声を掛け一場面ずつ分ち合
ってとの思いは見事に拒まれ、結果文字通り一人芝居を背
負ったのでした。作者の相澤先生のご意向かも…と一人合
点して受けて立った舞台で
した。文字通り四苦八苦、
七転八倒の二カ月でした。
本舞台の二月二十五日は
稽古不足が如実に現れまし
た。

音と明りの不調和。出来
はせいぜい五十点かしら？
観客数も百名足らず…。
諸々の事情が重っての惨た
んたる実情に意気消沈の
体。兎に角、終わって一安
堵。

今回は演劇協会に諸々の



▶北芸の会

＜劇研麦の会＞

「海の墓標」について

昭和四十三年に書かれたこの作品は、海難事故で死んだ
息子の保険金で新しい家が建つという設定。そして、そこ
に残された人々の心の葛藤が書かれている。

相変わらず人員不足、男性役を女性が演じる事とし、や
っと公演一ヶ月前にキャストが揃った。しかし、勤務の都
合でなかなか稽古に参加出来ない人もいて、代役での稽古
を余儀なくされ、やっと本番一週間前でも何んとか形になっ
て来た。本番前日、市民会館大ホールの上には大道具
がセッティングされ、役者も全員揃い、今だかつてない熱
のこもった迫力ある充実した稽古となった。

本番当日、稽古不足のセリフ忘れがあったものの、プロ
ンプに助けられ無事終了した。しかしその他の反省として
全体にセリフがはっきりしない、進行が思いがけず早過ぎ
て、お客様が話の内容が判からなままま終ってしまった。
やはりプログラムにあらずじを載せた方がよいのではない

か。等々、今後の課題としたい。

朗読劇「サルと人と森」について

人間の驕り、高ぶりを老サルが戒める話。

何度読んでもむずかしい。お客様に理解して頂ける読み方はどうしたらいいか。何度も話し合い、台本に忠実に、はつきり、ゆっくり読む。そして伴奏はピアノをお願いしたオリジナルでの演奏という事とし、稽古の度、試行錯誤を重ね、無事上演終了した。この固い話にピアノが入り、やさしく、又力強くクオリティの高く出来た事は、今後の活動の糧となった。

最後に、舞台セッティング、照明等、スタッフ不足の所、市民文化会館の職員の皆様には大変お世話になりました。そして又、色々の方々に御協力、御支援を頂き無事公演が終了しました事に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

（田代美津子）



▶劇研表の会

〈二戸市演劇協会 The・雲人〉

二戸演劇協会 The・雲人、アイキッズの36回目の定期公演は、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」。久々のストリートプレイである。ここ数年、ミュージカル公演が続き、それに慣れている子ども達にとっては、難しさもあったが新鮮だったようだ。賢治独特のセリフの言い回しや思想の表現に四苦八苦しながら、約4ヶ月程の稽古期間で創り上げた舞台だ。

子供組は小学校高学年、高校生、大人組は20代、50代と年齢層が幅広く居て、キャストについては適材適所、無難にまとまっていたと思う。純粹さが伝わる子どもの演技と大人の安定感ある演技が良い味になっている。

公演のフィナーレには、『子ども劇団みやこデイズ』のメンバーに登場いただき、出演者と共に合唱した。今回、県内で活動する



▶二戸市演劇協会 The・雲人

他の劇団と交流する事が出来、お互いに刺激となり、今後、よりよい舞台創りに向かうのだろう。

今回の「銀河鉄道の夜」は、映像と音響効果を巧みに使い美しい舞台に仕上がった。

公演日がイヴ（12/24）という事があってか、あるいはPR不足によるものか、観客動員数に結び付かなかったのが残念でならない。今後の課題である。

「本当の幸せ」とは何かを考えてみようと思います。静かに心に染みて感動しました。もう一度、本を読み返してみようと思います。ありがとうございます。

がんばって下さい!!

——等々、アンケートに嬉しい記述が多くあった事を付記する。

（永田由美子）

〈一関藤沢市民劇場〉

一関藤沢市民劇場は、一関市藤沢地域の史実や物語を題材として、原作、脚本、演出、キャスト、スタッフのすべてを地域住民が担い、藤沢文化のセンター「縄文ホール」の舞台で繰り広げる手づくり演劇である。

平成12年2月の初公演以降、今回が19回目の地元公演に

なるが、その間、東京、盛岡、仙台、横浜でも公演し、地方の文化を中央に発信してきた。

今回は、藤沢町砂子田地区を舞台とした創作劇となっているが、処女作「森に消えた十字架」以降12回目となる新作である。

さて、今回砂子田地区を舞台に取り上げることになったのは、皆川洋一実行委員長が前回の開演挨拶の中で「来年は砂子田地区をテーマとする新作を発表する。」と言ってしまったからである。

キャストをメンバーとする脚本政策班は、前回の公演が終わってから早速新作づくりに取り組んだが、砂子田地区に伝わる伝説や物語が誰も思い浮かばない。

唯一、地区内の弥栄神社が別の場所から移転されたものだという説が残っていた。神社の古文書がないか神社の役員に聞いたが、火災によって全て焼失してしまったとのことであった。



▶一関藤沢市民劇場

このような経過があり、今回の脚本のほとんどは創作である。しかし、アンケートの回収結果では、大変良かった、良かったと評価する観客が76%（無回答23%）を占め、ほとんどの人から良い評価を得ることができた。

今回、何もないところから人に感動を与える脚本を作り上げた脚本制作班や人数不足により一人二役を演じたキャスト、そして、場面転換の早さが取り柄の当市民劇場では背景画や大道具は極力作らない方針であるが、今回長い時間をかけて神社の鳥居を製作したスタッフを褒めたいと思う。

（千葉松男）

映像

〈映像フェスティバル〉

11月18日(土)～19日(日)

もりおか町家物語館浜藤ホール

「映像と演劇のコラボによる映画『蛾と笹舟』」

《講評》二〇一七年、夏から秋にかけて怒涛の如くは走り切った映画「蛾と笹舟」の撮影は、キャスト・スタッフの汗と歓びが詰まった貴重な思い出で満ち溢れている。

「劇団赤い風」が平成4年に本県初の直木賞受賞作「蛾と笹舟」（作・森莊巳池）の映画化を模索したが映像製作の難しさから企画は頓挫したという。

その頓挫した年に生まれた私は、25年の時を経て結実するこの念願の企画に参加できることの喜びを噛み締めた。

私は市民公募のスタッフ一員として参加した。「よいスタート」と「カットー」の掛け声が響く現場は、見るもの触るものすべてが新鮮で撮影の度に胸が躍った。

坂田裕一監督のしなやかな的確な演出によって、赤い風の俳優をはじめとした芸達者たちの演技が光り、その鮮やかな一挙手一投足を逃さんとばかりに千葉真一撮影監督が鋭い眼差しでカメラを向ける。美しく力強い映像を録音

や照明でサポートするのは県内各地から映像愛のもとに集まった市民スタッフたちである。地元盛岡から市民たちの手で後世に残る映像作品を生み出したいという強い情熱が参加者みなに共通していた。

映画は冬に完成し、待ちに待った上映の日は細雪が降っていた。それでも会場一杯になる程の多くのお客様にお越しいただき、江幡平三郎アナの軽やかな生の語りと作品世界を盛り立てる生演奏が映画をより重厚かつ魅力的に彩り、公演は大成功のうちに幕を閉じた。

この作品をここで終わらせてはいけないと思った。県内はもちろん、県外、夢は大きく海外でも上映したい。鉾屋町の古き良き町並みや盛岡に伝わる伝統的な行事、そして岩手の文化レベルの高さを他の地域に紹介できる映像作品となった。

衰退しつつあるという岩手の映像製作分野に大いな



▶映像フェスティバル

る希望の光を見た。今回の撮影で学んだことを生かし、自分でも映像作品を製作してみたいと思った。

貴重な経験を与えて下さった全ての関係者の皆様に感謝の気持ちで一杯である。

（藤原瑞基）

伝統芸能

能楽 謡と仕舞の会

11月5日(日)

午前11時開演

岩手県民会館中ホール

番組

素謡 (喜多流・盛岡)

金札 シテ 工藤長彦
マ 大櫻正行

藤野興吉

(地) 神田健幸

(地) 柏葉光利
野田宗義
小守林尚之

仕舞 (宝生流・宮古)

田村 キ 山口睦美

武田 勤
(地) 佐香秀彦
村山健一
牧原 登

素謡 (宝生流・盛岡)

龍田 シテ 菊池英雄
マ 八柳達也

館澤良子
(地) 浅沼京子
館澤フミ子

山田陽子

佐々木康勝
菊池英雄
八柳達也
多田義典

仕舞 (喜多流・北上・盛岡)

高砂 平野勇治

仕舞 (観世流・盛岡)

経正 キ 菊池昭二
紅葉狩 マ 金子琢磨

素謡 (宝生流・盛岡)

シテ 鈴木 勲
夜討曾我 シ(十郎)
シ(團三郎)
シ(鬼王)

三上敬夫
佐々木正明
遠藤秀雄

仕舞 (宝生流・宮古)

網之段 内村 茜

大光 昭
善財 清
(地) 菅原岩夫
熊谷 保
高橋 敏
小西幹夫
山坂昭二
(地) 古枝良子
高橋 弘
海老澤君夫
千田 實
吉田清三
(地) 佐野剛章
佐藤順一
館下 壽
武田 勤
(地) 佐香秀彦
村山健一
牧原 登

岩手芸術祭第70回記念祝言小謡

連吟

天下泰平 (観世流) 高砂

伊東碩子

金子琢磨

中村儀郎

小野信太郎

高橋 弘

小田島幸雄

天下泰平 (宝生流) 難波

三上敬夫

佐藤哲夫

佐藤宏明

広田 豊

佐野剛章

相澤 努

吉田清三

菊地新司

藤野興吉

神田健幸

中道俊之

柏葉光利

野田宗義

素謡 (喜多流・花巻)

シテ シテ 都島良美
押切光雄

通小町 マ 小田島真一

老松 キンダーホーム

連調 (喜多流・盛岡・一関)

(地) キンダーホーム
ひまわり組
(年長組三〇名全員)

仕舞 (喜多流・盛岡)
老松 キンダーホーム
羽衣 キ ひまわり組

藤澤美和子
蜂谷哲子
(地) 工藤典子
佐々木かほる
武田 勤
(地) 佐香秀彦
佐野剛章
村山健一
吉田昭吾

素謡 (観世流・盛岡)
富士太鼓 シ 山坂昭二
高橋雄賢 マ 佐々木一夫

高橋八郎
高橋 弘
(地) 金子琢磨
小野信太郎
小田島幸夫

仕舞 (宝生流・盛岡)

八島 松本敏之

仕舞 (宝生流・宮古)

女郎花 キ 牧原 登

太鼓 千葉万美子
太鼓 下川原令子
小鼓 武内公子
小鼓 工藤睦子
小鼓 高橋千賀子

仕舞 (宝生流・水沢)
蟬丸 小野慧子

山姥 菅原哲子

仕舞 (観世流・盛岡)

花筐 狂 荒川冴子

仕舞 (宝生流・宮古)

井筒 佐香美穂子

籠太鼓 萬 美恵

素謡 (喜多流・盛岡)

中道俊之

善財 清

(地) 菅原岩夫

大光 昭

柏葉光利

阿部 勝

(地) 佐香秀彦

岩崎眞平

小野寺正美

谷藤政子

(地) 千葉マシミ

古枝良子

土川律子

武田 勤

(地) 佐香秀彦

村山健一

牧原 登

渡辺新子

シテ 鈴木明美

ワキ 本堂信子

(地) 武内公子

金澤禮子

仕舞 (観世流・盛岡)

玉之段 土川律子

羽衣 狂 高橋美恵子

(地) 荒川冴子

古枝良子

千葉マシミ

仕舞 (宝生流・盛岡)

蜂谷哲子

羽衣 狂 高橋美恵子

(地) 佐々木加奈子

牧野トモ

素謡 (観世流・盛岡)

海老澤君夫 荒川礼二

松虫シテ 高橋孝市 小西幹夫 (地) 菊池昭二 中村儀郎 岡田 仁

素謡 (宝生流・盛岡)

菊地新司

シテ 相澤 努

山姥

(地) 鈴木 基

大場兵馬

伊藤 満

仕舞 (宝生流・宮古)

殺生石 村山健一

仕舞 (喜多流・盛岡)

龍田 狂 下川原令子

素謡 (観世流・盛岡)

小野寺由子

土川律子

井筒シテ 千葉マシミ 谷藤政子 (地) 荒川冴子 古枝良子

小原生子

伊東碩子

素謡 (喜多流・北上)

シテ 熊谷 保

紅葉狩 ワキ 齋藤 伸

仕舞 (宝生流・宮古)

武田 勤

八島 佐香秀彦

(地) 相澤 努

村上健一

牧原 登

素謡 (宝生流・水沢)

シテ 阿部 勝

ワキ 小野寺正美

ワキ 小野慧子

附祝言

(地) 菅原哲子

岩崎眞平

《講評》 能楽部門「謡と仕舞の会」は11月5日(日)午前11時から岩手県民会館中ホールにおいて、三流儀(観世流、宝生流、観世・喜多流)の出演により開催された。

番組は前掲のとおり素謡11番、連吟3番、仕舞18番、連調1番、計33番(昨年27番)、出演者数219名(昨年度202名)、曲目・出演者とも昨年度を上回った。

番組は、今回当番幹事の喜多流素謡「金札」(桓武天皇の勅使が伏見に赴くと天から金札が降ってくる。天下泰平を祝う。)から始まり、仕舞、連吟、連調と進行した。

前半中ほどに、岩手芸術祭第70回記念祝言小謡、各流儀による連吟となり、観世流は「高砂」(天下泰平)、続いて宝生流「難波」(天下泰平)、喜多流「養老」(不老長寿)の3番を披露した。

このあと、常連出演となったキンダーホームひまわり組

30名全員による仕舞「老松」（天神の末社となった老松の重厚な舞）・「羽衣」（天女の舞）が登場し、舞台一杯に堂々と繰り広げられた。屈託のない真剣な謡と舞は、客席から感心さと可愛さから笑みもこぼれた。

後半、仕舞と素謡をほぼ交互に展開したが、第70回記念として喜多流（盛岡・一関）による連調「月宮殿」は、囃子方の迫力ある拍子と地謡との絶妙な演奏で、華やかさも加わり、舞台映えがしてこの「謡と仕舞の会」の全般を引き締めた。

最後は来年度当番幹事の宝生流（水沢）による素謡「鵜飼」（殺生の面白さに取り付かれてしまった人間の業のかたち。）に附け祝言で、めでたくこの会を納めた。

出演者全般にわたって、高齢化は避けられないが、各流儀とも稽古を重ねた努力によって、観客に能楽の一端を理解していただけたものと想われた。



▶能楽

終わりに10月半ば、北上市内の高校で「能楽鑑賞体験学習」を行った流儀があり、生徒からは「能楽は思ったよりも楽しく面白かった。」との総合感想があった由。秘められた能楽の魅力を幅広く伝えていくことの努力が必要であろう。岩手芸術祭の更なる発展を願う。

▽実行委員 菊池昭二・佐野剛章

（工藤長彦記）

邦楽

邦楽のつどい

11月12日(日) 午後1時開演

岩手県民会館中ホール

演奏番組 ○…タテ

寿二会

嘉声会

糸音会

長唄 鶴亀

舞台面 三味線

上 福士幸雄

村田知左

木内佑佳

久光牧子

松岡裕子

唄

高橋真栄

廣澤俊子

稀音家六貞華

稀音家六貞鳳

○稀音家六田嘉

稀音家六貞帆

玉澤ヒナ

鎌田聡子

唄

○岸浪昭子

杵屋寿々福

杵屋寿二

杵屋勝由紀寿

三味線

○白築真夏

杵屋勝菊可

杉下佳奈子

中村純子

松木祐貴子
○杵屋松紀三

鈴木結葵

菊池歌奈

森田ゆかり

橘 麻子

平田光子

唄

杉下佳奈子

白築真夏

杵屋寿々福

杵屋勝由紀寿

岸浪昭子

杵屋勝はる寿

○杵屋寿二

杵屋勝寿重

杵屋勝友可

杵屋寿慧

藤村知子

中村純子

谷地とも子

渡邊祐子

糸音会
長唄 蓬萊

唄

寿二会

○杵屋喜太郎

長唄 五條橋

杵屋正則
三味線

○姉菌和子

唄

○杵屋勝由紀寿

杵屋寿二

杵屋寿々福

三味線

○藤村知子

杵屋勝友可

中村純子

嘉声会

長唄 角兵衛

○稀音家六貞華

糸音会
長唄 菖蒲浴衣

玉澤ヒナ

稀音家六田嘉

谷地もと子

鎌田聡子

高橋真栄

三味線

○稀音家六貞帆

福士幸雄

唄

○杵屋喜太郎

杵屋正則

三味線

○松岡裕子

平田光子

村田知左

橘 麻子

常磐津文字会

長唄 岸漣漪常磐松島

久光牧子

木内佑佳

杵屋松紀三

唄

○杵屋勝寿重

杵屋勝友可

藤村知子

杵屋寿二

杵屋寿慧

三味線

○杵屋勝はる寿

岸浪昭子

杵屋寿々福

上 杵屋勝菊可

浄瑠璃

○佐藤礼奈

藤村知子

三味線

○常磐津治衛

常磐津紫緒

嘉声会

長唄 犬神

糸音会

長唄 元禄花見踊

唄

○杵屋喜太郎

杵屋正則

三味線

○鈴木結葵

菊池歌奈

杵屋松紀三

唄

○福士幸雄

稀音家六貞帆

廣澤俊子

稀音家六貞鳳

三味線

○稀音家六田嘉

渡邊祐子

稀音家六貞華

寿二会

長唄 時雨西行

常磐津文字会

長唄 戻橋恋の角文字

高橋真栄

浄瑠璃

○常磐津てる衛

常磐津洋志衛

岸浪昭子

室岡提子

三味線

○常磐津治衛

常磐津紫緒

《講評》 第70回岩手芸術祭参加「邦楽のつどい」は、『未来を彩る 岩手の芸術 みんなで刻もう 新たな歴史』をテーマにして、11月12日(日)午後1時より岩手県民会館ホールで開催されました。当日は、午前中は良い天候と温かな陽気に恵まれました。今年度から新たに加入した糸音会（会主は杵屋松紀三師）の出演もいただきまして、番組数が多くなり、また若いお弟子さんが見事な演奏を披露してくださいまして、会に花を添えていただきました。当日はお忙しいなか多くの皆さまが会場に足を運んでくださいました。たくさんの方の皆さまにご来場いただき演奏を聞いてい

ただきまして、当日は華やかな中にも厳かで緊張感と活気のある演奏会となりました。

舞台は、まず寿二会・嘉声会・糸音会による34名の合同ステージ長唄「鶴亀」で荘重な中にも優美かつ華やかな雰囲気が始まりました。有名な番組でもあり会場の皆様も聴き入り、素晴らしい演奏が披露されました。日頃の練習の成果がよく出ており、私たち自身が大変勉強になりました。演奏会は、その他に寿二会による長唄「末広狩」「五條橋」「時雨西行」、嘉声会による長唄「角兵衛」「犬神」、糸音会による長唄「蓬萊」「菖蒲浴衣」「元禄花見踊」、そして常磐津文字会による常磐津「岸漣常磐松島」「戻橋恋の角文字」をそれぞれ演奏し、いずれの社中もその物語や情景・心情などに迫り、そして内容に引き込まれる素晴らしい演奏を披露いたしました。演奏会は最後まで熱心に耳を傾けてくださる会場の皆様の支えをい



◀ 邦楽

ただきながら、盛会のうちに幕を閉じました。

会員一人一人は、本演奏会で学んだことを活かし、来年度の「邦楽のつどい」に向けて、さらにレベルアップした演奏が披露できるよう、また多くの皆様方にご来場いただけるよう、さらに精進と研鑽を積んでいきたいと思いを新たにして稽古に励んでいるところでございます。

(文責 岩手邦楽協会 会長 福士 幸雄)

▽実行委員 福士幸雄 室岡提子

茶道 茶会 10月1日(日)

盛岡市中央公民館

一席 広間

煎茶道三彩流岩手支部彩茗会

主 吉 田 望 峰

寄付

掛物 山中茶遊図

馬骨子才林

盛物 秋山香趣

本席

幅 蓬来会

黄檗 巨令興宗

花 百事同室

花入	南蛮手	三代	三浦竹泉
床飾	黄楊如意		時代
炉屏	文房四宝		唐物他
香合	結び	画	馬骨子才林
器局	桐	指物師	誠雲
涼炉	靈芝風門	初代	大丸北峰
ボーフラ	紅安南	書	行朗仁傳
瓶敷	竹編	画	田能村直外
茶心壺	祥瑞童子遊図		三国丹祐
茶合	仏手柑	五代	三浦竹泉
急須	着彩花卉図		玉置玉泉
茶碗	王羲之の図	三代	三浦竹泉
替	花鳥紋		三浦篤
茶托	木瓜型	二代	松下喜山
水注	紅着彩龍紋		三浦竹軒
巾筒	御手本		仲
落葉壺	海鼠		唐物
鳥府	六角高台	三代	和田鱗司
羽箒	鷺(塗柄)		

火箸 瓦頭鉄四方
菓子器 寄せ木
菓子 名月
茶 雲上の碧

成古

金指喜久次
山善菓子舗
よろづ園

二席 別館和室（書院の間）

裏千家淡交会岩手支部

主 高野 宗慶

寄付

床 淡々斎筆 茶碗の絵：能楽鶴亀の一節

本席

床 鵬雲斎大宗匠筆 松菊萬年歛

花 季のもの

花入 竹一重 銘 庵の友 鵬雲斎大宗匠在判箱 正玄造

香合 宝珠 土佐光貞蒔絵 認得齊在判 坐忘斎家元箱

風炉先 鵬雲斎大宗匠好 渦紋腰 紫竹堂製

釜 淡々好松地紋 千歳釜 淡々斎押花鍔込

大西十四代 淨中造

風炉 唐銅松透切合

長板 黒

輪島塗

水指 新渡松竹梅染付 太鼓胴 坐忘斎家元箱

薄器 独楽紋香次棗 利休三百五十年忌好 淡々斎在判箱

十一代 宗哲造

茶杓 坐忘斎家元自作 銘 松聲

茶碗 赤楽 銘 群雲坐忘斎家元箱 九代 了入造

替 黄瀬戸 鵬雲斎大宗匠箱 貞光造

替 紅葉 鵬雲斎大宗匠箱 善五郎造

蓋置 竹 淡々斎好銀杏蒔絵在判箱 一双の内 利斎造

建水 淡々斎好 唐銅口糸目 大西十四代 淨中造

茶 坐忘斎家元好 長久の白 祇園辻利詰

菓子 吹上菊 山善製

器 波蒔絵高坏 鵬雲斎大宗匠在判箱 十二代 宗哲造

煙草盆 銀閣寺古材ヲ以テ 慈照寺大龍和尚山水画 不賢

火入 赤毛煙草葉文 デルフト製

三席 聖風閣

江戸千家岩手不白会

主 星 山 宗淑

寄付

掛物 蔓梅もどき

本席

床 千秋万歳 川上宗雪筆

花 季のもの 同箱

鈴木華邨画

花入 朝鮮唐津

香合 一閑張 鳥

風炉先

釜 菊桐透木

風炉 独楽型

棚 亀甲棚 家元好

水指 仁清写 菊の絵

茶器 千鳥に塩釜蒔絵

茶碗 朝日焼

替 秋草

替

茶杓 銘 おみなえし

蓋置 六瓢

建水 曲溜塗

お茶 池の白

菓子 初秋

器 源内焼

青磁

六代 真清水蔵六作

インド製

逢春堂

宝積正一造

手塚石雲造

多田桂寛作

杉田祥平作

同箱

真葛香齊作

雅孝作

星野園詰

山善製

寄付

掛物 色紙 みのり

本席

掛物 月到 千家静

松茸の絵

耳付

花 季のもの

香合 折タメ香合 而妙斎箱

釜 霰釜

水指 染付葡萄 真葛焼

即中斎好立札卓

茶器 孔雀蒔絵平棗 即中斎箱

茶碗 黒楽 銘 宙

替 金砂子 松ノ絵 銘 千とせ

造 而妙斎箱 永楽

茶杓 即中斎自作 銘 渡り鳥

建水 サハリ 共筒共箱

蓋置 南繚七宝 漆園作

菓子器 オランダ写 六角食籠

菓子 豊年

茶 小倉山 竹芳

蓆盆 粒足蓆盆 而妙斎書付 漆園作

四席 大会議室

表千家同門会岩手県支部

主 大山 宗華

火入 而妙斎好 真葛焼
真入 人形手模様煙草入

近左作

五席 新館和室

武者小路千家岩手官休会

主 武 田 守 榮

寄付

掛物 農家秋草景色図 吉川保正筆

本席

床 清水森清範貫主筆 和

花入 手付かご 唐物

花 ときのもの

香合 しか 不徹斎在判

釜 真形 雅峯造 敬典造

風炉 唐銅 朝鮮

先 結界

水指 萩焼 康起造 雅峯造

棚 澤瀉棚 不徹斎在判

茶器 秋草蒔絵

茶碗 赤 木守写 有隣斎箱

替 仁清写蔦の絵 長楽造 秋峯造

茶杓 宙宝松月作 銘むし 小堀卓巖箱

ます。

茶席は5席あります。全席廻るのは大変なことです。が、席主さんの思いを感じつつ、貴重な時間を上手に使い、お席を廻っていらっしゃいました。又、待っている間、一期一会一期一会で初めてお逢いした方々と話が弾み、待ち時間を忘れていらっしゃるようでした。

伝統あるこの公民館で茶会ができることは席主として光栄に思います。

日本伝統文化の茶道をもっと若い方々に広め、この公民館の醍醐味を知ってほしいと思います。

700名からのお客様を迎える席主さん、それを陰から支え、お手伝いしてくださる方々の苦労は大変なことです。が、笑顔を絶やさず気持ちよく、楽しい一日を過ごすことのできたことに感謝して終わった茶会でした。

実行委員 鈴木宗基・平野宗憲

(星山宗淑)

華道

華道展

(前期) 9月1日(金)・2日(土)
(後期) 9月3日(日)・4日(月)

岩手県民会館 第1展示室・第2展示室

蓋置 菊透し 有隣斎箱

理平造

建水 砂張

菓子 山粧う

大丸屋製

器 染付鉢

《講評》

昨日の雨も上がり、肌寒い朝でしたが、受付開始30分前には、沢山のお客様がお待ちになりました。

平成29年10月1日、70回の節目の岩手芸術祭茶会が、華やかに開催されました。席主の方々もスムーズにいくように、一生懸命に席を改め、お湯の沸き具合を確認し、啓席9時半前に、お客様におはかりいただいておりました。公民館の館長様はじめ、職員の方々が、一生懸命に車の誘導をしてくださり、遠くからいらした方々もスムーズに駐車できたことを喜んでおりました。本当に頭の下がる思いでした。ありがとうございました。



▶茶道

○迎え花 猿子滋苑

○岩手華道協会創立70周年記念各流大作

1 青山流 古典
2 池坊 秋澄む 3 花芸安達流 未来 4 梶井宮御流
秋への粧い 5 松風花道会 希望 6 清泉古流 爽秋 秋
のはじまり 7 小原流 雅 8 青山御流 清麗 9 草月流
花は、私になる。 10 龍生派 Cosmic Flower 11 櫻花遠
州流 長月

○学生コーナー

▽前期 橋本珠江(太田東小3) 橋本恵太郎(太田東小6)
八重樫にこら(見前小6) 野崎愛菜(河南中2) 井上紗
華(盛岡白百合学園高2) 平賀 結(岩手女子高2) 福
士愛由夢(岩手女子高2) 白澤瑠奈(盛岡第二高3) 高
橋千寛(江南義塾盛岡高3) 館石さつき(盛岡二高3)
藤原なな香(江南義塾盛岡高3)

▽後期 小林沙穂(桜城小4) 小林瑠穂(桜城小4) 鈴
木芭奈(上田小5) 古川心優(上田小5) 小野寺七海(上
田小6) 小山倫佳(岩大附属小6) 佐々木風樺(津志田
小6) 勝呂佳乃子(津志田小6) 高橋由菜(上田小6)
宮崎理奈子(上田小6) 目時麻央(上田小6) 山本遙菜
(津志田小6) 川村 徹(松園中2) 外館咲子(大宮中3)
山本綾乃(黒石野中3) 川村華恋(盛岡白百合学園高1)
▽前期

《青山流》 吉田朋雅 工藤華交 勝又華泉
《池坊》 小原紫芳 菊谷華光 佐藤春陽 高橋佳光 高橋翠風 高橋豊嶺 田口芳秀 谷藤桂芳 千葉幸園 野中泰華 八戸春水 本間愛香 松尾啓芳 村井藤月 森田朋月 山下恵風 山崎政華 高橋満華 駒米桐華 小原信峰
《櫻花遠州流》 田川尚雅 高橋尚美 遠藤尚喜
《小原流》 小原宏華 小笠原豊香 松田萌花 藤森映肖 岩野恵華 新里芳洋 中田豊彩 佐々木光照 伊藤穂穂 小野寺幸園 島崎修華 金 春翠 金野豊雅 一戸一苑 河東田豊繁 武原竜波 大平秀湖 白井豊美 柏原豊洋
《花芸安達流》 田中創瞳 須藤佑瞳 菊池水瞳
《梶井宮御流》 中村素瑠 中村素葉 佐藤瑠花
《松風花道会》 高橋京水 佐藤悦水 渡辺美水 堂前鋭水 菊池颯水 伊藤京水 菅野信水
《青山御流》 武田栄郎 小原光衛 晴山伶雅 桂 静雅 伊山光雅 本川公雅 小林友雅
《清泉古流》 高橋一松 大内一優 安倍一慶
《草月流》 小田島峰泉 鈴木交川 山口晴汀 胡口美楓 豊嶋妙香 高橋雪鈴 山本雪苑 西山紅順 岩館香永 高城芳香 佛川和交 浅沼華春 阿部裕珀 大森和舟 種市交春 齋藤幸絹 中川季香 吉田清泉 渡辺雅仙
《龍生派》 小野寺東石 熊谷紀光 三浦翠光 菊池泰鳳

瀬川香寿 鈴木一水 佐藤鏡海 野沢素光 宮 鳳秀 畠山景華
▽後期
《青山流》 昆 啓雅 菊池紅雅 武田純雅
《池坊》 田口富月 六本木風香 小原静光 藤島玉風 佐藤竹幸 木村華鈴 小林翠雲
 山内亮香 大日向香玉 高橋圭月 小原華芳 佐藤弘竹 宮本幸草 中村直峰 細田芳節 千葉窓翠 山影喜香 相田恵草 大澤加祥 大川紫陽
《櫻花遠州流》 澤田里律 熊谷尚玉 井上喜勝
《小原流》 吉田華千 阿部豊翠 佐藤翠裕 横川豊月 藤村一花 箱崎一珠 海老豊洋 一井綾華 土橋豊静 竹林弘苑 仲村鴻洋 工藤一香 久保鳳仙 藤原枝光 小笠原一泉 藤村豊花 小山田光容 村山繚華 宮崎尚子
《花芸安達流》 田中眞瞳 浅沼育瞳 永野優瞳
《梶井宮御流》 西郷時峰 伊五澤瑠京 長内瑠政
《松風花道会》 玉山光水 藤原綾水 古館喜水 赤迫美水 瀬川敏水 鈴木智水
《青山御流》 桂 生陽 中河原恵雅 工藤律雅 滝田晃雅 守屋和雅 谷藤実雅 三本京雅
《清泉古流》 高橋一恵 三浦一美 金子一郁
《草月流》 上田光峰 山本智揚 亀井星雅 高橋真苑 柴

内千雅 黒川一晴 村上翠華 吉田正香 古澤恵峰 佐々木葉映 佐々木豊苑 森 枝幸 千田芳琴 猪狩華泉 岩船千澄 伊藤香陽 水原香庭 伊藤恵芳 吉田交麗
《龍生派》 千葉桂光 千葉麗沙 伊藤華水 佐藤光風 伊藤良洋 大村眞鏡 渋谷溪翠 佐藤賀仙 畠山華洋 高橋華杏

《講評》 岩手県民会館第1・第2展示室にて、第70回岩手芸術祭華道展が「未来を彩る岩手の芸術 みんなで刻もう 新たな歴史」をテーマに開催されました。前期は9月1日(金)・2日(土)、後期は9月3日(日)・4日(月)の日程で秋の季節を謳いあげました。

岩手華道協会創立70周年の記念すべき華道でしたので、公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長、菅野洋樹様、岩手県芸術文



▶華道

化協会会長、柴田和子様、株式会社岩手日報社代表取締役社長、東根千万億様をお招きしてのオープニングセレモニーのテープカット、11流派の大作、選抜作家達の作品前後期併せて194作、学生達の作品27作等、彩り豊かに展示して見応えのある華道展になりました。
 来場者も例年より800名も多く、2727名でした。伝統的で格調高い作品から現代的な造形作品、子供達の可愛らしい作品を楽しんでいた事ができました。
 これからも会員一同技術研鑽に励み、より良い作品を発表して日本の伝統文化のいけばなを次世代に伝えていきたいと思っております。
 (小原宏華)

吟詠剣詩舞道

吟詠剣詩舞道祭

10月29日(日) 午前10時開演

岩手県民会館大ホール

第1部(幼少年・青年)

1 春望

杜甫

陸中岳風会

2 室根山を詠ず
雨ニモマケズ

芦 東山
宮沢賢治

赤荻学童クラブ
陸中岳風会

「おくのほそ道」より「平泉」
芭蕉
一関市立油島小学校

3 山中月 真 山民 錦城流盛岡支部
4 児島高德 斎藤藍物 錦城流盛岡支部
5 九月十三夜 上杉謙信 岩手岳風会
6 偶成 朱熹 岩手岳風会

第2部（一般合吟・剣詩舞）

7 宝船 藤野君山 県総連
8 桜花の詞 逸名 県総連
9 やはらかに 石川啄木 岩手岳風会
10 大楠公 徳川斉昭 県総連
11 七尾城 上杉謙信 県総連
12 肥後陣中の作 山田空斎 吟舞道翠紫流稀翠会
13 生田に宿す 菅 茶山 吟舞菊水流菊妙会
14 新天草洋 藤野君山 吟舞菊水流菊妙会 県総連

15 祝賀の詞 河野天籟 吟舞道翠紫流稀翠会
16 福寿の詩 木村岳風 吟舞菊水流菊妙会
17 室根山に登る 芦 東山 吟舞道翠紫流稀翠会
18 名槍日本号 松口月城 陸中岳風会
19 山房春事 岑参 吟舞道翠紫流稀翠会
20 九段の桜 本宮三香 朝翠流岩手朝翠会
21 桂林莊雜詠諸生に示す 廣瀬淡窓 吟舞道翠紫流稀翠会
22 武野の晴月 林 羅山 岩手岳風会
23 「舞」祝言の譜（テープ） 吟舞道翠紫流稀翠会
24 「舞」武田武士（テープ） 吟舞道翠紫流稀翠会

第3部（寿の部）

25 静夜思 李白 岩手岳風会
26 楓橋夜泊 張繼 菊池桐岳 県総連
佐々木岳晃

27 岩手富士 渡辺吟神（石川啄木） 伊藤樹岳 県総連

特別企画

1 マンドリンと詩吟の共演 春まだ浅く 石川啄木
〔マンドリン演奏〕岩手県立盛岡第二高等学校
マンドリン・ギター部

〔吟〕県総連

2 立体書画吟詠 四時 陶潜

〔吟〕〔揮毫〕〔絵画〕県総連

第4部（合吟）

28 城山 西 道仙 陸中岳風会
29 桂林莊雜詠諸生に示す 広瀬淡窓 岩手岳風会
30 諸生と月を見る 中江藤樹 岩手朝翠会
31 楊柳枝詞 劉 禹錫 県総連
32 逸題 山内容堂 朝翠流源鵬吟詠会
33 城山 西 道仙 県総連

第5部（連吟）

34 本能寺 頼 山陽 県総連

第6部（推薦吟）

43 偶感 西郷南洲 陸中岳風会
44 峨眉山月歌 李白 樋野樋風 県総連
45 み吉野は 藤原良経 宮野紫岳 県総連
46 事に感ず 于瀆 菊池牧風 県総連
47 両英雄 徳富蘇峰 朝翠流源鵬吟詠会
48 山行 杜牧 太田むつ鵬 岩手朝翠会
49 みづうみの 李白 小野寺哲鵬 岩手朝翠会
50 金州城下の作 乃木希典 小野妙岳 県総連
51 み吉野は 藤原良経 村上王岳 県総連
目澤恵岳

52 いにしへの 伊勢大輔 県総連 太田櫻岳
 53 出塞行 王 昌齡 県総連 千葉江岳
 54 江南の春 杜 牧 岩手岳風会
 55 城山 西 道仙 高橋仁風
 岩手岳風会
 藤野定岳

第7部（実行委員独吟）

56 自訟 杉浦重剛 県総連 吉川岳弘
 57 峨眉山月歌 李白 錦城流盛岡支部長
 58 嚴美溪 大槻荻村 紺野城盛
 59 俳句 糸瓜三題 子規 小野寺岳峯
 60 不識庵機山を撃つの図に題す 頼 山陽 県総連 高橋岳遥
 61 嚴美の瀑 佐々木孝吾 岩手朝翠会会長 安保榮鵬
 62 大楠公 徳川斉昭 伊藤語鵬
 63 詩吟 本宮三溪 岩手岳風会会長
 64 逸題 橋本左内 岩手岳風会会長
 陸中岳風会会長
 小山岳耕
 県総連理事長

立身岳元

《講評》 第24回岩手県吟詠剣詩舞道祭は、平成29年10月29日（日曜日）、岩手県民会館大ホールにて入場者数 950人（会員750人・幼年70人・一般130人）で盛大に行われた。

午前10時の開会式は、舞台正面への修礼で始まり、会場全員の国家斉唱と開会の辞（菅原水成副実行委員長）、主催者挨拶（立身岳元実行委員長）に引き続き、参加者全員により「朗詠」（陸中岳風会 中村岳雲 先導）の大合吟がホールに響き、続いて御製謹詠（立身岳元実行委員長）が行われ、吟詠発表に入った。

第1部の幼年の部では、陸中岳風会赤荻学童クラブの「春望―杜甫作」「室根山を詠ず―芦東山」を先頭に、油島小学校児童の「雨ニモマケズ―宮澤賢治作」「（おくのほそ道）より（平泉）―芭蕉作」の合吟、更に独吟・連吟と4題が続き将来吟詠会を担うであろう子供たちの純粋無垢な声が会場に響き渡った。

第2部の一般吟詠・詩舞では、吟詠4団体と詩舞3団体による共演16題とテープによる剣詩舞の2題で会場の話題をさらった。

第3部の寿の部では、各吟詠3団体より90歳を超えた会

員が豊饒とした声で吟じられた。

約60分の休息（昼食）の後、今回は特別企画として、吟舞以外とのコラボレーションを試みた。

一つは、岩手県立盛岡第二高等学校マンドリン・ギター部13名の演奏に、石川啄木の「春まだ浅く」合吟とのコラボレーション。そしてテレビでお馴染みの「水戸黄門」のテーマソング、さらに懐かしい「青い山脈」と2曲を披露していただいた。会場からはアンコールが鳴り止まず、映画「男はつらいよ」のテーマ曲を追加演奏していただき、会場がおおいに盛り上がった。

二つ目は、会員同士の趣味の推移を集め、立体書画吟詠と題し、中国の詩人陶潜の「四時」を吟に合わせ、書は草書でつづり、画は春夏秋冬それぞれの風景を直筆で画いた水墨画が披露され、まさに、三位一体の日本芸術の雰囲気醸し出された。



▶吟詠剣詩舞道

第4部では、吟詠5団体それぞれを代表しての合吟が披露された。

第5部では、連吟と称される、一つの詩文を複数人で分けて吟ずる形式が披露された。

第6部では、それぞれの団体より是非この人という方を推薦、吟を披露して頂いた。

第7部では、今回の実行委員の方々の吟が披露され、中でもプログラムの最後を飾った理事長の吟じられた「逸題―橋本左内作」の詩は雄大につき、尺八伴奏にも熱の入った即興が加わり、また空手道三段と七段・教士の演舞が華を添え、引き締まったファイナルであった。

そして、閉会式では、吟詠剣詩舞道祭副委員長の小山岳耕先生より閉会の辞、同じく副委員長伊藤語鵬先生の万歳三唱で岩手沿岸被災の更なる復興と県民全ての発展とご健勝を願う来年の再開を誓い合った。

今回はこれまでの企画に色々な分野とのコラボレーションを取り入れてみたが、会員はもとより一般入場者のアンケートからも試みは好評だったことが伺われた。

運営役員 中野豪岳 記

音楽

合唱

合唱祭

12月3日(日) 12時半開演

一関文化センター

プログラム

オープニングの合唱(出演者全員)

岩手県民の歌

啄木歌集から「ふるさとの」

1 岩手県立一関第二高等学校音楽部(一関市・混声19名)

きよしこの夜

2 レディースコーラス(一関市・女声14名)

逢えてよかったね

女声合唱組曲「花に寄せて」から

さくら
なすな

3 一関グリークラブ(一関市・男声16名)

うたをうたうとき

案山子

4 混声合唱団アミューズ(奥州市・混声24名)

いとし子よ

剣の舞

5 岩手女子高等学校音楽部(盛岡市・女声13名)

For the beauty of the earth
(美しい地球のために)

あなたに

詞 上江洌清作
曲 MONGOL800
編曲 林 祐介

6 混声合唱団北声会(盛岡市・混声20名)

混声四部合唱のための「歌謡デラックス」から
北酒場
詞 なかにし礼
曲 中村 泰士
編曲 石若 雅弥
詞 阿久 悠
曲 三木たかし
編曲 石若 雅弥

津軽海峡・冬景色

混声合唱のためのメドレー「TOKYO物語」から
銀座カンカン娘
詞 佐伯 孝夫
曲 服部 良一
編曲 猪間 道明

7 男声合唱団響流はなまき(花巻市・男声13名)

(入退場) 自由の歌
指揮 斎藤 明
ピアノ 瀬川 康子
詞 夏目 利江
曲 J.H.シュトゥンツ

糸

あの鐘を鳴らすのはあなた

8 矢巾町立不動小学校4年生(矢巾町・同声44名)

ずっと……

9 矢巾町立不動小学校4年生・矢巾北中学校特設合唱部
合同(矢巾町・同声71名)

音楽のおくりもの

10 うたには、(盛岡市・混声14名)

混声合唱のための「方丈記」から
夜もすがら
詞 鴨 長明
曲 千原 英喜

Ubi Caritas et Amor 聖書7リント人への手紙13章13節
曲 堅田 優衣

混声合唱とピアノのための組曲「みやこわすれ」から
みやこわすれ

ファイナーレの合唱（出演者全員）

詞	野呂 昶
曲	千原 英喜
指揮	勝部 健作
ピアノ	井形 優
詞	大木 惇夫
曲	佐藤 眞

岩手県民の歌（会場のみなさまとともに）

《講評》 12月3日（日）、第70回岩手芸術祭「合唱祭」が開催された。今年は、合唱の地として伝統のある一関市での開催で、私は幸運なことに、前年度の盛岡での芸術祭も聴かせていただいて感動したので、今年の芸術祭をとっても楽しみにしていた。

オーブニングは出演者全員による〈岩手県民の歌〉と加藤藤作曲〈啄木歌集から ふるさとの〉であった。豊かな声と繊細な響き、岩手の合唱のレベルの高さをひしひしと感じる演奏だった。

出演団体は、小学校、中学校、高校、大学、一般、年齢も9歳から80代まで。クリスマスソングやポピュラー音楽の楽しい曲あり、また、コンクールの自由曲になりそうな

難易度の高い曲あり、歌詞も、

日本語、英語、ラテン語、フランス語など、多言語にわたっていた。曲のイメージに合わせて振り付けがあったり、衣装を工夫したり、観客を楽しませる工夫にも富んでいて、観客としては、このようにバラエティに富んだ演奏を聴ける機会はめったになく、最後まで飽きることなく聴くことができた。

ファイナーレは、〈大地讃頌〉を出演者全員で歌いあげ、会場の皆様と共にあらためて〈岩手県民の歌〉を歌い、合唱祭は華やかに幕を閉じた。

一般的な演奏会やコンクールは、演奏する年齢、ジャンルなど、限られた枠で構成される事が多いが、合唱祭では、普段の活動の発表をする団体から、コンクールなどに向けて、より高いレベルの演奏を目指す団体まで、団体毎のニーズに合った、自由なステージ構成で演奏することができる。今回の演奏の中に、矢巾



合唱

町立不動小学校と矢巾北中学校の合同演奏があったが、不動小学校と矢巾北中学校は普段から時々合唱交流をしていると聞いた。この2校の合同演奏のようなステージは、この合唱祭だからできるのだと感じた。そして、合唱祭のような点数が付かない自由な演奏の機会があることが、岩手県の合唱の豊かさを作っているような気がした。

（音楽家 鈴木たたえ）

声楽 岩手芸術祭声楽部門演奏会

11月4日（土） 午後1時半開演
岩手県民会館中ホール

1 Gabriel Faure (1845-1924) ガブリエル・フォー

- Pf. 斎藤久実子
- ・ Le secret 秘密 Op.23-3 (シルヴェストル詩) 松山 裕子
 - ・ Clair de lune 月ひかり Op.46-2 (ヴェルレーヌ) 門脇 次郎
 - ・ En prière 祈りをこめて (ポルデーズ詩) 池野 桂子
- Johannes Brahms (1833-1897) エンネス・ブラームス
- Pf. 内堀 朋子

2 公募出演者による演奏

◇森川美希 Sop.

- Pf. 桂 史子
- ・ Stiziosonio stizoso フェデリーコ詩 ペルグレーシ作曲
 - ・ 怒りん坊さん、私の怒りん坊さん
 - ・ かやの木山 北原白秋作詞 山田耕筈作曲

3 日本歌曲をたどって その6

山田耕筈

Pf. 桜野 杏里

「芥子粒夫人（ポストマニ）より 北原白秋作詞

谷藤ひろ美

Ⅲ 今は御殿で女王さま

Ⅳ とても不思議な緑の芽

平井康三郎

・びいでびいで 北原白秋作詞

・ゆりかご 平井康三郎作詞

・あの子この子 北原白秋作詞

・祭りもどり 北原白秋作詞

・追分 北原白秋作詞

・平城山 北見志穂子作詞

・甲斐の峡 北見志穂子作詞

・九十九里浜 北見志穂子作詞

木下牧子

抒情小曲集より

・ほんとにきれい ロセッティ／吉田映子訳

・かぜとかざぐるま 岸田衿子作詞

・秋 壺井繁治詩

・つらら まど・みちお詩

・月の角笛 新美南吉詩

愛する歌より やなせたかし詩

・誰かがちいさなベルをおす

Pf.小笠原宣子

駒木美和子

駒木美和子

小坂 博

丸岡千奈美

丸岡千奈美

山口 剛

山口 剛

新田 順子

Pf.桜野 杏里

高橋 舞香

高橋 舞香

高橋 舞香

平野 紅子

平野 紅子

駒木 恵

池野 桂子

・ロマンチストの豚
・雪の街
・海と涙と私と
・さびしいカシの木

山崎 尚子
山崎 尚子
松山 裕子
門脇 次郎

《講評》 今年の声楽部門は第1

部、フランスのガブリエル・フ
ォーレとドイツのヨハネス・ブ
ラームスの歌曲、第2部、公募
出演者による演奏、第3部、山
田耕作、平井康三郎、木下牧子
の日本の歌曲とする3部構成で
プログラムが組まれた。

第1部は会員の演奏で冒頭に
ここ数回取り上げているフォー
レの作品を配した。作曲者らし
さを際立たせる3曲の演奏であ
った。続いてブラームスの歌曲
ヘアプローチがなされた。生涯
にわたって歌曲を作曲したブラ
ームスの歌曲には有名な詩人に
よるものではなく素朴な民謡や



▶声楽

弦楽

ソロと室内楽の調べ

10月8日(日) 午後2時開演

岩手県民会館中ホール

第1部 独奏

プレリユードとアレグロ (Vn)……………クライスラー

ヴァイオリン協奏曲 第3番第1楽章 (Vn)……………ピアノ 伊藤美也子

……………モーツァルト
……………ピアノ 浅沼 伽鈴
……………ピアノ 林 秀
……………バルトーク 藤島 百花

……………ピアノ 伊藤 玲子
……………エックレス ソナタ第1・2楽章 (Cb)……………滝本 桜

第2部 新人独奏

ロッシーニ《モーゼ》の主題による変奏曲 (Vc)

……………バガニーニ
……………山口 奏

▽実行委員 山口 剛、丸岡千奈美

(昆野聡朗)

ヴァイオリンソナタ第5番 Op.24 第1・4楽章 (Vn)
……………ベートーヴェン

ピアノ 古性 美紀
高橋 奈々

第3部 弦楽合奏

合奏協奏曲《クリスマス協奏曲》Op.6no.8

……………コレッリ
第1楽章 ヴィヴァーチェ・グラーヴェ・アレグロ
第2楽章 アダージョ・アレグロ・アダージョ
第3楽章 ヴィヴァーチェ
第4楽章 アレグロ
第5楽章 パストラレ・ラルゴ

ソロ Violist 畠山亜希子
2nd 米倉 久美
Vc 塙 伸比古

弦楽のためのセレナード Op.20……………エルガー

第1楽章 アレグロ ピアチエーヴォレ
第2楽章 ラルゲット
第3楽章 アレグレット

Cond.: 牛渡 克之
Vn: 亀谷由美子 菊池 昭子

菊池 敏文 (大学院) 畠山亜希子
馬場 雅美 米倉 久美 渡辺めぐみ
Va: 片桐 薫 藤澤 英子
Vc: 塙 伸比古 三浦 明子
Cb: 渡辺 義典

《講評》 今年の「ソロと室内楽の調べ」は、第1部は小学生、高校生4名によるヴァイオリンとコントラバス独奏。第2部は岩手県出身で、現在東京の音楽大学で学んでいる学生2名によるヴァイオリンとチェロの独奏、第3部は会員、学生、県内音楽愛好者による弦楽合奏だった。

第1部は、盛岡白百合学園小学校6年の平野颯来がクライスター作曲、プレリウドとアレグロヴァイオリンを演奏した。続いて盛岡白百合学園高等学校1年の浅沼伽鈴がモーツァルト



▶弦楽

作曲のヴァイオリン協奏曲第3番第1楽章を演奏した。続いて岩手県立盛岡第二高等学校1年の藤本百花がバルトーク作曲のルーマニア民俗舞曲を演奏した。第1部の最後は岩手県立盛岡第一高等学校1年の滝本桜がコントラバスで

エックレス作曲、ソナタ第1・2楽章を演奏した。一生懸命演奏した児童、生徒に会場からは温かい拍手が送られた。第2部は東京音楽大学2年山口奏がパガニーニ作曲のロッシーニ(モーゼ)の主題による変奏曲を演奏した。続いて国立音楽大学3年高橋奈々がベートーヴェン作曲のヴァイオリンソナタ第5番第1・4楽章を演奏した。この若き音楽家たちが、将来世界で活躍する日が来ることを期待した。

第3部は、昨年に引き続いて指揮者に岩手大学教育学部准教授の牛渡克之氏を迎えコレッリ作曲の合奏協奏曲「クリスマス協奏曲」とエルガー作曲の弦楽のためのセレナードを会員、学生、県内音楽愛好者で演奏した。調和のとれた美しい音色は多くの聴衆を魅了した。

(田口博子)

三曲

三曲演奏会

10月22日(日) 午後2時開演
岩手県民会館大ホール

1 生田流 菊池玉悦松社中・都山流

蒼樹

I 箏 菊池玉悦松 藤原玉悦美

江戸信吾 作曲

II 箏 木村玉悦枝 戸塚玉悦淑美

尺八 遠山天山

2 県南支部都山流

都山流本曲 鶴の巣籠

流祖 中尾都山 作曲

3 琴古流 竹心会

山村の舞

尺八I部 高橋法聖 白石文子 小林紅山 作曲

尺八II部 石川 戡 中村嘉国 渡瀬典子

4 北上支部 山田流 阿部修声社中

轉り

沢井忠夫 作曲

I 箏 藤田修壽声 佐藤桃花

II 箏 阿部修声
松坂尚子 作曲

5 生田流松坂尚子社中・琴古流

恕

十七絃 松坂尚子

尺八 高橋法聖

6 山田流 船越喜実乃社中

月づくし

石川潭月 作詞

二代 上原真佐喜 作曲
船越喜実乃
畑中央子

三絃 栗津佐紀枝 藤沼佐代邦

7 都山流岩手県支部

本曲 秋に想う 流祖 中尾都山 作曲

尺八Ⅰ部 細川剣丈山 伊藤衡山 菊池穂山

菊池捷山 遠山天山 丑館統山

高橋遼山 佐藤檜山 高橋院鵬

菅原鵬翔

尺八Ⅱ部 及川政山 千田聡山 立野呈山

國分憬山 照井我山 佐藤秋山

村井堆山 工藤盛山 六串観山

伊藤大衆

8 山田流斎藤仁恵井社中

赤壁賦 松本一太 作詞
中能島欣一 作曲

本手 小泉仁寿井

替手 齊藤仁恵井

9 都山流鷺韻社・山田流 船越喜実乃社中

千鳥の曲 前唄 読み人知らず 作詞
後唄 源 兼昌 作詞

吉沢検校 作曲
尺八 伊藤衡山 立野呈山 菊池捷山
遠山天山 村井堆山 工藤盛山

伊藤大衆

本手 栗津佐紀枝 畑中央子 菊地佐代樹

替手 熊谷佐代規 富士史恵

船越喜実乃

10 琴古流 童門会・生田流 細田雅邦社中

酒（笹の露） 島田両造 作詞

三絃 菊岡検校 作曲

尺八 鈴木星童 吉田斗童 安達嘉男 作曲

三絃 細田雅邦

加藤雅道

本手

11 生田流 佐藤観子社中

碓 宮城道雄 作曲

Ⅰ 遠田敏子 佐藤観子 阿部菊子

Ⅱ 吉田コウ 片岡明美 畠山知恵子

《講評》 第70回岩手芸術祭公演は、岩手三曲協会第139

回定期演奏会として、岩手県民会館大ホールで10月22日に延べ約70人の出演で11曲を演奏した。いっぴくなく出演者は

少なかつたが、各曲とも練習を積んできており、最後まで楽しく聴くことができた。

今回の演奏曲目は、江戸時代に作曲された古曲が2曲、明治時代1曲、昭和時代5曲、平成に作曲された曲が3曲で古曲から現代曲まで時代を反映した個性と変化に富んだプログラム編成をすることができた。

「蒼樹」は箏と尺八の響きで、「囀り」は箏二重奏で、明るく軽やかなリズムとメロディをたのしむことができた。今回、尺八だけの曲は3曲あったが、「鶴の巣籠」は、鶴の様子を二管の尺八で描写した曲で、尺八の持つ繊細で微妙な奏法で感じが良く出されていた。また、「山村の舞」と「秋に想う」は共に尺八二部合奏曲であるが、平成と昭和初期の作曲なのでリズムや曲想が異なりそれぞれの時代を感じさせられる演奏だった。

「怨」は作曲家自らの演奏で、



▶三曲

感情をこめた熱演と十七絃と尺八の2つ楽器によるハーモニーに引き込まれ観客は魅了されたことと思う。「月づくし」と「赤壁賦」は共に弾き語りの曲で、箏の音を聞きながら唄の情景を思い、聞くことができた。「酒」は今回唯一の三曲合奏曲で、箏・尺八・三絃の重奏や掛け合い、そして節回し等古曲の落ち着いた雰囲気を楽しんだ。「千鳥の曲」は古曲の中では一番演奏される曲なので、会場の皆さんも身近な曲として親しみをもって聴いていたのではないかと思います。最後は調子のいいテンポの「碓」で楽しい余韻を残して終わることができた。

今回の演奏会は、台風の接近で次第に雨風が強くなるとの予報と、更には予想もしていなかった衆議院選挙の日と重なってしまったが、このような中でも会場に来て鑑賞してくださったお客様に支えられ、又励まされ、春の定期演奏会に向けて意欲の湧いた演奏会であった。

（伊藤衡山）

演奏楽 演奏楽演奏会

11月23日（水・祝） 午後2時開演
盛岡市民文化ホール大ホール

【第49回定期演奏会 もりすい「ハート」】

I

“MERRY-GO-ROUND”

Philip Sparke 作曲

“RHAPSODY FOR EUPHONIUM AND CONCERT BAND”

James Curnow 作曲

“LA FIESTA MEXICANA”

H.Owen Reed 作曲

(A Mexican Folk Song Symphony for Concert Band)

メキシコの祭り

I 前奏曲とアズテック舞曲 II ミサ III カーニバル

II

「紅に染まる散歩道」～パッション・イン・ザ・ビート～

♪コパカバーナ♪

♪愛がすべて♪

♪アマポーラ♪

♪シング・シング・シング♪

♪デイーブ・パープル・メドレー♪

《講評》 今回の盛岡吹奏楽団の「第49回定期演奏会」は次年度に創立50周年を迎えて「第50回定期演奏会」の前年ということで特にいろいろと企画して開催いたしました。今回のゲストにはドラムプレイヤーのそうる透さんをお呼びして演奏いたしました。

会場は盛岡市民文化ホール

(マリオス)の大ホールでドラムセットを2セット配置するために盛吹的には初めてのオーケストラピットを設置していただきました。

プログラムの第1部は吹奏楽曲よりオリジナルを含めて管弦楽のソロをフューチャーした曲で演奏して、第2部はドラムをフューチャーしたプログラムで構成いたしました。

第2部ではドラムセットが2組ということで迫力ある演奏でお送りいたしました。

自戒の盛岡吹奏楽団の演奏会は、昭和43年11月に創立し50周年という半世紀を迎え、演奏会も第50回ということ、岩手県内の中では、一番歴史のある吹奏楽団として今後も団員一同これまで以上に精進しながら頑張っていきたいと思っています。

▽実行委員＝安倍一洋 小山智弘

(盛岡吹奏楽団団長 安倍一洋)



▲吹奏楽

ピアノ ピアノ演奏会

10月21日(土) 午後3時開演
岩手県民会館中ホール

ジュニアの部

- 1 ソナチネ 第5番 ト長調 ベートーヴェン 佐藤奏風
- 2 インディアンの踊り ギロック 舞曲 有馬礼子 佐藤希美
- 3 フランス組曲 第2番 ハ短調 BWV813より「アリア」 バッハ 内藤雪乃
- 4 ピアノソナタ 第18番 ニ長調 KV.576 第1楽章 山戸彩子
- 5 ピアノソナタ 第1番 ヘ短調 Op.2-1 第1楽章 牛崎 舞
- 6 マ・メール・ロワより 美女と野獣の対話 スペイン舞曲 第1番 ハ長調 Op.12-1 ラヴェル 遠藤みなみ
- モシユコフスキー 平野真実
- 7 ピアノソナタ 第38番 ヘ長調 Hob.XVI/23 ハイドン 菅原由唯
- 8 ワルツ 第6番 変ニ長調 Op.64-1 「子犬のワルツ」

一般の部(審査制)

- 1 喜びの島 イ長調 ドビュッシー 青柳美樹
- 2 ノクターン 第2番 変ホ長調 Op.9-2 ショパン 田村大胤
- ワルツ 第7番 嬰ハ短調 Op.64-2 ショパン
- 3 序奏とロンド 変ホ長調 Op.16 ショパン 上田菜緒
- ピアノソナタ 第17番 ニ長調 D.850 Op.53 第4楽章 シューベルト
- 4 ピアノソナタ 第60番 ハ長調 Hob.XVI/50 第1楽章 ハイドン
- 幻想曲 ヘ短調 Op.49 ショパン 小松 桃
- 5 6つのパルティータ 第2番 ハ短調 BWV826 J.S.バッハ 井上綾子
- 6 バラード 第1番 ト短調 Op.23 ショパン 佐藤南美
- 7 子守歌 変ニ長調 Op.57 ショパン
- ポロネーズ 第7番 変イ長調 Op.61 ショパン

招待演奏

桂 史子

第64回岩手芸術祭ピアノコンクール第1位 芸術祭賞受賞

一戸香織

アンダルシア舞曲集より「サパテアード」Op.83 トウリーナ

スケルツォ 第2番 変ロ短調 Op.31 ショパン

第66回岩手芸術祭ピアノコンクール第1位 芸術祭賞受賞

菊池 栞

コンソレーション 第3番 変ニ長調 S.172R.12

リスト

メフィストワルツ 第1番 イ長調

「村の居酒屋での踊り」S.514R.181 リスト

《講評》 第70回岩手芸術祭ピアノ部門ピアノ演奏会（審査

制）出演者は、ジュニア部門10組11名（連弾あり）、一般部門7名 最後に、第70回を記念して第64回岩手県ピアノコンクール第1位芸術祭賞受賞の一戸香織さん、第66回ピアノコンクール第1位芸術祭賞受賞者の菊池栞さんの招待演奏を行いました。審査員には東京よりピアノリストの林苑子先生・佐々木素先生・赤松林太郎先生をお招きしました。ジュニア部門は県内の小中高生が出演し、一般部門の審査員の先生よりコメントを頂けるといいうメリットがあります。

す。

毎年ジュニア部門は、定期的に学校の行事や、クラブ活動に専念しなければならず、中々ピアノを練習する時間が取れないのですが、忙しい時間をなんとかやりくりして練習に励み、日頃の成果を発揮してくれたと思います。一般部門の審査員の先生によるコメントを参考にして益々精進して欲しいと思います。

一般部門は18歳以上で、県内在住もしくは県内に戸籍のある方を対象に公募されます。今年度は、現役の学生のみならず、現在教職にある方や保育士として活躍している方も出演され、それぞれの方々が入賞に関係なく内容の濃い演奏を披露されて、とても爽やかな演奏会になりました。

厳正なる審査の結果芸術祭賞・第70回記念賞 上田菜緒さん審査員特別賞 井上綾子さんに決まりました。現役を終わられた方々がステージで演奏する事は、非常



◀ピアノ

ギター

ギター音楽のタベ

11月11日(土) 午後5時半開演

岩手県民会館中ホール

(滝沢昭子)

に勇気のいる事ですが、それを乗り越えて、多くの方々に出演して欲しいと願っておりますし、また今まで出演された方々も再度出演して欲しいと思っております。

最後に聴衆の方々も年々増え始め、今まではジュニア部門が終わると帰られた方も、今年度より一般部門の開演時間をジュニア部門のすぐ後にした事もあって、最後まで残って一般部門の出演者を応援し、入賞者を祝福している姿が見られ、とても良い事だと思いました。

二重奏

フラメンコ研究会 工藤 進

*落ち葉のコンチェルト…A.ハモンド

1st 樋口 卓子

2nd 樋口 知志

*ナインテーンゲール…作者不詳

1st 齋藤 忠孝

2nd 三浦 晃可

三重奏

*ビー玉遊びのバイヨン…P.ベリナティ

1st 勝又みづき

2nd 菅原 美紀

3rd 佐藤 勝政

独奏

*前奏曲2・5番…H.ヴィラ・ロボス 田村 一真

*『椿姫』の主題による幻想曲…F.タレガ (J.アルカス)

賛助出演 齋藤 黎

第1部 独奏

*ジングルベル……………S.ピアボン

晴山翔太郎

*アルハンブラの想い出…F.タレガ

阿部和佳奈

*クリスマスの歌……………A.バリオス

青山 貴子

*スペイン風セレナーデ…「フェレル

佐藤 典子

*リオ アンチヨ (ルンバ) …パコ・デ・ルシア

第2部 合奏

*ルナ・デイ・フェゴ…ジプシーキングス

花祭り……………E.P.サルディバル ルナ・デイ・フェゴ

*花は咲く…菅野よう子 フォーラギターアンサンブル

*マイ・ウェイ…「ルヴォー&C.フランソワ

アベ・マリア…G. カッチーニ
ブレイビスギターアンサンブル

* September…M.white,A.McKay,A.Wills GEEPs'
* セントポール組曲から第1楽章 Jig…G.ホルスト

岩手大学ギターアンサンブル
指揮 田中 誓

第3部

独奏

* 鉄道員……………C. ルスティケッリ

メヌエット……J.Ph. ラモー

菊池 静男

* カリフォルニア組曲から

プレリユード・サラバンド・ワルツ

……………J.M. ガジャルド・レイ

松田洋次郎

* 幻想曲……………S.L. ヴァイス

前奏曲第1番…H. ヴィラ・ロボス

橋本 博行

* アラビア風奇想曲…F. タレガ

中嶋 亮三

* 最後のトレモロ…A. バリオス

樋口 知志

* ロマンズ クリオーリヨ…J. モレル

三浦 晃可

* さくら変奏曲…横尾幸弘

大森 圭一

* 神秘の組曲から

ディプソ・ペンテコステ…A. アセンシオ

望月 麻千

◀ギター

《講評》 第70回岩手芸術祭
参加「第41回ギター音楽の
夕べ」は、独奏者15名（うち
フラメンコ1名）、二・三
重奏3組、合奏5団体の参
加の下、平成29年11月11日、
県民会館中ホールにて行わ
れた。鑑賞者数は163名、
延べ出演者数は81名であっ
た。

第1部は晴山翔太郎のジ
ングルベルの独奏で幕を開
け、二・三重奏及び賛助出
演者の独奏と第2部のギター合奏をはさみ、第3部の望月
麻千の神秘の組曲（ディプソとペンテコステ）の演奏で幕
を閉じた。

今年のプログラム構成の中で、第1部樋口卓子と樋口知
志の二重奏落ち葉のコンチェルトや賛助出演者齋藤黎の
「椿姫」の主題による幻想曲、第2部ブレイビスギターア
ンサンブルのアベ・マリアの合奏、そして第3部中、大森
圭一のさくら変奏曲の演奏が印象に残った。

今回は、昨年指の怪我で欠場した田村一真君の演奏を再



び聴くことができた他、老若男女の方々の独奏・合奏を楽
しむことが出来た。出演してくださった各位が日頃研鑽を
積んでおられることに、この場をお借りして謝意を表しま
す。

（文責佐藤 匡）

▽実行委員 佐藤勝政・橋本博行

管弦楽

管弦楽フェスティバル2017

12月10日(日) 午後2時開演

胆沢文化創造センター大ホール

プログラム

奥州ジュニア・オーケストラスクール

ヴィヴァルディ シンフォニア RV122

管弦合奏部門

パッヘルベルのカノン

フレッチャー フォークチューンとフィドルダンス

オーケストラ部門 公開練習と演奏

アンダーソン クリスマス・フェスティバル

シュトラウス ラデツキー行進曲

出演団体 奥州ジュニア・オーケストラスクール

もりおかジュニアオーケストラ

一関市民オーケストラ

田園室内合奏団

宮古弦楽アンサンブルの会

オーブン参加

花巻弦楽教室

一般参加

ゲストブレイヤー 〓

牛腸和彦（トランペット／東京シァター・オーケストラ）

指導 〓いわてフィルハーモニー・オーケストラ

《講評》

岩手県管弦楽連盟は、岩手県における管弦楽活動
の普及振興を目指し、活動を展開しています。単独では難
しい大規模イベントの展開や、一流演奏家との共演、特別
講習会などを提供し、岩手県の音楽芸術振興に寄与するこ
とを目的としているほか、若手演奏家の活動の場として演
奏機会を提供するなどの育成事業も行うこととしておりま
す。

県芸術文化協会に加盟後、初めてとなる岩手芸術祭参加
事業として「管弦楽フェスティバル2017」を開催し、
県内のオーケストラ・室内合奏団・ジュニアオーケストラ
などに在籍する89名が一堂に会して交流を深めました。昨

年12月にはプレ企画として都南文化会館で「管弦楽フェスティバル2016」を開催しましたが、終了後、子どもたちから「次はいつやるの?」「次のオーケストラの曲は何?」と質問が相次ぎました。大編成のオーケストラの経験は貴重なものだったようです。また、弦楽だけでなく管弦楽も入ったフル編成のオーケストラを経験することが少ない岩手の子どもたちは、オーケストラの繊細な表現から大音量のダイナミックレンジの広さに感動を覚える様子でした。今後子どもたちにオーケストラの魅力を伝える活動に力を入れるほか、加盟団体も徐々に増えており、県内の多くの団体が連携をとることで次世代への環境づくりを進めていければと思っています。

▽運営委員 寺崎 巖 齊藤 弦

(寺崎 巖)



◀管弦楽

舞 踊

洋 舞 モダンダンス公演

平成29年10月15日(日) 午後3時開演
岩手県民会館大ホール

プログラム『ドン・キホーテ／ダイジェスト版』

プロローグ〈ドン・キホーテの家〉

ドン・キホーテ 東 秀昭

サンチョ・パンサ 友杉洋之

第1幕第1場〈街の広場〉

キトリ 渡辺恭子

バジル 高谷 遼

ドン・キホーテ 東 秀昭

サンチョ・パンサ 友杉洋之

エスパルダ 加藤大和

ガマージュ 大野大輔

ロレンツォ 横内国弘

大道の踊り子 村上弘子

バジルの友人 加地暢文 関口 啓 愛澤佑樹

石川聖人

闘牛士たち 渡辺大地 宮司知英 八幡恵介 仲田直樹

キトリの友人 遠藤 葵 松岡 愛 池田理子

樋口 睦

街の娘たち 山田美生 及川日花梨 伊東 華

菊池友夏 齊藤瑞季 関 レナ

遠藤 櫻 鷹觜 華 前田千佳

村木小晴 菊池ひまり 菅原美来

千田薫子 谷地畝愛美

第1幕第2場〈ドン・キホーテの夢〉

ドルシネア姫 渡辺恭子

ドン・キホーテ 東 秀昭

サンチョ・パンサ 友杉洋之

森の女王 柴田千紗葵

愛の妖精 小谷百香

森の妖精たち 前田千佳 村木小晴 菊池ひまり

谷地畝愛美 遠藤 櫻 鷹觜 華

菅原美来 千田薫子 岩渕 華

小川明花 西國 菜 佐々木唯空

佐藤みなみ 関 留里 田中 心

藤井 凜 太野凜花 山崎 叶

平野ひまり 村上結子

キューピットたち 伊東 麗 小笠原李 川端小雪

倉本愛花 舘沢都愛 田村天香

千葉桃子 森 春奈
ヴァリエーション1 岩渕 華 小川明花 西國 菜

佐々木唯空 佐藤みなみ

関 留里 田中 心 藤井 凜

太野凜花 山崎 叶 平野ひまり

村上結子 伊東 麗 小笠原李

川端小雪 倉本愛花 舘沢都愛

田村天香 千葉桃子 森 春奈

菅原美来

ヴァリエーション2 遠藤 櫻 鷹觜 華

第2幕第1場〈街の広場〉

キトリ 渡辺恭子

バジル 高谷 遼

ドン・キホーテ 東 秀昭

サンチョ・パンサ 友杉洋之

エスパード 加藤大和

ガマーシユ 大野大輔

ロレンツォ 横内国弘

大道の踊り子 村上弘子

バジルの友人 加地暢文 関口 啓 愛澤佑樹

石川聖人

闘牛士たち 渡辺大地 宮司知英 八幡恵介 仲田直樹

キトリの友人 遠藤 葵 松岡 愛 池田理子

樋口 睦

街の娘たち 山田美生 及川日花梨 伊東 華

菊池友夏 齊藤瑞季 関 レナ

遠藤 櫻 鷹觜 華 前田千佳

村木小晴 小谷百香 菊池ひまり

菅原美来 千田薫子 谷地畝愛美

街の子供たち 岩渕 華 小川明花 西國 菜

佐々木唯空 佐藤みなみ 関 留里

田中 心 藤井 凜 太野凜花

山崎 叶

第2幕第2場〈ガマーシユの屋敷〉

マーチ 山田美生 及川日花梨 伊東 華 菊池友夏

齊藤瑞季 関 レナ 加地暢文 愛澤佑樹

渡辺大地 宮司知英 八幡恵介 仲田直樹

ガマーシユの踊り 大野大輔 関口 啓 石川聖人

ボレロ 村上弘子 加藤大和

ファンダンゴ 加地暢文 関口 啓 愛澤佑樹

石川聖人 渡辺大地 宮司知英

八幡恵介 仲田直樹

グラン・パ・ド・ドウ キトリ 渡辺恭子

バジル 高谷 遼

ヴァリエーション1 池田理子 樋口 睦
ヴァリエーション2 遠藤 葵 松岡 愛
コーダ 全員

《講評》 岩手県洋舞協会会員のクラシックバレエ3教室では、生徒数の減少が続いております。それでも、今回のバレエ合同公演には、盛岡だけでなく沿岸地方や奥州市など在住の生徒を含む小中学生から高校生までの40名の生徒が出演した。

例年より準備のスタートが遅かったにもかかわらず、6月4日の生徒オーディションを経て、良い振付家（東京スターダンスバレー団バレーエマスタール鈴木稔氏）と出会い、限られた時間のなかでリハーサルが始まった。

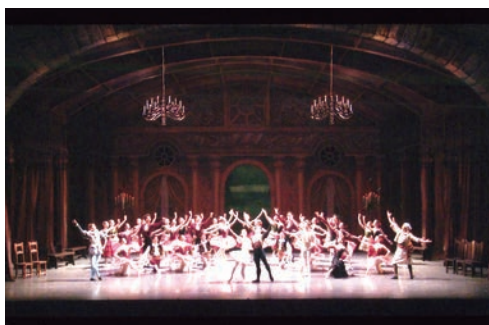
バレエ「ドン・キホーテ」全幕は長大なバレエで、大人数の大人の踊り手が必要になる。今回は生徒主体で、プロフェッショナルダンサーとの協演なので、いくつかの場面を割愛してのダイジェスト版になった。結果、スピーディな流れとなり、プロフェッショナルダンサーの技量、中学高校生の芝居を交えた踊り、「夢の場」での真摯な美しさの踊りなど、見応えのある公演となった。また、生徒達が間近にバレエ団員の踊りを見られたことは得難い体験になったことと思う。スタジオで生徒達が我を忘れて踊りに魅

入っている表情が忘れられない。

全幕バレエを仕上げるには、個々のダンサーの力量と稽古による結果の力が必要である。そして、力のある裏方美術も当然必要になる。盛岡の公演では、全ての助力を東京のスタッフに任せざるを得ない。良い舞台を作り上げようとすれば、経費もまた、膨らんでくることになる。今回の芸術祭公演では、ダンサーと舞台裏方のプロフェッショナルな方々をみて、その踊りのレベルの高さ、舞台裏方の静かに完璧に舞台を作る力量に改めて称賛と感謝を捧げたい。このプロフェッショナルな力に囲まれて舞台で踊った岩手県のバレエの生徒たち―皆の将来にこの経験が花開くようにと願っている。

▽実行委員 小柳玲子 久慈幸恵

（藤原めい子）



◀洋舞

日 舞

日本舞踊公演

11月19日(日) 午前11時開演
岩手県民会館大ホール

長唄	四季の詠	若柳	吉聖
長唄	梅の栄	水木	優利
長唄	芽吹柳	若柳	鈴掬
長唄	松の緑	若柳	福美晴
長唄	扇の四季	若柳	志寿幸
長唄	五月雨	若柳	初弘
清元	幻お七	水木	雀優
長唄	雨の五郎	若柳	力豊
長唄	菖蒲浴衣	藤間	桂佐舞
長唄	蓬菜	花柳	則美晴
義太夫	猩々	水木	聖千優
大和楽	早春	若柳	力保
長唄	鶯娘	若柳	力可寿
長唄	俄獅子	水木	優水碧
清元	遍路	藤間	秀之進
長唄	阿波踊り慕情	水木	楓華
		水木	聡楓

常磐津	山姥	若柳	竹美晴
長唄	藤娘	水木	歌絹
長唄	都風流	藤間	利之進
		藤間	亜祁之

大和楽	藤むらさき	若柳	貴千鶴
清元	玉兔	若柳	力代
清元	傀儡師	若柳	衣江
		花柳	美寿晴

《講評》 第70回岩手芸術祭参加、日本舞踊公演は、県民会館大ホールに於いて午前11時より開演いたしました。

6流派12社中28名の出演となり、22番の番組が上演されました。

序幕は当協会理事、若柳吉聖による長唄「四季の詠」で格調高く始まり、長唄、清元、義太夫、大和楽、常磐津の邦楽に合わせ多彩な内容、そして変化に富んだ演目が続きました。

今回は若手の出演者も多く華やかな舞台となり、各社中の日頃の研鑽ぶりがうかがえる演目に、終日おしめない拍手が送られました。

演 芸

民謡

岩手民謡まつり

平成30年11月5日(日) 11時開演

岩手県民会館大ホール

第1部 紅葉織りなす民の唄

1 踊	どどこい節	民舞	畠山会社中唄／玉山ツヤ子
2 唄	南部木挽唄	三上	悟
3 唄	外山節	槻館	恭治
4 唄	南部馬方節	畠山	勝彦
5 踊	秋田船方節	平原	会社中唄／吉田やす子
6 唄	酒屋唄	浅沼	紀
7 唄	宮城野盆唄	田中	令子
8 唄	萩刈唄	浅沼	京子
9 唄	秋田おばこ節	清水	啓子
10 踊	おいせ坂	北上	やよい会
11 唄	生保内節	大山	カツ
12 唄	秋田飴売り節	山本	樹
13 唄	酒屋流し唄	藤原	善美

最後に当協会会長、若柳美寿晴による清元「傀儡師」を素踊りで豊かに表現し幕を閉じました。

次回も今回同様に若手及び県内各地からの出演者が多くなる事を望み、伝統芸能として日本舞踊が益々発展することを願います。

(水木 楓)

▽実行委員 花柳美寿晴

水木 楓



▶日舞

14	唄	南部盆唄	米澤 吉次	11	唄	外山節	蜂谷 和子
15	踊	秋田甚句	南部よしやれ舞踊団	12	唄	南部牛追唄	中田 桂敏
16	唄	津軽タント節	佐藤 一子	13	唄	沢内甚句	阿部 伊祥
17	唄	真室川音頭	泉田 禮子	14	唄	南部木挽唄	小野寺夏樹
18	唄	能代舟唄	小野ふぢえ	15	唄	南部馬挽唄	杉本 慶子
19	踊	米節	南部千代連	16	唄	南部馬方節	高橋 秋男
20	唄	南部茶屋節	鳴海 みよ	17	唄	南部駒引唄	佐藤 信
21	唄	秋田小原節	高橋 竹秀	18	唄	南部牛追唄	橋場昭喜治
22	唄	秋田草刈唄	中屋敷 晃	19	唄	民舞部門	
23	唄	尾鷲節	新山ナツ子	20	踊	南部俵積み唄	岩月福田会
第2部 第70回岩手芸術祭 民謡民舞大賞決定戦				21	踊	秋田音頭	唄／三上 紀子
民謡部門				22	踊	さんさしぐれ	唄／漆原栄美子
1	唄	南部馬方節	大石 義男	23	踊	本荘追分	南部よしやれ舞踊団
2	唄	萩刈唄	前堂るり子	24	踊	次世代コーナー&器楽演奏	星川 鈴(漆原会)
3	唄	南部牛追唄	佐々木深里	25	踊	子供たちの唄と踊り	唄／漆原栄美子
4	唄	酒屋唄	大滝 一秋	26	踊	1 踊 豊年こいこい節	唄／漆原栄美子
5	唄	箱根馬子唄	佐々木 隆	27	踊	2 唄 南部牛追唄	唄／北條真由美
6	唄	南部駒引唄	武田 幸子	28	唄	3 唄 南部よしやれ節	唄／北條真由美
7	唄	南部よしやれ節	及川久美子	29	唄		佐々木麻里
8	唄	南部牛追唄	藤野 君子	30	唄		佐々木美香
9	唄	南部牛追唄	井上 正明				
10	唄	南部木挽唄	玉川 光雄				

4	唄	秋田節	芳賀 晴奈	1	踊	生保内節	民舞畠山会社中
5	唄	ソーラン節	山崎 なな	2	唄	相馬流れ山	唄／鳴海 みよ
6	唄	出船音頭	下机 紅愛	3	唄	秋田馬子唄	藤岡 祐衣
7	唄	りんご節	下机 唯愛	4	唄	津軽小原節(旧節)	山上 衛
8	唄	ドドサイ節	高見 柚名	5	唄	灘の酒造り祝い唄	吉田やす子
9	踊	南部茶屋節	北上やよい会	6	踊	花笠音頭	新保 公
10	唄	チャグチャグ馬っこ	清水水優花	7	唄	南部俵積み唄	北上やよい会
11	唄	古調外山節	藤原 優人	8	踊	田原坂	照井 陽子
12	唄	南部木挽唄	佐々木佳菜絵	9	唄	秋田荷方節	井上ひとみ
13	唄	秋田節	上野 蓮花	10	唄	新タント節	小松 正宏
14	唄	南部よしやれ節	佐々木愛佳	11	踊	会津磐梯山	佐藤 信子
15	唄	南部酒屋もとすり唄	福山 真生	12	唄	南部一ツ甚句	岩月福田会
16	唄	ドドサイ節	福山 芽生	13	唄	ホーハイ節	唄／菊池 ひろみ
17	唄	花笠音頭	古澤 夏音	14	唄	炭坑節	菊池ひろみ
18	唄	外山節	古澤 凜心	15	唄	沢内甚句	田村 孝
19	唄	そんでこ節	細川 杏莉	16	唄	なかくくに	油井 幸子
20	踊	秋田甚句	岩月福田会	17	唄	南部酒盛り甚句	平原会社中
器楽合奏				18	唄	道南口説	唄／玉山 ツヤ子
1	三味線合奏	北国のひびき	岩手陸実会				松内とり子
2	ドドサイ節		竹水会子供連				米澤 廣次
			唄／越田 仁蔵				館澤 基菊

- 19 踊 津軽タント節
民舞畠山会社中
唄／松内 とり子
- 20 唄 おいせ坂
中岩持勝子
- 21 踊 しげさ節
南部よしやれ舞踊団
- 22 唄 津軽じょんから節
千葉 栄人
- 23 唄 炭焼き甚句
菊池 マセ
- 24 踊 喜代節
南部千代連
- 25 唄 豆ひき唄
中里福次郎
- 26 唄 鹿兒島浜節
山崎 勝代

《講評》 本年も「岩手民謡まつり」は県民会館大ホールで午前十一時より岩手民謡どどさい節の唄と踊りで幕を開けた。

今回も例年の三部構成に加え次世代コーナーを拡大させてのプログラム構成とした。演目数も昨年よりかなり増え、唄・踊り・器楽演奏全てにおいて、大人顔負けの完成度に観客のみならず、会員一同目を見張った。

また本公演では平成十四年より毎年優れた演技者に贈る芸術大賞を決める「民謡民舞大賞決定戦」コーナーが昨年に引き続き熱い戦いが繰り広げられた。岩手県合唱連盟名誉会長の太田代政男氏を筆頭に、本協会役員藤沢清美・工藤末三郎・照井真実都氏らの審査員は口々に甲乙つけがた

かったと語られた。今回の結果は、民謡部門は若手の勢いのある唄をしのぎ、熟練された橋場昭喜治が僅差で大賞受賞となった。民舞では漆原会若手の星川鈴がしなやかな手さばきで本荘追分を踊り上げ、見事に大賞に輝いた。

第一部【紅葉織りなす民の唄】二十三曲、【次世代コーナー&器楽演奏】二十二曲、第二部【民謡民舞大賞決定戦】二十二曲、第三部【民謡特撰集】二十六曲を若手・ベテランが次々に舞台に出て全国の民謡を会場いっぱいに届けた。今後の課題として、集客力の向上と更なる演目の組み立て方を吟味していきたい。



◀民謡

◆民謡功労者 勝田健水氏（尺八）芸能歴四十六年・伊藤文子氏（踊り）芸能歴三十三年五か月・大滝一秋氏（唄）

芸能歴四十七年七か月

◆芸術大賞入賞者 民謡大賞・橋場昭喜治／南部牛追い唄、民舞大賞・漆原会／秋田音頭、中田桂敏／南部牛追い唄（唄）、玉川光雄／南部木挽唄（唄）、岩月福田会／南部俵積み唄（踊り）、南部よしやれ舞踊団／さんさしぐれ（踊り）

（事務局長・三上紀子）

新舞踊

新舞踊発表会

平成29年10月15日(日) 10時半開演
大船渡市民文化会館

オープニング

- 1 亜矢の祭り
気仙支部 満月会
- 2 雅の舞
気仙支部 舞の会
- 3 三陸祝い唄
気仙支部 野の花会
- 4 北の出世船
釜石支部 藤舞会
- 5 長持祝い唄
花巻支部 新友会
- 6 竜虎伝
花巻支部 有扇会
- 7 おこさ節
北上支部 やよい会
- 8 夕月おけさ
花巻支部 とし美会

- 8 酔歌
気仙支部 満月会
- 9 勝負坂
気仙支部 舞の会
- 10 日本の夜明け
花巻支部 裕康会
- 11 花は咲く
花巻支部 邦扇会
- 12 北の出世船
北上支部 幸の会
- 13 佐渡の恋唄
釜石支部 藤舞会
- 14 まだまだ人生
気仙支部 野の花会
- 15 紅の傘
花巻支部 有扇会
- 16 華になれ
花巻支部 とし美会
- 17 チャンチキ恋唄
花巻支部 春陽会
- 18 風雪ながれ旅
花巻支部 甲扇会
- 19 ささめ雪
胆沢支部 寿葉会
- 20 外山節
花巻支部 洋子杜中
- 21 古希祝い
北上支部 やよい会
- 22 人生みちづれ
花巻支部 泉会
- 23 花の兄弟
花巻支部 裕康会
- 24 里の恋唄
気仙支部 満月会
- 25 人生男船
気仙支部 野の花会
- 26 関東春雨傘
気仙支部 舞の会
- 27 鳥取砂丘
花巻支部 崇扇会
- 28 兄弟船
北上支部 幸の会
- 29 絵島生島雪の舞
釜石支部 藤舞会

30	さくら月夜	気仙支部	満月会
31	北の出世船	花巻支部	とし美会
32	熊本城	花巻支部	新友会
33	竹	花巻支部	邦扇会
34	望郷北岬	気仙支部	舞の会
35	うす雪草の恋	気仙支部	野の花会
36	沢内剣ばやし	花巻支部	洋子社中
37	男の流儀	花巻支部	有扇会
38	YUKIFUJI サンバ	北上支部	幸の会
39	お蔭	釜石支部	藤舞会
40	北岳	気仙支部	満月会
41	雪の最上川	花巻支部	裕康会
42	独楽	花巻支部	とし美会
43	助六さん	気仙支部	舞の会
44	福寿草	気仙支部	野の花会
45	はぐれ花	北上支部	やよい会
46	温故知新	花巻支部	泉会
47	北上川絶唱	花巻支部	春陽会
48	高尾山	花巻支部	有扇会
49	北の漁場	北上支部	幸の会
50	仁義の道	釜石支部	藤舞会
51	浪花恋しぐれ (桂春団治)	気仙支部	舞の会

52	陽だまり人生	気仙支部	野の花会
53	龍の道	気仙支部	満月会

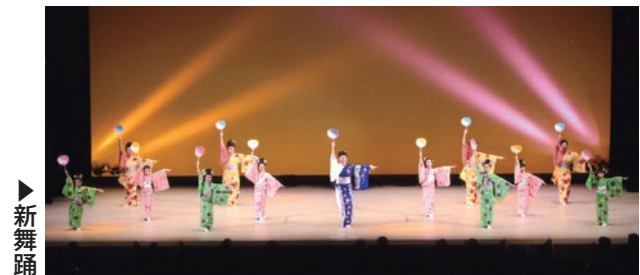
ファイナーレ

さくら音頭 気仙支部 満月会・野の花会・舞の会

《講評》 第70回岩手芸術祭参加

「未来を彩る岩手の芸術 みんなで刻もう新たな歴史」舞台等演芸部門は第19回岩手県新舞踊協会芸術祭舞踊発表会「椿の港町に舞う・潮騒の宴」として、平成29年10月15日(日)、大船渡市民会館「リアスホール」において盛大に開催された。

東日本震災後、2回目の開催となった今発表会に、早朝より多くの市民が来場、午前9時45分の開場を待たずに長い行列ができる盛況ぶり、午前10時30分開演、オープニングは気仙支部満月会の「亜矢の祭り」で幕を開け途中、主催者挨拶、沿



▶新舞踊

岸各支部会主紹介、次回開催地への大扇引継ぎ四季などを挟み、全53曲を発表、ファイナーレは気仙支部合同の「さくら音頭」でめでたく終演となった。

当日の朝方は天候が心配される空模様であったが、時間の経過とともに天気も徐々に回復し、まずまずの好天に恵まれた。

今回も多くの方のご来場をいただいて多種多様の演芸、舞台絵巻を披露することができたことに加え、終始大きな御支援と拍手をいただき感謝に堪えない思いである。

被災地の現状は未だ、復興途上であることに変わりなく、私どものこうした活動がこれからも市民の皆様にとって、心の潤いのひとつとしていただけるよう更に精進していかねければと痛感した発表会であった。

(文責・事務局 鈴木孝四郎)

▽実行委員 〓 高橋トシ 鈴木孝四郎

県民文芸作品集

県民文芸作品集は、県民の文芸活動の振興を目的として、県民から広く文芸作品を公募し、その中の優秀作品を掲載し刊行しているものであり、今回は48集となる。

会議等の運営

- 5月10日 文芸部門第1回実行委員会
(公募要項の決定等)
- 7月1日～8月31日 公募期間
文芸部門事務局会議
- 8月23日 (審査・編集スケジュールについてほか)
- 9月1日～30日 作品選考期間(種目毎に審査会開催)
- 10月6日 県民文芸作品集選考結果発表
(入賞・入選者への通知、ホームページ上での公表、マスコミ報道解禁)
- 2月21日 文芸部門第2回実行委員会
(文芸部門の運営状況の報告、次回の公募要項の決定等)

応募状況

平成29年7月1日から8月31日まで、小説、戯曲・シナ

リオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳の9種目の作品を公募した。応募作品は510点であった。

作品審査

種目ごとに審査を行い芸術祭賞、優秀賞、奨励賞作品を決定。また、今年は特別枠として岩手芸術祭70周年の節目を記念して「第70回記念賞」が設けられた。そのほか入選作品等を決定。事務局では結果をとりまとめ、10月6日に入賞・入選者へ通知するとともに、岩手県文化振興事業団のホームページ上で公表した。またマスコミ報道の解禁に合わせて、10月10日に岩手日報、また10月18日には盛岡タ



イムス紙面に記事が掲載された。

表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び第70回記念賞受賞者41名に対して、表彰式を12月9日に行った。(会場・サンセー
ル盛岡)

刊行

受賞作品等を掲載した県民文芸作品集を12月9日に刊行した。

【受賞作品・作者及び選者】

種目			賞名			受賞作／作者			選者		
小説	奨励賞	第70回記念賞	芸術祭賞	第70回記念賞	芸術祭賞	カードスタンド・ストリー／多田加久子	空色のログデータ／藍沢篠	歌うたいの雨／今和立	柏葉 幸子	斎藤 純	
戯曲・シナリオ	奨励賞	第70回記念賞	芸術祭賞	第70回記念賞	芸術祭賞	魚たちの涙／神久保敬里	推理B／今和立	「リホームゆりえ」は夢	中村 明男	好子	
文芸評論	奨励賞	第70回記念賞	優秀賞	芸術祭賞	芸術祭賞	花巻からの手紙／透谷の絶望／内藤賢一	山口青邨と、その周辺	「羅須地人協会時代」の上京について／鈴木守	望月 善次	牛崎 敏哉	

種目	随筆				児童文学				詩			
	賞名	受賞作／作者	選者				賞名	受賞作／作者	賞名	受賞作／作者	選者	
	芸術祭賞	アルストロメリア／松本幸子	須藤 宏明 野中 康行	輝	第70回記念賞	ステップ／バイ・ステッブ／遠藤勝男	芸術祭賞	兄と弟／佐々木道長	優秀賞	suprize girl／藍沢 篠	奨励賞	わたしの好きな青／佐藤礼菜
	優秀賞	心残り／小賀坂勝美			第70回記念賞	あいちゃん先生／佐々木喜久子	芸術祭賞	箸の願い／伊藤恵理美	優秀賞	失くした花のブーケ／藍沢 篠	奨励賞	泡壊／阿部双葉
	奨励賞	宝の箱／神田由美子			第70回記念賞	日差し／横澤和司	奨励賞	伊藤 正彦	第70回記念賞	あさの冷涼／藤倉清光	山下 陽子	
	随筆	病棟の窓から／川代博			第70回記念賞	北原 陽子	随筆	斎藤 英明	第70回記念賞		高橋 成昭	

種目	短歌				俳句				川柳			
	賞名	受賞作／作者	選者				賞名	受賞作／作者	賞名	受賞作／作者	選者	
	芸術祭賞	草むしり／菊池秋光	小笠原和幸 佐々木典子 清水 亜彦	折居 孝一	第70回記念賞	岩手山／安部勝衛	芸術祭賞	余熱／鳥羽ゆき子	優秀賞	曲水の宴／鈴木睦子	奨励賞	秋の宵／中嶋広江
	優秀賞	井戸水／菊池トキ子			第70回記念賞	女身仏／岩渕洋子	芸術祭賞	馬肥ゆる／平山千江	優秀賞	雑詠／柳清水広作	奨励賞	雑詠／あべ和香
	奨励賞	新聞配達／菊田 顕			第70回記念賞	雑詠／新沼志保子	奨励賞	雑詠／小田島花浪	第70回記念賞	雑詠／宇部 功	奨励賞	雑詠／新沼志保子
	随筆	落人の里／山内義廣			第70回記念賞	雑詠／柳清水広作	随筆	雑詠／小田島花浪	第70回記念賞	雑詠／宇部 功	随筆	雑詠／小田島花浪

文芸祭

小説大会

11月4日(土)

岩手県民会館会議室・参加者9名

▽講師

柏葉幸子（作家・県民文芸作品集選者）

斉藤 純（作家・県民文芸作品集選者）

《講評》 今年度の小説大会は、岩手県民会館第3会議室を会場に、県民文芸作品集の応募者や一般の方々の参加を得て開催された。

小説大会は、県民文芸作品集の選者が講師を務め、応募作品の選評を主な内容としている。

最初に講師から、今回の応募作品の総評と創作にあたっての注意点についてお話があり、その後、参加者の作品について個々に講評いただき質疑応答の時間を設けた。

総評と創作にあたっての注意点について、講師からは「読者を意識した作品を重視した。今年で4年目だが、最初は小説というよりはエッセイのような作品が多かった。年々工夫し、読んでもらうことを意識した作品が集まるようになった。なぜ小説でなければならないのか、読んでくれた

人がどう思うか、人の目に触れることを意識して書いてほしい。」とお話いただいた。

参加者作品の講評では、他の参加者の作品を読むことができなため、講師が作品のあらすじを紹介しながら、作者が書きたかったことを確認し、良い点や注意点を挙げていただいた。また参加者も疑問や悩みなどを講師に話しアドバイスを受けていた。

小説大会の運営は、事務局となる団体が組織化されていないため、芸術祭実行委員会事務局が直接行っている。淡々と事務をさせていたが、参加者の側に立った視点での大会運営を心がけたい。毎年アンケートを行っているが、今年「参加して良かった。選者の方が変わると聞き残念。」等の声をいただいた。

講師のお二人には4年間に渡り県民文芸作品集の選者及び文芸祭の講師を務めていただいた。参加者が直



▶小説大会

接講評を受けることができる貴重な機会を設けていただき
感謝申し上げます。

(実行委員会事務局 久保田幸恵)

戯曲大会

11月23日(木・祝)

盛岡劇場タウンホール・参加者25名

▽運営委員

昆 明男 倉持裕幸 高村明彦

《講評》 今回の戯曲大会は、日本劇作家協会東北支部と提携し、第70回岩手芸術祭戯曲大会／2017年度日本劇作家協会東北支部企画、戯曲リーディング&ブラッシュアップセミナーワークショップ「お試しリーディング」と題して開催した。

この企画は、(一社)日本劇作家協会で開催している「月いちリーディング」の手法を用いて、戯曲のブラッシュアップを図るというものである。

事前に戯曲を募集、選考し、コーディネーターが、配役を決定。当日午前中に劇作家立ち会いのもと、俳優たちが、初見の戯曲をリーディングする。どのように読むか、戯曲

の特性を理解し、演出をつけ、進行の役割を担うのはファシリテーターである。

コーディネーターには、高村明彦氏(現代時報)、ファシリテーターには遠藤雄史氏(劇団トラブルカフェシアター)を配し、ゲストには東京から長谷基弘氏(劇団桃唄309)、青森から畑澤聖悟氏(渡辺源四郎商店)をお招きした。

戯曲リーディングの後、ゲスト、俳優、参加者を含めて、ブラッシュアップのディスカッションを行う。

今回取り上げられた戯曲は、東日本大震災をテーマにした、仙台の劇作家、井伏銀太郎氏の作品、Requiem 鎮魂劇 三部作「海月と花火」「前夜」「ニライカナイの風」。

作品に対して「良かったところ」を参加者からあげてもらい、次に「作者から参加者への質問」をいくつか提示してもらう。その後、フリートークとなって作品をよりよいものに引き上げる助言を行うのである。

研究をめぐって」のミニ講演があった。

次は『県民文芸集』文芸評論部門入賞者による研究発表で、まず第70回岩手芸術祭を記念して今回だけ設けられた第70回記念賞の仲村重明氏が「啄木短歌の「すべて金なきに」への推論」と題して、啄木短歌に現れる「金」に直結する「貧困」について、続いて奨励賞の鈴木守氏が「羅須地人協会時代」の上京について」と題して、賢治の年譜上の疑義について発表された。

優秀賞の発表は、内藤賢

一氏による「花巻からの手紙」透谷の絶望」と題して、透谷を中心に日本近代文学についての考察、続いて芸術祭賞の赤崎学氏が「山口青邨と、その周辺」と題して、山口青邨の紹介とともに、師の高浜虚子、同郷でありながら対称形としての佐藤鬼房、弟子であり原子物理学者でもある有馬朗人の3人を通して、青邨の人と作品を取り上げた。

文芸評論大会

10月9日(月・祝)

岩手大学農学部1号会議室・参加者7名

▽運営委員

望月善次 牛崎敏哉

《講評》 岩手芸術祭文芸祭「文芸評論の部」は、岩手大学農学部第1会議室を会場に、10月9日(月・祝)午後1時から開催された。参加者は昨年より12名減の7名にとどまった。

はじめに『県民文芸集』文芸評論選者であり、本文芸祭実行委員である望月善次より開会挨拶と「啄木・賢治研究賢の近況」国際啄木学会・八雲大会報告等」と題してミニ講演があり、続いて同じく選者・牛崎敏哉「最近の賢治



◀ 戯曲大会



▶ 文芸評論大会

最後は招待講演として、宮沢賢治学会会員・日本地質学会会員である原子内貢氏よりお話いただいた。演題は「宮澤賢治の碑（いしぶみ）」であったが、碑に関しては最初の数分で、あとは宮沢賢治にかかわる地学的疑義についての興味深い考察であった。

毎回のことはあるが、各々の発表後のわずかな時間で、活発な質疑応答がなされた。

全体は予定通り午後4時前に終了、そのまま同じ会場にて懇親会が開かれた。最後は次回参加者を増やそうということが確認された。

（牛崎敏哉）

随筆大会

10月22日(日)

花巻市定住交流センター会議室1・

参加者15名

▽講師

須藤宏明（県民文芸作品集選者）

野中康行（県民文芸作品集選者）

《講評》 今年度の随筆大会は、花巻市のなはんプラザを会場に、県民文芸作品集の応募者の参加を得て開催された。

人がいたので、きちんと守っていただきたいとの注意があった。

その後は個々の作品について具体的な講評をいただき、参加者からの質問に答えていただいた。参加者が若干少なくなつたとはいえ、個々の講評時間は一人5分程度と短く質問時間の足りない人もいた。

話題を共有できるよう、参加者の作品を資料として、事前に送付するやりかたも定着してきて、ほとんどの方が良く読んでくださり、自分の作品以外の講評にも熱心に耳を傾けていただいた。

今年も昨年と同じく少ない参加者数であった。皆さんからのご意見を参考に、参加する人が満足できるように大会運営を心掛けたい。

（実行委員会事務局 久保田幸恵）

児童文学大会

10月29日(日)

ビッグブルー滝沢 小ホール（滝沢市）

合評会18名／講演会35名

▽運営委員

高橋 昭 千葉留里子 加藤典夫

随筆大会は盛岡と盛岡以外の地区を隔年で開催することとしており、昨年は盛岡市での開催であった。参加者は開催地の花巻市の方が多く、盛岡以外での開催の意義を感じられた。

講師は県民文芸作品集の選者である盛岡大学文学部教授の須藤宏明先生と、岩手日報随筆賞の受賞経験があり、平成28年度岩手県芸術選奨を受賞された野中康行先生のお二人にお願いしている。

大会は、最初に講師の二人から県民文芸作品集についての総評をいただいた。今回は題材も読みごたえのある作品が多く、長年作品を書き続けている人の作品に多く目が留まった。文章がしっかりしているか、構成がしっかりしているか、感動の部分がしっかり書かれているかが賞の選考の決め手になっているとお話されていた。また、応募規定では原稿用紙4枚となっているが、それ以上に書いている

《講評》 児童文学大会は、一般の方、「県民文芸作品集」の応募者、運営をしている岩手児童文学の会会員の参加で行われた。

○「県民文芸作品集」の応募作品の選評と合評
選者の齋藤英明氏が、対象をどこに置くかで、漢字や文の組み立てが違ってくるなど、創作上の注意を話された。

その後、合評希望があった二作品の合評を行った。
『Sunrise Girl（サブライズ ガール）』藍沢 篠（優秀賞）
『あいちゃん先生』佐々木 喜久子（第70回記念賞）

○講演 演題「言葉の力」
講師 藤村由美氏
（盛岡児童文学研究会、絵本専門士）

藤村氏が『おめんです』や『どうぶつしんちょうそくてい』など、いくつかの絵本を読み聞かせると、会場に集まった幼児たちが呼びかけに応えるなどで、なかなか雰囲気が始まった。しかけ絵本など、いろ



◀随筆大会



▶児童文学大会

いろいろな種類の絵本の紹介があった。

『大草原の小さな町』の翻訳者3人の訳、「なんですってね、とうちゃん？」／「今、なんていったんですか、チャールズ？」／「なんておっしゃったの、チャールズ？」を並べ、読んだ印象の違いを指摘し、テーマの「言葉の力」に迫っていった。また、放映されたTVドラマに、どんなに大きく影響を受けているかも述べた。

児童図書にふれ合うことになったきっかけや、絵本を子どもたちに聞かせてきた豊富な体験を話された。講演を終えて、いくつか質疑応答があった。

(加藤典夫)

詩の大会

10月28日(土)

花巻市定住交流センター会議室1

参加者22名

▽選者

山下正彦 伊藤諒子 北原陽子

▽運営委員

北原陽子 兒玉智江 松崎みき子

《講評》 文芸祭賞「沖へ行く船」花石邦夫。回想を船が沖へ行くと表現した。ありきたりの言葉でない表現が、新鮮で、読み手を惹きつける。教師、級友達の優しさがにじむ。中盤、説明的で長すぎた。整理すれば作品全体がしまると思う。

優秀賞「分かれ道」糠塚玲。歩き慣れた道の途中で、ふと立ち止まり思いをめぐらす。それは人生の道とも見える。短い一編の中に、多くの思いがかきたれられる作品。

奨励賞「ぐみの実」藤野なほ子。手なれた書き方。発見の驚き、自然の営みへの感謝がよく書かれている。
奨励賞「気仙杉」金野清人。凜と立つ杉への畏敬の思いが伝わる。杉に詩人の姿を重ねたのは類想的。今一歩先へ。

佳作「田の友」兒玉智江。命あるものはみな同等。作者の優しい視線が際立つ。終連がいい。
佳作「蒼い記憶」田村博安。省略されすぎてイメージが

追いつかない感もあるが、詩人的感性は鋭く光っている。
佳作「メーデー」藍沢 篠。独自の視点、世界観は魅力的だが、それが読者に伝わる書き方を考えることも大事。
佳作「旅人」阿部双葉。若者らしいセンスは捨て難い。が、全体的にまとまりが無い。浮かんた言葉を整理して。
新人賞「損失余命」黄金崎舞。題が衝撃的で目をひいた。終連「私は私を殺して生きている」は真を衝いた表現と同等感した。今後の作品に期待する。

(伊藤諒子)

短歌大会

10月14日(土)

盛岡市勤労福祉会館(盛岡市)

出詠者100名・参加者80名

▽選者

佐藤怡當 岡田紘子 酒井久男 松田久恵
吉田史子

▽運営委員

赤澤篤司 外館克裕 山本 豊

《講評》

文芸祭賞

髪飾りゆれて太鼓を打つ孫を人垣にそひ追ふごとくゆく
小川昌子(盛岡市)

さんさ踊りだろう。髪飾りを揺らして太鼓打つ孫の姿を追ってゆく祖母。感情表現を避け、事実だけを詠んでいる。短歌の得意とする表現形である。孫に対する祖母の思いが心に響く。読者はこの歌の囁きに耳を傾ける。文芸祭賞に相応しい作品である。

優秀賞

雪の朝野良猫たちは庭先に花びらのごと足跡残す

猿橋洋子(滝沢市)

雪の朝の小さな景を逃さずに救い上げた作者。野良猫たちの雪に残した足跡を「花びらのごと」という美しい比喩で一首とした。短歌は発見を三十一音で表現することである。そして、読者はそれに納得し感動する。短歌の可能性を示して秀逸である。

奨励賞

癌を病む友を見舞へば病室の互の言葉ときをり途絶ゆ



▶短歌大会



◀詩の大会

山本 豊（盛岡市）

癌は死を暗示させる病である。癌を病む人を見舞った時の重苦しさは誰でも感じるものだろうが、作者は途絶える言葉に病の重大さを感じた。繊細な心から生まれた一首である。「途絶ゆ」に万感が籠もる。短歌だから表現できることを作者は知っているに違いない。

選者賞

岡田紘子選

是非もなく核の世に住み怯えつつ萩さく野辺に方位なく居り

上野和子（盛岡市）

酒井久男選

飢えながら力尽きたる兄思ふ戦場はるかボルネオと聞く

石井啓子（盛岡市）

佐藤怡當選

毀ちゆく家もろともに五十年使ひし包丁色寂ぶるなり

高橋美彌子（盛岡市）

松田久恵選

見おろせば梢の先に昼花火音轟きて煙とどまる

堀内敏子（盛岡市）

吉田史子選

言ひかけし君の言葉を思ひをり百日紅は夕光の中咲く

決定した。その句を除き各選者が選者賞を選んだ。

〔文芸祭賞〕

じゃがいものみな正直な顔してる 花巻市 安部克詠
じゃがいもを見て作者は直感的に正直な顔と思った。思惟判断や推理など思惟作用を加えず対象を直接的にとらえ表現。それにより読者は意外に思うとともに納得させられた。正直な顔とは言い得て妙である。

〔優秀賞〕

市役所に子ども未来課鮭
上る 盛岡市 兼平玲子
前句と同じように意外性がある。市役所に未来課のあることである。鮭の回帰性と未来課が結びついている。

〔奨励賞〕

どんぐりの夕日の色を拾
ひけり

花巻市 高橋和枝
落ちたどんぐりは日に風に雨にさらされているが、夕日に照らされて作者が拾



俳句大会

青木綱子（奥州市）

出詠者100名は昨年と同程度と考えて良い。岩手県歌人クラブの会員は、高齢化により年々減少しているが、出詠者には会員外の人も多く参加し、文芸祭は成り立っている。県民文芸の趣旨は満たされていると考えることもできるが、若い短歌作者を取り込むことは急務である。

（赤澤篤司）

俳句大会

10月21日(土)

岩手県公会堂26号室（盛岡市）・出席者89名

▽選

者Ⅱ小畑柚流 小菅白藤 川原道程 小林輝子

吉田一路 名久井清流 服部常子

▽運営委員

Ⅱ山火律子 佐々木昌子 長谷川かよ子

兼平玲子 工藤幸子 及川永心

《講評》

今年は第70回という節目の大会であった。参加者は82名と選者6名、顧問1名。参加者が3名ではあるが、昨年より増えたことは喜ばしいことであった。

三句投句で総数は246句。選者の小菅白藤氏が諸事情により欠席、6名により慎重審議のうえ全員一致で三賞を

つたときはかすかなぬもりがあったのであろう。夕日の色の表現が引き立つ。写生句の中に生を感じる部分が引き出されている。

〔小畑柚流選〕 稲育て人を育てし山拝む 円子涼子

〔川原道程選〕 パズルにもジャズにも飽いて夜の長し 兼平玲子

〔小林輝子選〕 姫神山の裾ととのふる草紅葉 栃内和江

〔吉田一路選〕 己吐く糸を力に生きる蜘蛛 小原きよ

〔名久井清流選〕 洗ふ人あて大根の白さかな 山火律子

〔服部常子選〕 藩境の大河を越えて雁渡る 山火律子

（小林輝子）

川柳大会

10月14日(土)

いわて県民情報交流センター・アイーナ501号
（盛岡市）・参加者61名

▽選者

Ⅱ熊谷岳朗 徳田ひろ子 鷹嘴閼雄 河野康雄
及川洋一郎 角掛往来児 佐藤岳俊

《講評》

毎年、日曜日に開催している文芸祭川柳大会であるが、今年も、いつも利用している会場の都合により、土

曜日開催となっていました。仕事の関係上参加できないという連絡を頂いたり、他のジャンルもそうだとお聴きしたが、愛好者の高齢化が進んでおり、参加者の動向が気になったが、ほぼ昨年通りの参加者で、先ずはホッとしたところである。

尚、高齢化のせいかどうかは分からないが、それ相応の作品ばかりが並び、新鮮さに欠けていたことは否めないとの、選考委員からのご指摘を頂いた。川柳の明日のため一考を要すると思った。

例年通り、各選者が推す特選句七句を県川柳連盟役員等が第2次選考に当たり、三賞を決定した。結果は次の通りである。

文芸祭賞

洋野町 野口一滴

写経百卷罪を洗って地に還る

生きるため必死ではあるが、晩年はこうでありたいという作者の願いが評価された。

優秀賞

洋野町 野口一滴

月の暈きつと涙の輪であろう

想いを軽く表現しているところが、好感をもって受け取られた。

奨励賞

洋野町 柳清水広作

人間の驕りを睨む阿修羅像

アートフェスタいわて2017―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展十岩手県美術選奨受賞者作品展―

岩手県立美術館と岩手芸術祭実行委員会共催事業岩手県立美術館企画展「アートフェスタ2017―岩手芸術祭受賞作品 推薦作家展十岩手県美術選奨受賞者作品展―」は、平成30年3月3日（土）～3月25日（日）まで、岩手県立美術館で開催された。

この展覧会は岩手芸術祭に集う美術家たちの作品を広く県民に紹介する場として、平成15年度から開催しており、今回15年目を迎えた。

今年度は、岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品110点を、平成27年度岩手県芸術選奨を受賞した美術家5人の作品と合わせて展示した。

会期中には部門別のギャラリートーク（作品解説会）が行われ、観覧者が作品への理解を深めた。

鑑賞者数は2671人であった。

▽出品点数

日本画 8点

人間の驕りは地球さえ破壊するという風刺を評価。
その他の特選句

9:11 3:11 生で見た

一匹の猫に孤独を覚えられる

疑問符でいっぱいポケットは小石

責任を取らぬ政治に世が乱れ

紫波町 鷹嘴閣雄

紫波町 熊谷岳朗

花巻市 塩釜アツシ

滝沢市 田中士郎

（熊谷岳朗）



▶川柳大会

洋画	18点
版画	8点
彫刻	8点
工芸	10点
書道	18点
写真	13点
デザイン	8点
現代美術	7点
水墨画	12点
合計	110点

▽部門別ギャラリートーク

3月3日（土） デザイン・写真・現代美術

3月4日（日） 彫刻・日本画・工芸

3月10日（土） 版画・洋画

3月17日（土） 書道・水墨画

▽企画・運営委員

片山道子（日本画）・石川西三（洋画）・鈴木和雄（版画）・

清武英司（彫刻）・阿部裕之（工芸）・吉田晨風（書道）・

菊池克美（写真）・竹村育貴（デザイン）・小笠原卓雄（現代美術）・鈴木孝男（水墨画）

テーマ募集

第70回岩手芸術祭を開催するに当たり、芸術文化の創造と発展をイメージさせるテーマを懸賞募集した。

- 1 応募期間
平成29年4月～5月31日
- 2 応募総数
103点（27人）
- 3 選定方法
6月21日（水）選定委員会を開催し、選定を行った。
〔委員〕 安倍 一洋（実行委員会副会長・吹奏楽）
小笠原卓雄（美術部門実行委員長・現代美術）
花柳美寿晴（日舞）
菊池 昭子（弦楽）
熊谷 岳朗（川柳）
小野寺文雄（地域）
- 4 選定結果
◎優秀作【岩手芸術祭テーマ】
「未来を彩る 岩手の芸術
みんなで刻もう 新たな歴史」
津志田勇孝さん（八幡平市）

○佳作

「豊かな感性 きらめく個性 明日への希望
芸術の力」

白木澤京子さん（大船渡市）

「ときめき感動 未来につなぐ 文化の祭典」

佐藤 節子さん（盛岡市）

「芸術で 心つながる 過去未来」

芦口このみさん（洋野町）

「70回紡いだ文化 未来へ繋げ 君の手で」

有原すみれさん（花巻市）

※ 優秀作作者は10月7日（土）の開幕式典において表彰した。

実行委員会名簿

【実行委員会】

会長＝柴田 和子
副会長＝安倍 一洋 熊谷 睦男
監事＝高橋 トシ 柳清水広作

区分	委員長名	所属
主催者	中里 裕美	岩手県文化スポーツ部 文化振興課総括課長
	菅野 洋樹	岩手県文化振興事業団理事長
	柴田 和子	岩手県芸術文化協会会長
	鈴木 孝男	岩手県芸術文化協会副会長
美術	小笠原 卓雄	現代美術部門
	北村 義美	水墨画
演劇	坂田 裕一	演劇
伝統芸能	室岡 提子	邦楽
	鈴木 宗基	茶道
	山口 剛	声楽
	菊池 昭子	弦楽
	伊藤 衡山	三曲
音楽	安倍 一洋	吹奏楽

【美術部門実行委員会】

部門	委員長名	部門	委員長名
日本画	西山 善有	書道	吉田 晨風
洋画	石川 西三	写真	太田 信子
版画	日下 信介	デザイン	菊池 克美
	鈴木 和雄		竹村 育貴
彫刻	清武 英司	現代美術	吉田 康則
	曾根 達也		小笠原 卓雄
	阿部 裕之		浅倉 卓雄
工芸	竹田 康夫	水墨画	鈴木 孝男
			北村 義美

舞踊	小柳 玲子	洋舞部門
花柳 美寿晴	日舞	
高橋 トシ	新舞踊	
加藤 典夫	児童文学	
柳清水 広作	川柳	
加藤 均	岩手県小・中学校美術展協会	
熊谷 睦男	陸前高田市芸術文化協会	
小野寺 文雄	宮古市芸術文化協会	

第70回岩手芸術祭実行委員会 収支予算書（最終予算）

1 収入の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
負担金	10,830	主催団体、巡回美術展開催市町
入場料	1,026	美術展入場料
諸収入	320	広告料、預金利子
繰越金	1,873	第69回会計より
計	14,049	

2 支出の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
実行委員会	1,942	功労者表彰、新聞広告、印刷物製作
美術展	2,705	印刷物製作、会場使用料、部門負担金
巡回美術展	1,777	写真パネル製作、作品輸送、印刷物製作
小・中学校美術展	353	小中学校美術展協会負担金
巡回小・中学校美術展	31	〃
演劇	614	部門負担金
伝統芸能	738	部門負担金
音楽	1,120	〃
舞踊	720	〃
演芸	362	〃
移動公演	450	〃
県民文芸作品集	1,106	選者謝金、賞金、作品集買上
文芸祭	412	部門負担金
予備費	1,719	
合計	14,049	

音 楽						伝統芸能										演 劇		部門
弦 楽		声 楽		合 唱		詩吟 舞道		華 道		茶 道		邦 楽		能 楽				
増田真紀子	菊池昭子	丸岡千奈美	山口剛	小濱和子	山田靖了	村上征岳	立身岳元	小原宏華	猿子滋苑	平野宗蕙	鈴木宗基	室岡提子	福士幸雄	佐野剛章	菊池昭二	鬼沢陽子	坂田裕一	委員長名
演 芸						舞 踊		音 楽								部門		
新舞踊		民 謡		日 舞		洋 舞		管弦楽		ギター		ピアノ		吹奏楽			三 曲	
鈴木孝四郎	高橋トシ	三上紀子	藤沢清美	水木楓	花柳美寿晴	久慈幸恵	小柳玲子	齊藤 弦	寺崎 巖	佐藤勝政	橋本博行	成瀬ゆかり	滝沢昭弘	小山智一	安倍洋	立野呈山	伊藤衡山	

【舞台等部門実行委員会】

◇実行委員会事務局
事務局 長 〓 坂本 誠一（県文化振興事業団事務局長）
事務局 次 長 〓 佐々木 仁志（県芸術文化協会事務局長）
事務局 員 〓 伊藤 祐樹（県文化スポーツ部文化振興課）
佐々木 訓子（県文化振興事業団総務部）
鈴木 宣子（県文化振興事業団総務部）
岩崎 桂子（県芸術文化協会）

詩			児童文学			随筆	文芸評論	シナリオ	戯曲・	部門		
北原陽子	兒玉智江	松崎みき子	加藤典夫	千葉留里子	高橋昭	野中康行	牛崎敏哉	望月善次	倉持裕幸	昆明男	委員長名	
			川	俳			短			部門		
			柳	句			歌					
			熊谷岳朗	柳清水広作	佐藤岳俊	佐々木昌子	長谷川かよ子	山火律子	赤澤篤司	外館克裕	山本豊	委員長名

事務局日誌抄

委員会

〈4月〉

1日 テーマ作品募集開始（応募締切5月31日）

〈5月〉

9日 美術部門第1回実行委員会

10日 文芸部門第1回実行委員会

12日 舞台等部门第1回実行委員会

24日 第1回実行委員会

【議題】 第69回収支決算、テーマ募集、第70回開催要綱、実行委員会会則等、実施計画、収支予算、役員の選出について ほか

〈6月〉

1日 美術部門事務局局員会議

21日 テーマ選定委員会（テーマ決定）

〈7月〉

1日 作品等の公募要項配布（美術展、県民文芸作品集、声楽演奏会、ピアノ演奏会、小・中学校美術展）
26日 アートフェスタいわて2017第1回企画・運営

〈8月〉

23日 文芸部門事務局局員会議

23日 美術部門第2回実行委員会

24日 舞台等部门事務局局員会議

〈9月〉

9日 美術展作品受付

10日 美術展作品審査（三賞決定）

12日 第2回実行委員会

【議題】 開幕式典の実施、感謝状贈呈候補者について

〈10月〉

7日 美術展開催（4期に分けて展示。～10月29日）

7日 開幕式典（功労者表彰）・総合フェスティバル

〈11月〉

3日 巡回美術展開催（7市町。～1月20日）

18日 美術部門表彰式・祝賀会

23日 小・中学校美術展開催（～26日）

〈12月〉

9日 県民文芸作品集第48集刊行

9日 文芸部門（県民文芸作品集）表彰式・祝賀会

16日 巡回小・中学校美術展開催（5市村。～2月4日）

30日 記録集刊行

〈1月〉

25日 アートフェスタいわて2017第2回企画・運営委員会

〈2月〉

20日 美術部門第3回実行委員会

21日 舞台等部门第2回実行委員会

21日 文芸部門第2回実行委員会

26日 第3回実行委員会

【議題】 第70回岩手芸術祭の実施結果について、収支予算の補正について

〈3月〉

3日 アートフェスタいわて2017開幕（～3月25日）

19日 会計監査

〈4月〉



▲美術展ポスターデザイン

吉田 康男



▲総合ポスターデザイン

佐々木 優子



▲公募ポスターデザイン

佐々木 優子

《編集後記》

◆戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようとする先人の努力により昭和22年に始まった「岩手芸術祭」は、芸術の秋を彩る県内最大のイベントとして県民に親しまれ、今年70年の節目を迎えました。

◆今年は公募部門において、「第70回記念賞」を設け、70周年をアピールいたしました。また、舞台部門におきましては、部門運営の功労者を顕彰するなどし、70周年の機運を醸成しました。本当に多くの方に関わっていただいて、芸術祭が続けられてきたことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

◆国内でも栃木県に次ぐ長い歴史を持つ「岩手芸術祭」に事務局として参加する機会に恵まれたことは、たいへん光栄なことでしたし、同時にこれまで築き上げてきた歴史の重みをひしひしと感じた1年でした。時代背景も変わり、趣味の多様化など、生活環境が目まぐるしく変化する中、先人の思いを十分継承できているか、今はまだわかりません。10年後の岩手芸術祭を楽しみに待ちたいと思います。

◆本記録集は、開催年の年末から翌年の年度末にかけて編集作業が続きますが、開催中は気づかなかった各部門の苦労や運営上の工夫など垣間見ることができ、事務局冥利に尽きます。

◆本書はデジタルブックとして、インターネットを通してどなたでも閲覧いただけるようになっております。

◆内容は今まで通り、第70回岩手芸術祭の実施報告書として作成し、今後の資料としても御活用いただけるよう、各種目のプログラム、公募要項、入賞者名簿、講評・選評等をまとめています。関係機関、関係団体など多くの方々にご覧いただき、今後の県民の芸術文化活動に係る参考資料として御活用ください。

◆第70回岩手芸術祭も記録集の完成をもって一切の事業が終了します。関係各位の御協力に、改めて感謝申し上げます。

「第70回岩手芸術祭」

発行 日 平成30年4月30日

編集・発行 第70回岩手芸術祭実行委員会
(〒020-0023)

盛岡市内丸13-1

第70回岩手芸術祭実行委員会

(岩手県文化振興事業団総務部内)
電話 019(654)2235

印刷・製本 株式会社吉田印刷

盛岡市名須川町23番27号
電話 019(625)2323

第70回岩手芸術祭開催状況

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
開幕式典・総合フェスティバル		10月7日(土)	岩手県民会館／大ホール	無料	1,800人
総合フェスティバルin気仙		H30年1月20日(土)	リアスホール(大船渡市)	無料	1,200人
美術展	1期 日本画／版画／水墨画	10月7日(土)～10月10日(火)	岩手県民会館／展示室	300円 高校生以下無料	4255人
	2期 写真／デザイン／現代美術	10月12日(木)～10月15日(日)			
	3期 洋画／彫刻	10月19日(木)～10月22日(日)			
	4期 工芸／書道	10月26日(木)～10月29日(日)			
巡回美術展	美術展入賞作品(78点)	11月3日(金・祝)～11月5日(日)	一戸町コミュニティセンター	無料	1,707人
		11月16日(木)～11月19日(日)	奥州市文化会館		
		11月23日(木・祝)～11月26日(日)	山田町中央公民館		
		12月2日(土)～12月3日(日)	アンバーホール(久慈市)		
		12月9日(土)～12月10日(日)	一関文化センター		
		12月13日(水)～12月14日(木)	宮古市民文化会館		
		H30年1月19日(金)～20日(土)	リアスホール(大船渡市)		
校小・中 美術展	小・中学校 書写、絵画	11月23日(木・祝)～11月26日(日)	岩手県民会館／展示室	無料	2,909人
学校巡回 美術展	小・中学校美術展 入賞作品(384点)	12月16日(土)～H30年2月4日(日)	九戸村公民館など5会場	無料	835人
演劇	「劇団ゼミナール」公演	10月28日(土)～29日(日)	盛岡劇場／タウンホール	1,500円(1,200円)ほか	224人
	映像フェスティバル	11月18日(土)～19日(日)	もりおか町家物語館／浜藤ホール	1,800円(1,500円)ほか	291人
	「劇研麦の会」公演	11月19日(日)	宮古市民文化会館	無料	100人
	「北芸の会」公演	H30年2月25日(日)	日本現代詩歌文学館	1,200円(1,000円)	95人
	「The雲人」公演	12月24日(日)	二戸市民文化会館	500円(中学生以下無料)	210人
	一関藤沢市民劇場	H30年2月25日(日)	縄文ホール	1,500円(1,000円)ほか	281人
	茶会	10月1日(日)	盛岡市中央公民館	2,300円(2,000円)	828人
伝統芸能	吟詠剣詩舞道祭	10月29日(日)	岩手県民会館／大ホール	無料	950人
	謡と仕舞の会	11月5日(日)	岩手県民会館／中ホール	無料	350人
	華道展	9月1日(金)～4日(月)	岩手県民会館／展示室	300円	2,727人
	邦楽のつどい	11月12日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	365人

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
音楽	ソロと室内楽の調べ	10月8日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	186人
	ピアノ演奏会	10月21日(土)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	280人
	三曲演奏会	10月22日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円	310人
	声楽演奏会	11月4日(土)	岩手県民会館／中ホール	900円(中学生以下無料)	265人
	ギター音楽の夕べ	11月11日(土)	岩手県民会館／中ホール	700円(500円)中学生以下300円	163人
	吹奏楽演奏会	11月23日(木・祝)	盛岡市民文化ホール／大ホール	1,000円(700円)小学生以下無料	752人
	合唱祭	12月3日(日)	一関文化センター／大ホール	1,000円(800円)高校生以下700円(500円)	932人
舞踊	管弦楽フェスティバル	12月10日(日)	胆沢文化創造センター／大ホール	500円(小学生未満無料)	200人
	洋舞発表会	10月15日(日)	岩手県民会館／大ホール	5,000円	1,123人
演芸	日本舞踊公演	11月19日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,500円	1,270人
	新舞踊発表会	10月15日(日)	リアスホール／大ホール	2,000円(1,500円)	850人
	民謡まつり	11月5日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円(1,500円)高校生以下無料	700人
文芸祭	短歌大会	10月14日(土)	盛岡市勤労福祉会館	出詠料1,000円 会費1,000円	100人
	文芸評論大会	10月9日(月・祝)	岩手大学農学部一号会議室	無料 懇親会1,000円	7人
	俳句大会	10月21日(土)	岩手県公会堂	1,500円	89人
	詩の大会	10月28日(土)	なはんプラザ(花巻市)	1,000円 ※投稿は事前申込(1,000円)	22人
	小説大会	11月4日(土)	岩手県民会館／会議室	無料	9人
	川柳大会	10月14日(土)	アイーナ501号室(盛岡市)	2,000円(投句は事前1,000円) 懇親会(3,000円)希望者	61人
	随筆大会	10月22日(日)	はなんプラザ／会議室	無料	15人
	児童文学大会	10月29日(日)	ビッグルーフ滝沢／小ホール	無料	53人
	戯曲大会	11月23日(木・祝)	盛岡劇場／タウンホール	1,000円／大学生以下500円	25人
	県民文芸作品集第48集刊行	小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳		12月9日刊行	510点
移動公演	新舞踊公演	11月26日(日)	サンホテル衣川荘(奥州市)	無料	116人
	声楽公演	12月10日(日)	一戸町コミュニティセンター	無料	130人

※料金の()内は、前売り料金

第70回岩手芸術祭市町村別応募作品数一覧

		美術展応募点数										県民文芸作品集応募点数											
部門 市町村名		日 本 画	洋 画	版 画	彫 刻	工 芸	書 道	写 真	デ ザ イ ン	現 代 美 術	水 墨 画	計	小 説	戯 曲	文 芸 評 論	随 筆	児 童 文 学	詩	短 歌	俳 句	川 柳	計	
盛岡市	盛岡市	8	50	24	4	11	92	76	29	22	51	367	3	1	3	18	3	31	26	65	19	169	
	八幡平市		2					1				3						5	1	4		10	
	岩手町		1					1	4			6									1	1	
	雫石町		7					1		1		9								1		1	
	葛巻町		2						4			6								1		1	
	滝沢市		12	3	1	1	8	5	5	2	8	45	1				3	1	3	4	1	2	15
	紫波町		4	3			3	9	2			2	23	1		1	1			2	5	5	16
	矢巾町	3	6	3	8			5	2	2		1	30						1	1	2		4
小計	11	84	33	13	15	116	94	36	25	62	489	5	1	4	22	5	40	34	79	27	217		
中部	花巻市	1	8				6	6	11	1	2	7	42	3		1	12		6	4	16	13	55
	遠野市			5				4	2	3		1	1	16				1			1	2	4
	北上市			11	2	2	4	4	2		2	5	32	1			6		9	6	29	1	52
	西和賀町												0								1	1	2
	小計	1	24	2	2	14	12	16	1	5	13	90	4	0	1	19	0	15	10	47	17	113	
県南	奥州市	1	6	4	3	2	6	3			1	26	1				3	2	2	5	24	3	40
	金ヶ崎町											0					6				4		10
	一関市	1	13	1	2	3	3	2			20	45		1			2		4	6	6	3	22
	平泉町	2						1	1			1	5				2				2		4
	小計	4	19	5	5	5	10	6	0	0	22	76	1	1	0	13	2	6	11	36	6	76	
沿岸南部	大船渡市		4					2	1		1	2	10				2		8	2	3	1	16
	陸前高田市							2				2								1	2	5	8
	住田町											0											0
	釜石市		7	2	1	2	6	7	2		2	29			1						1		2
	大槌町		1						1	2		4											1
	小計	0	12	2	1	2	10	9	4	1	4	45	0	0	1	2	0	8	4	6	6	6	27

		美 術 展 応 募 点 数										県民文芸作品集応募点数											
市町村名		日 本 画		洋 画	版 画	彫 刻	工 芸	書 道	写 真	デ ザ イ ン	現 代 美 術	水 墨 画	計	小 説	戯 曲	文 芸 評 論	随 筆	児 童 文 学	詩	短 歌	俳 句	川 柳	計
		画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画
宮 古 市	宮 古 市	2	21	1		2	17	5		2		50	1	1	1	2	2	4	3	5	10	29	
	山 田 町	8	1					2				11							1	1		2	
	岩 泉 町		1			3						4							2	1	1	4	
	田 野 畑 村		1			13	1		1	1		17										0	
小 計		10	24	1	0	18	18	7	1	3	0	82	1	1	1	2	2	4	6	7	11	35	
県 北	久 慈 市		4					6				10	2	2			1		2	7	3	17	
	洋 野 町						1					1								1	3	4	
	野 田 村											0										0	
	普 代 村											0								1	1	2	
	二 戸 市		11				4	2				17									1	1	
	一 戸 町		2				1			1	1	5								2		2	
	軽 米 町					1	1					2										0	
	九 戸 村				1							1										0	
小 計		0	17	0	1	1	7	8	0	1	1	36	2	2	0	0	1	0	2	11	8	26	
県 外		2	2		2	4	1				2	13	2	1	0	0	0	9	0	1	3	16	
合 計		28	182	43	24	59	174	140	42	35	104	831	15	6	7	58	10	82	67	187	78	510	

*県外内訳…青森県3、宮城県4、福島県1、栃木県6、東京都1、神奈川県1

第70回岩手芸術祭記録集 付録

第70回岩手芸術祭記録集付録 目次

開催要綱	2
実行委員会会則	3
岩手芸術祭運営組織	6
美術部門実行委員会運営規程	7
実行委員会感謝状贈呈に関する規程・選考基準	8
協賛事業の名義の使用承認事務手続要領	9
美術展公募要項	13
県民文芸作品集第48集公募要項	21
文芸祭開催要項	24
声楽部門演奏会出演者公募要項	28
ピアノ演奏会出演者公募要項	29
小・中学校美術展作品募集要項	31

第70回岩手芸術祭開催要綱

1 趣 旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。

2 名 称 第70回岩手芸術祭

3 主 催 岩手県 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

4 後 援 盛岡市 NHK盛岡放送局 盛岡タイムス社 胆江日日新聞社 岩手日日新聞社

5 運 営 第70回岩手芸術祭実行委員会

6 期 間 平成29年9月1日～平成30年2月

7 会 場 岩手県民会館ほか

8 開催行事

(1) 開幕式典

(2) 美術展（巡回美術展）

日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画

(3) 小・中学校美術展（巡回小・中学校美術展）

小学校絵画、小学校書写、中学校美術、中学校書写

(4) 演 劇

(5) 伝統芸能

能楽、邦楽、茶道、華道、吟剣詩舞道

(6) 音 楽

合唱、声楽、弦楽、三曲、吹奏楽、ピアノ、ギター、管弦楽

(7) 舞 踊

日舞 洋舞

(8) 演 芸

民謡、新舞踊

(9) 移動公演

(10) 文 芸

ア 県民文芸作品集

小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳

イ 文芸祭

小説大会、戯曲大会、文芸評論大会、随筆大会、児童文学大会、詩の大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会

9 参加作品

(1) 美術及び文芸の作品並びに声楽及びピアノの演奏発表は、本県関係者の中から公募する。公募要項は、各部門の種目ごとに定める。

(2) 公募以外の部門の発表、展示等については、各部門が企画し、実行委員会の決定を経て実施する。

(3) 参加作品は、実施種目ごとに一般公開する。公募作品については、実施種目ごとに公開する範囲を定めるものとする。

(4) 小・中学校美術展の作品の公募は、岩手県小中学校美術展協会が県内の小・中学校を通じて行うものとする。

10 表 彰 等

(1) 特に優れた美術、小・中学校美術及び文芸の作品並びに演奏発表に対しては、審査のうえ、芸術祭賞（文芸祭賞）、優秀賞、奨励賞及び第70回記念賞を贈る。また、実施種目ごとに部門賞及び入選等を設けることができる。

(2) 展示、発表作品の審査を行うため、公募部門ごとに審査会又は選者をおく。

審査員及び選者は、第70回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する。

11 開催経費

経費は、主催する機関、団体の負担金及びその他の収入をもって充てる。

12 協賛参加

芸術祭に自主的に参加を希望する公演、展示等は、実行委員会会長の協賛参加承認を得て行うものとする。

13 国民文化祭への協賛参加

会期を考慮し、第32回国民文化祭（奈良大会）へ協賛参加するものとする。

第70回岩手芸術祭実行委員会会則

（名称）

第1条 この会は、第70回岩手芸術祭実行委員会という。

（目的）

第2条 この会は、岩手芸術祭を円滑かつ総合的、効果的に運営すること

を目的とする。

(実行委員)

第3条 この会は、次に掲げる実行委員22人以内をもって組織する。

- (1) 岩手県文化スポーツ部文化振興課総括課長の職にある者
 - (2) 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長の職にある者
 - (3) 一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長及び副会長の職にある者
 - (4) 一般社団法人岩手県芸術文化協会会長の推薦に基づき岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した者
 - (5) 岩手県小・中学校美術展協会の会長又は事務局長の職にある者
- (役員)

第4条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 2人
- (3) 監事 2人

2 会長は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長又は会長の職務代理の職にある者をもって充てる。

3 副会長及び監事は、実行委員の中から会長が委嘱する。

4 役員は、相互にこれを兼ねることができない。

(役員の仕事)

第5条 会長は、この会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ定める順序により職務を代理する。

3 監事は、この会の財務を監査する。

(実行委員の任期)

第6条 実行委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の末日までとする。

(実行委員会)

第7条 この会の会議は、実行委員をもって構成し、岩手芸術祭の開催に係る次に掲げる事項について議決する。

- (1) 総合的な企画及び運営に関すること。
- (2) 事業計画及び予算に関すること。
- (3) 事業報告及び決算に関すること。
- (4) その他この会の運営に関する重要な事項

2 会議は、会長が招集する。

3 会議の議長は、会長がこれにあたる。

4 会議は、実行委員会の過半数の出席をもって開会し、出席者の過半数をもって決する。

(部門実行委員会)

第8条 岩手芸術祭の各部門の円滑な運営を図るため、必要に応じ、部門実行委員会を置く。

2 部門実行委員会は、次に掲げる事項について協議し、各部門の運営にあたる。

- (1) 各部門の企画及び実施に関すること。
- (2) 各部門の予算及び決算に関すること。
- (3) 実行委員会から付託された事項に関すること。
- (4) その他各部門の運営に関し必要な事項

3 部門実行委員会委員は、会長が委嘱する。

4 部門実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(事務局)

第9条 この会の事務を処理するため、公益財団法人岩手県文化振興事業団に事務局を置く。

2 一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局の分室を置く。

3 事務局には、次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1人
- (2) 事務局次長 2人
- (3) 事務局員 若干名

4 事務局長は、公益財団法人岩手県文化振興事業団事務局長の職にある者をもって充て、その他の職員は会長が委嘱する。

(経費)

第10条 この会の運営に要する経費は、負担金その他の収入をもって支弁する。

(会計年度)

第11条 この会の会計年度は、実行委員会の設置の日に始まり、その年度の末日に終わる。

(補則)

第12条 この会則に定めるもののほか、この会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成29年5月24日から施行する。

第70回岩手芸術祭美術部門実行委員会運営規程（案）

(趣 旨)

第1条 この規程は、第70回岩手芸術祭実行委員会会則第8条第4項の規定に基づき、美術部門実行委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第2条 委員会は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の推薦に基づき、第70回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する20人以内の委員をもって構成する。

2 委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の末日までとする。

(役 員)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長の選任は、委員の互選とする。

3 委員長は、委員会の業務を統括する。

(會議)

第4条 委員会の会議は、必要に応じて、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長がこれに当たる。

(事務局)

第5条 委員会の事務を処理するため、必要に応じて、公益財団法人岩手県文化振興事業団に事務局を置く。

2 事務局に次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1人
(2) 事務局次長 2人
(3) 事務局員 若干名

3 事務局の職員は、委員の中から委員長が指名する。

4 事務局長は、委員会の事務を掌理する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐する。

6 事務局員は、事務局長の命を受けて、委員会の事務を処理する。

(補 則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、岩手芸術祭に関する功労について顕彰し、岩手芸術

(第70回) 手芸祭 隠し組 蔵

【実行委員会】

区 分	種 別	実 行 委 員
主 催 者	日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、現代美術、水墨画	4 人 市部 文化振興課 文化振興事業団 文化協会の会長 文化協会の副会長
美（巡回美術展）	演劇	2 人
演 劇	能楽、邦楽、茶道、華道、吟詠詩舞道	1 人
音 楽	合唱、吹奏楽、弦楽三曲、ギター、管弦楽	2 人
舞 踊	日舞、洋舞	4 人
文 芸（県民文芸作品集）	詩、短歌、俳句、戯曲、小説、随筆、文芸評論	2 人
小・中学校美術展（巡回小中学校美術展）	絵画、書写	1 人
合 域	計	2 人
地	市町村 総合芸術文化団体	21 人

【部門実行委員会】

部門実任委員	部	門	種	目
2人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	美術	美術 10種目 20人	日本 日活彫工書字子現水 イ美墨 ハ代墨	画面刻画芸道具之術画
2人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	演劇	能邦茶華吟 合声弦三吹にギ管	劇 音楽道道道 唱歌楽曲楽ノ一楽 奏アタ弦	舞踊
2人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	音楽 8種目 16人	舞踊 2種目 4人	民新 日洋	謡踊
2人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	文芸 9種目 21人	短俳川見戯小随	詩 童文評 歌句柳字曲論説筆	3人 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
77人	合計	7部門	37種目	

祭の発展に資することを目的とする。

(感謝状を贈呈される者)

第2条 感謝状を贈呈される者は、個人又は団体であって、次の各号の一に該当する者について行う。

- (1) 岩手芸術祭の運営に携わり、多年にわたり芸術祭の発展に貢献した者
- (2) 岩手芸術祭公募作品の審査員又は選者として、多年にわたり部門の発展に尽力した者
- (3) 岩手芸術祭の各部門の指導者として、永年にわたり後進の育成に尽力した者
- (4) その他特に表彰に値する功績があると認めた者

(方 法)

第3条 顕彰は感謝状を贈呈して行い、その氏名及び団体名並びに事績を顕彰録等によって公表する。

2 感謝状には、記念品を併せて贈ることができる。

3 故人の場合は、感謝状その他を遺族に贈り追彰する。

(実 施)

第4条 感謝状を贈呈される者は、岩手芸術祭実行委員会において承認されなければならない。

2 感謝状及び記念品は、岩手芸術祭実行委員会会長の名によって授与する。

3 その他この規程に関し必要な事項は、別に会長が定める。

附 則

この規程は、昭和55年5月21日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年9月5日から施行する。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する選考基準

1 趣旨

この基準は、岩手芸術祭実行委員会が感謝状を贈呈することについて、必要な事項を定めるものとする。

2 感謝状を贈呈される者

感謝状を贈呈される者は、次の各号に該当する者とする。

ただし、刑罰（道路交通法関係を含む。）を受けて2年を経過しない者は対象としない。

- (1) 岩手芸術祭の運営に携わり、概ね10年以上にわたって、岩手芸術祭の発展に貢献した者
- (2) 岩手芸術祭公募部門の審査員又は選者として、概ね10年以上にわたって部門の発展に尽力した者
- (3) 岩手芸術祭各部門の指導者として、概ね20年以上にわたって後進の育成に尽力した者で、概ね60歳を超えている者
- (4) その他岩手芸術祭の運営等に携わり多大な功績を示し、特に表彰に値すると認められる者

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認事務手続要領

1 申請手続

主催者は、当該事業が実施される期日（ポスターその他の印刷物等に「岩手芸術祭協賛事業」の名義を印刷する場合は、その印刷日）の遅くとも1か月前までに、岩手芸術祭実行委員会会長（以下「会長」という。）あての申請書（様式1）を提出するものとする。

この申請書には、次の書類を添付しなければならない。

- (1) 事業の概要（事業の目的、実施日時、会場、事業内容、事故防止対策、公衆衛生対策、入場料、共催・後援団体名等）
- (2) 事業の収支予算書
- (3) 主催者が民間団体である場合は、定款、寄附行為、会則、役員名簿、会員数、活動状況等当該団体の性格及び内容を明らかにする書類

2 承認の基準

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用を承認する基準は、次のとおりとする。

- (1) 主催者が、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 国又は地方公共団体（公社、公団を含む。）
 - イ 公益法人（宗教法人を除く。）
 - ウ 新聞、ラジオ、テレビ等の報道機関
 - エ 岩手芸術祭の趣旨に沿う事業を実施しようとする企業等
 - オ 芸術文化団体、実行委員会その他の公益的団体（芸術文化活動そのものを目的としたものに限る。）
 - カ その他上記に準ずると認められるもの。
- (2) 事業の内容が、次の各号に適合するものであること。
 - ア 事業の内容が岩手芸術祭の趣旨に沿うものであること。
 - イ 事業が、特定の範囲ではなく、一般の人に公開されるものである

こと。

ウ 事業の資金計画が十分なものであること。

エ 営利を目的としないものであること。

オ 事業の実施に当たっては、事故防止対策、公衆衛生対策等に十分の措置が講ぜられているものであること。

3 承認の手続

会長は、主催者からの申請書を受理した場合は、2の基準に基づいて審査し、結果を申請者に文書により通知するものとする。

4 主催者の責務

(1) 事業の主催者及び関係者は、岩手芸術祭の趣旨に反する行為を行ってはならない。

(2) 事業の主催者及び関係者は、2に掲げる基準の趣旨に反する行為を行ってはならない。

(3) 事業の主催者は、所属する職員や関係者等が、前2号に該当する行為を行っている疑いがある場合は、会長に報告するとともに、必要な調査を行い、その事実が判明した場合は速やかに是正するとともに、その結果を会長に報告しなければならない。

(4) 事業の主催者は、前号に係わり、会長から是正等についての指示があった場合は、これに従わなければならない

5 承認の取消

事業の主催者が4の(4)の指示に従わないときは、会長は、承認を取り消すこととする。

6 事業実施報告

事業の主催者は、事業の終了後、1か月以内に事業報告書（様式2）を会長に提出しなければならない。

（様式1）

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

〔申請者〕

団体名

代表者

住所

氏名

電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認について
下記事業について、第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

記

1 事業の名称

2 事業の目的

3 事業の主催者

4 事業の実施期間及び会場

（添付書類）

1 事業概要（内容、入場料、後援団体等）が明らかになる書類

2 事業の収支予算書

3 主催者が民間団体の場合は、会則、役員名簿、会員名簿、活動状況等団体の性格・内容が明らかになる書類

4 その他必要と認める書類

(様式2)

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

団体名
代表者
住所
氏名
電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認に係る事業報告について
年 月 日付け岩手芸術祭第 号で承認された事業が終了
したので、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 事業の名称
- 2 事業の主催者
- 3 事業の実施期間
- 4 会場
- 5 出演者・出品者数
- 6 入場者数

(添付書類)

事業の収支決算書、後援者、プログラム・パンフレット、事業の内容を
撮影した写真等を添付すること。

第70回岩手芸術祭美術展公募要項

1 趣 旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を
提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、
豊かな県民性の高揚に資する。

2 主 催

岩手県・岩手県文化振興事業団・岩手県芸術文化協会・岩手日報社・
IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフ
エム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局 盛岡タイムス社 胆江日日新聞社 岩手
日日新聞社

4 展示会場及び日時

岩手県民会館展示室

〈第1期〉日本画／版画／水墨画

10月7日(土)～10月10日(火)

10時～17時(最終日は16時まで)

〈第2期〉写真／デザイン／現代美術

10月12日(木)～10月15日(日)

10時～17時(最終日は16時まで)

〈第3期〉洋画／彫刻

10月19日(木)～10月22日(日)

10時～17時(最終日は16時まで)

〈第4期〉工芸／書道

10月26日(木)～10月29日(日)

10時～17時(最終日は16時まで)

5 応募資格

岩手県内在住者、本籍が岩手県にある者、岩手県出身者または岩手県
内学校の卒業生。(書道、洋画部門は高校生以下を除く。)

6 公募作品

公募作品は、日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書道・写真・デザイ
ン・現代美術・水墨画の10部門とし、各部門の公募要項(裏面)によ
る。**作品は未発表作品**とする。

7 作品の受付、返還

作品は所定の出品目録とともに下記のとおり所定の期日に搬入し、作

品の裏面には所要の事項を記入した出品票をはりつけ、各部門の受付所に提出すること。

なお、出品物を受け付けたときは、受付証を交付するので、搬出のときの引換証とすること。

8 搬 入

(1) 直接搬入

部 門	搬入場所	搬入日時
日本画	岩手県公会堂11号室	9月9日(土) 10時～16時
写真	岩手県公会堂26号室	
版画／デザイン／水墨画	岩手県民会館第1展示室	
洋画／工芸／書道／現代美術	岩手県民会館第2展示室	
彫刻	岩手県民会館地下収蔵庫	

(2) 輸送搬入

部 門	あて先	搬入日
日本画／写真	〒020-0023 盛岡市内丸11-2 岩手県公会堂内 芸術祭美術展〇〇部門受付	9月9日(土)に限る。 ※輸送業者に配達日を指定すること。 (梱包表面に「美術展〇〇部門出品物」と大きく朱書きのこと。)
洋画／版画／彫刻 ／工芸／デザイン ／水墨画	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館展示室内 芸術祭美術展〇〇部門受付	

※書道、現代美術作品の輸送搬入は認めない。

※輸送搬入の場合の出品受付証、出品目録、出品料は9月5日(火)までに各部門事務局あて送ること。

9 審査及び発表

審査は、第70回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した審査員により、9月10日(日)に搬入会場で行う。審査の結果は、本人あて通知する。

10 展示作業日

岩手県民会館 〈第1期〉10月6日(金)9時～21時
 〈第2期〉10月11日(水)9時～21時
 〈第3期〉10月18日(水)9時～21時
 〈第4期〉10月25日(水)9時～21時

11 展 示

展示は、入賞・入選作品並びに招待作品とし、展示方法は実行委員会に一任のこと。

ただし、彫刻は裏面記載のとおりとする。

12 搬 出

(1) 直接搬出

部 門	搬出日時	搬出場所	注意
日本画／版画／ 水墨画	10月10日(火) 16時～17時	岩手県民会館 第1・2展示室	搬出指定日時に搬出しない場合は、実行委員会の指定する業者により荷造り、送料とも着払いで返送する。
写真／デザイン／ 現代美術	10月15日(日) 16時～17時		
洋画／彫刻	10月22日(日) 16時～17時		
工芸／書道	10月29日(日) 16時～17時		

(2) 輸送搬出

部 門	搬出日時	注意
水墨画	10月10日(火)16時～17時	※輸送による搬出を希望する場合は事前に部門事務局へ申し出の上、指示に従うこと。
写真	10月15日(日)16時～17時	
洋画／彫刻	10月22日(日)16時～17時	
工芸	10月29日(日)16時～17時	

※上記に記載された部門以外の輸送搬出は認めない。

13 表 彰

種目ごとに審査のうえ、芸術祭賞(1点・賞金3万円)、優秀賞(1点・賞金2万円)、奨励賞(2点・賞金1万円)、第70回記念賞(1点・副賞)及び部門賞を贈る。

○表彰式 平成29年11月18日(土)(会場：サンセール盛岡)

14 巡回美術展

岩手県民会館での本展終了後、各部門の芸術祭賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点、第70回記念賞1点及び部門賞のうち部門推薦作品(最大3点)、計8点を県内市町において巡回展示する。

○巡回期間 平成29年11月～平成30年1月

○開催場所 一戸町コミュニティセンター 奥州市文化会館 山田町中央公民館 久慈市文化会館 一関文化センター 宮古市民文化会館 リアスホール

※巡回美術展終了後の作品は県民会館(アートフェスタいわて出品作品は県立美術館)で保管する。搬出費用については出品者の負担とするが、具体的な日程等は別途通知する。

15 その他

(1) 出品作品の不慮の災害による損害については、主催者はその責を負

わない。

- (2) 搬入・搬出及び荷造りの費用は、出品者の負担とする。
- (3) 出品作品が本芸術祭の記録集、主催団体等が運営するインターネットのホームページ、報道及び広報などに掲載される場合があることを出品者があらかじめ容認の上、出品するものとして取り扱う。
- (4) 報道機関の取材等に対しては、出品者の氏名、居住市町村名の情報提供及び作品の写真撮影を許可することがある。
- (5) 別紙、出品目録及び出品票に記入された個人情報、審査結果の通知、展示目録等印刷物の作成、表彰式の開催案内など、岩手芸術祭美術展の運営業務の範囲内に限り利用するものであり、それ以外の目的には一切使用しない。

●日本画

- 作品の規格** (1)作品は、すべて枠付として表装すること（ガラス抜き）を原則とし、軸装も許可する。
- (2)100号以内とする。
- (3)寸法は、枠付ではかること。
- (4)作品はすぐ展示できるよう、金具、吊具は必ずつけること。

出品点数・出品料 1点3,000円、2点5,000円

- 審査員** 西川善有（盛岡市） 片山道子（盛岡市）
- 合評会** 10月10日（火）午後2時～会場にて審査員を囲んで実施する。
- その他** 今年度は岩手県公会堂11号室にて作品搬入・受付を行う。
- 事務局** 片山道子 〒020-0083 盛岡市志家町9-5
TEL019-623-3931

●洋画

- 出品作品** 出品者の創作による、他公募展等に出品していない完全オリジナル作品で、平面（油彩、水彩等）及び立体作品。ただし、音響、電気による作品及び動物、悪臭を発する作品、腐敗する可能性のある作品を除く。作品は額装し、作品裏にはすぐ展示できるよう、作品重量に十分耐え得る金具、吊具、ひも、針金等を必ずつけること。

- 大きさ・重さ** [立体] 縦、横、高さ、各1.7m以内 重量50kg以内
[平面] 縦、横、額（ガラスなし、アクリル可）含み2m以内（規格木枠の場合はS 130号以内）突出50cm以内。
作品の保護のため額縁等（画面より厚みを持ったもの）で額装のこと。

出品点数・出品料 1人1点 4,000円

- 招待** 本年度の洋画部門芸術祭賞受賞者は、次年度に限り招待する。出品は本人の意思にゆだねる。
- 審査員** 洋画部門理事
- 合評会** 10月22日（日）午後1時～ 審査員と出品者による合評会を開催する。
- 事務局** 日下信介 〒020-0887 盛岡市上の橋町7-57
県立盛岡第二高等学校内 TEL019-622-5101

●版画

- 出品作品** 版種は自由。公募展未発表の自作の版表現されたもので、複数表現できるもの。
（手彩色手法の作品は認めない）作品には題名とサインを必ず記入してください。

大きさ 額装を含めて縦・横、180cm以内の陳列に支障のないもの。

出品点数・出品料 2点まで3,000円、3点まで5,000円

- 審査員** 阿部陽子（版画家・国画会会員）、田村晴樹（画家）
- 合評会** 10月10日（火）午後2時から審査員を囲んで。
- 事務局** 鈴木和雄 〒028-3601 紫波郡矢巾町高田9-40-15
TEL019-611-0575

●彫刻

- 作品の規格** 出品作品は、大きさ2m×2m×2m以内のオリジナル作品とし、会場汚損並びに観客に危害を及ぼすおそれのある作品及び仏像彫刻を除く。ただし、50kgを越す作品については、展示・運搬は出品者が行うものとする。

出品点数・出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000円加算

- 審査員** 山内正宜（彫刻家）
- 事務局** 曾根達也 〒028-3615 紫波郡矢巾町大字南矢幅9-1-1
県立不来方高等学校内 TEL019-697-8247

●工芸

- 出品作品** 美術工芸並びに産業工芸等、いずれの性格のものでもかまわないが、創作性の高い未発表のものであること。

- 大きさ・重さ** [壁面] 180cm×150cm以内
[立体] 50cm×50cm×50cm以内
立方体でない場合は、おおよその換算による大きさ

とする。重量50kg以内

出品点数・出品料 1点4,000円、1点増すごとに1,000円加算

審査員 春山文典（日展理事） 菊池房江（岩手工芸美術協会会長）
工芸セミナー（審査講評を兼ねながら）

9月10日（日）午後2時～3時

北ホテル2階会議室

事務局 竹田康夫 〒028-4134 盛岡市下田字陣場41-43
TEL019-683-1425

●書道

作品の種別・規格

(1)種別 漢字、かな、篆刻・刻字、漢字かな交じり書（近代詩文書等）、前衛書

(2)仕上がり寸法 横1辺182cm（6尺）以内 縦1辺242cm（8尺）以内 面積1.48㎡（16平方尺）以内 重量15kg以内

(3)仕立 額、裱装（帖、軸装は認めない） ガラス入りは認めない（アクリルは可）

出品点数・出品料 1人1点4,500円

審査員 吉田晨風（盛岡市） 斎藤溪石（滝沢市） 堀内青巒（二戸市） 野田杏苑（滝沢市） 大河原節子（一関市） 澤藤華星（二戸市） 玉澤岑砦（盛岡市） 鳴海起鳳（矢巾町） 山火葉舟（盛岡市）

鑑賞会 10月29日（日）午後2時～3時 会場にて実施する。

事務局 佐々木飛鴻 〒020-0053 盛岡市上太田上川原96
盛岡市立高等学校内 TEL019-658-0491

●写真

出品作品 (1)テーマ 自由。 種類 モノクロ、カラー、デジタル いずれも可。未発表作品であること。

(2)サイズ 単写真・組写真・連写真を問わずいずれも全体の仕上がりは、外寸42cm×51cm以上外寸120cm×210cmまでとする。

(3)木製パネルに限る。

(4)いずれもそのまま展示できるよう、裏面に紐をつける。特に組写真は1枚のパネルに、また、連写真は連結して搬入すること。

（注） 連結しない写真、蝶番の使用など他の作品に傷をつけるようなもの、及びガラス入り額等破損の恐れのあるものは受け付けない。

審査員 佐々木広人（アサヒカメラ編集長）

審査 9月10日（日）午前10時 公開審査とする（搬入場所）

出品点数・出品料 1人2点まで。42cm×51cm以上長辺100cmまで3,000円。左の寸法を超える長辺210cmまで4,000円。高校生1,000円

その他 展示は原則として入選作以上で1人1点とする。応募等の詳細は岩手県写真連盟ホームページ（iwsr.web.fc2.com）参照

事務局 山田博彦 〒020-0116 盛岡市箱清水1-17-10
TEL019-661-7277

●デザイン

応募資格 一般・大学生・専門学校生・高校生

出品作品 平面デザインに限ります。（立体及び半立体は不可）社会的規範に反する作品は展示しない場合があります。

・作品はすぐに展示できるよう、パネル裏面に必ず吊り金具、ひも等をつけること。

A部門. ポスター及びイラストレーション

B部門. 課題作品＝（盛岡ロータリークラブ協賛）21世紀の地球環境を考える。（地球をとりまく環境全般をテーマとします。）「盛岡ロータリークラブ」は明記すること。マークは位置指定のみでも可。

作品の体裁・規格

(1)A部門. 自由作品はB0判パネル（145.6cm×103cm）・B1判パネル（103cm×72.8cm）・B2判パネル（72.8cm×51.5cm）

(2)B部門. 課題作品はB1判パネル（103cm×72.8cm）
タテ位置に限る。

・出品目録の種別欄には、出品部門（A部門またはB部門）を記入のこと。

出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000円加算（高校生は500円加算）

審査員 長谷川羊介（クリエイティブディレクター）

村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

審査 9月10日（日）午前10時～11時30分 公開審査（搬入

場所)
事務局 佐々木海太郎 〒020-0132 盛岡市西青山3-35-12
グラフィコ内 TEL019-647-3380

●現代美術

出品作品 「現代美術」とは、1945年以降に現れたさまざまな傾向の前衛的な美術を指します。ここでは、平面、立体、映像、インスタレーション、音響を含むものなど、様式や技法にとらわれない表現を扱います。「現代美術」は、「ものを見ること（視覚認識）」や「社会をどう見つめるか」ということを常に問題にしてきました。みなさんの新鮮な作品をお待ちしています。

大きさ 大きさは、
$$\left\{ \begin{array}{l} \text{立体、インスタレーション＝} \\ \text{床面積15㎡以内×高さ8m以内} \\ \text{平面＝10㎡以内} \end{array} \right\}$$

出品点数・出品料 1人2点まで、1点3,500円、2点5,000円
審査員 松永 康（NPOコンテンポラリーアートジャパン理事、武蔵野美術大学非常勤講師）
事務局 浅倉 伸 〒020-0862 盛岡市東仙北2-2-29
TEL090-7337-7232（直通）

●水墨画

作品の規格 (1)作品寸法 F8（38×45.5）以上～和紙全紙をメド
(2)表装 額装（アクリル使用のこと。ガラス使用不可。）
・軸装

出品点数・出品料 1人1点 4,000円
出品申込 9月1日（金）までに事務局に申込むこと。
審査員 鈴木 孝男（岩手県水墨画協会会長）
昆野スミ子（岩手県水墨画協会副会長）
菊地 一政（岩手県水墨画協会副会長）
阿部 慶造（岩手県水墨画協会理事）
事務局 北村義美 〒020-0106 盛岡市東松園2-12-4
TEL・FAX 019-661-8923

第70回（平成29年度）岩手芸術祭『県民文芸作品集』第48集公募要項

- 趣 旨
第70回岩手芸術祭の一環として、『県民文芸作品集』を刊行し、文芸活動の振興を図る。
- 主 催
岩手県 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 後 援
盛岡市 NHK盛岡放送局 盛岡タイムス社 胆江日日新聞社 岩手日日新聞社
- 運 営
第70回岩手芸術祭実行委員会
- 応募資格
岩手県在住者（経験者も含む）、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方
県外の応募者にあっては岩手県との関わりを記入すること。（かつて居住した岩手県の市町村名など）
- 公募種目
別表のとおり
- 応募上の注意
 - (1) 未発表の創作作品であること。（公表されていたことが確認された場合には、入賞・入選を取り消しますので、十分注意してください。）
 - (2) ペン、又はボールペンを使用し、鉛筆は使用しないこと。（ワープロも可）
 - (3) 投稿後の訂正は認めないので、推敲のうえ、かい書で清書して、完全原稿で応募すること。
 - (4) 応募作品は返却しないので、必要とする場合はコピーをとっておくこと。
 - (5) 応募作品の末尾（別紙可、短歌にあっては裏面）に、①住所、②氏名（かな筆名を使用する場合でも、本名を必ず記入すること）、③年齢、④性別、⑤電話番号及び（お持ちの方は）電子メールアドレスを記入すること。
- 応募締切

平成29年8月31日（木）当日消印有効（受付開始は7月1日（土）とする。）

9 応募先

電子メール：geijyutsu70@iwate-bunshin.jp 標題に「県民文芸作品集（作品種目）応募作品」と明記すること。作品を受信した旨の返信をするので、1週間経っても返信がない場合は電話で問い合わせること。

郵送：〒020-0023 盛岡市内丸13番1号 岩手県民会館内

岩手県芸術文化協会『県民文芸作品集』係

封筒、はがきの表に「県民文芸作品集（作品種目）応募作品」と朱書きすること。

10 審査結果

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、第70回記念賞については、平成29年10月6日（金）に岩手県文化振興事業団のホームページ上で発表するほか、入賞、入選者には本人宛通知する。

11 表彰

種目ごとに審査のうえ、芸術祭賞（1点・賞金3万円）、優秀賞（1点・賞金2万円）、奨励賞（2点・賞金各1万円）、第70回記念賞（1点・副賞）を贈る。

○表彰式 平成29年12月9日（土）（会場：サンセール盛岡）

12 作品の発表

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び第70回記念賞に入賞した作品は、『県民文芸作品集』に掲載する。なお、詩、短歌、俳句及び川柳の4種目については、入賞作品のほか、佳作、選者賞などの入選作品についても掲載する。

13 『県民文芸作品集』刊行予定日

平成29年12月9日（土）

14 個人情報の取り扱い

応募者の個人情報は、審査結果の公表を含む作品集刊行業務の範囲内に限り利用する。ただし、入賞、入選者については、報道機関等に氏名及び居住市町村名の情報提供を行う場合がある。

別表

種目	内容	応募書式	枚数	選者
小説	1人1篇	原稿用紙を使用し、右とじにすること。規格はB4判で20字×20行400字詰のものに縦書きとする。 ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けたものとする。 行あけ等を明確にすること。 （ワープロ等使用の場合は、A4判も可）	30枚以内 点字は40枚以内	柏葉 幸子 斎藤 純
戯曲・シナリオ	①演劇一幕もの ②ラジオドラマ ③テレビドラマ	文芸評論については、ワープロ等を使用する場合、字数制限内であれば原稿用紙使用にこだわらない。 随筆については、上記書式の外、題名、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、受賞歴等を記入した別紙をつけること。 （右の枚数に別紙は含まない。） 児童文学については、ワープロ等を使用する場合、26字×23行で20枚（11,960字）以内でもよい。 〈点字の場合〉省略	50枚程度 点字は66枚程度 ①～③を明示	昆 明男 中村 好子
文芸評論	研究的内容のものも可とする。		30枚以内 点字は40枚以内	望月 善次 牛崎 敏哉
随筆			4枚 点字は6枚	須藤 宏明 野中 康行
児童文学	フィクション、ノンフィクションを問わない。 少年少女詩、童謡の場合は3篇以内とする。		30枚以内 点字は40枚以内	高橋 昭 藤原 成子 齋藤 英明
詩	3篇以内とする。	A4判規格原稿用紙、又はA4用紙に20字×20行で縦書きとする。行空け明記。右とじ。 （ワープロ等を使用する場合についてもこの規格によること） 欄外に住所、氏名、年齢、電話番号、1篇毎の原稿枚数、通し番号（1-1、1-2…）を明記すること。	1篇につき 3枚以内	山下 正彦 伊藤 諒子 北原 陽子
短歌	未発表作品10首	原稿用紙B4判400字詰1枚に10首、欄外に題名を明記すること。 ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けされたものとする。 ※住所等は裏面に記入すること。	1人1枚に限る。	小笠原和幸 佐々木典子 清水 亜彦 藤村 孝一 折居 路子
俳句	雑詠5句	はがきを使用すること。 （句数が不足しないよう注意すること。） 〈点字の場合〉点字用紙を使用すること。	1人1枚に限る。	小畑 柚流 小菅 白藤 川原 道程 小林 輝子 吉田 一路 名久井清流 服部 常子
川柳	雑詠7句		1人1枚に限る。	小原 金吾 塩釜アツシ 佐藤 岳俊

第70回（平成29年度）岩手芸術祭『文芸祭』開催要項

1 趣 旨

第70回岩手芸術祭の一環として、『文芸祭』を開催し、文芸活動の振興を図る。

2 主 催

岩手県 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

開催地市町村教育委員会 NHK盛岡放送局 盛岡タイムス社 胆江
日日新聞社 岩手日日新聞社

4 運 営

第70回岩手芸術祭実行委員会

5 応募及び大会参加資格

岩手県在住者、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方

6 種目毎の大会の内容

(1) 小 説

日 時 平成29年11月4日（土） 午後1時30分～ ※10月20
日までに申し込みください。

会 場 岩手県民会館会議室（盛岡市内丸13-1）

内 容 県民文芸作品集応募作品の講評
講師 柏葉 幸子 斎藤 純

運 営 第70回岩手芸術祭実行委員会事務局
（岩手県文化振興事業団総務部内）
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
電話019（654）2235 FAX019（625）3595]

(2) 戯 曲

日 時 平成29年11月23日（木・祝）午後1時～

会 場 盛岡劇場タウンホール（盛岡市松尾町3-1）

参 加 費 当日のみ1,000円 大学生以下500円

内 容 「お試しリーディング」戯曲リーディング&ブラッ
シュアップセミナーワークショップ

事 務 局 高村 明彦

〒020-0051 盛岡市下太田沢田68-18
電話019（658）1108]

運営委員

昆 明男 倉持 裕幸 高村 明彦

(3) 文芸評論

日 時

平成29年10月9日（月・祝）午後1時～5時（12時30
分受付）

会 場

岩手大学農学部一号会議室（盛岡市上田3-18-8）

内 容

小講演と研究発表

講演：牛崎 敏哉 「最近の賢治研究をめぐって」

望月 善次 「啄木研究の近況」

原子内 貢 「宮澤賢治の碑（いしぶみ）」

研究発表：4～6人

★発表資格：次の1.又は2.のいずれかを満たす方

1. 『県民文芸作品集（評論の部）』応募者。

2. 9月4日（月）までに事務局宛発表趣旨（A4
判、1枚程度）と共に申し出た方。

なお、希望者多数の場合は運営委員によって選考す
る。

参 加 費

無料

事 務 局

宮沢賢治記念館内 牛崎 敏哉

〒025-0011 花巻市矢沢1-1-36

電話0198（31）2319 FAX0198（31）2320]

運営委員

牛崎 敏哉 望月 善次

そ の 他

懇親会（参加費 1,000円）

(4) 随 筆

日 時

平成29年10月22日（日）午後1時30分～ ※10月12
日までに申し込みください。

会 場

なはんプラザ〔花巻市定住交流センター〕会議室1
（花巻市大通り1-2-21）

内 容

県民文芸作品集応募作品の講評 講師 須藤 宏明
野中 康行

運 営

第70回岩手芸術祭実行委員会事務局

（岩手県文化振興事業団総務部内）

〒020-0023 盛岡市内丸13-1

電話019（654）2235 FAX 019（625）3595]

(5) 児童文学

日 時

平成29年10月29日（日）午前10時30分～午後2時30分

会 場	ビッグライフ滝沢小ホール（滝沢市下鶴飼1-15）
内 容	①県民文芸作品集応募作品の選評と合評 ②講演「言葉の力」 講師 藤村 由美（盛岡児童文学研究会、絵本専門士）
事 務 局	加藤 典夫 〔〒020-0881 盛岡市天神町1-29 電話019（622）6304〕
運営委員	高橋 昭 千葉 留里子 加藤 典夫
(6) 詩	
日 時	平成29年10月28日（土）午前10時～
会 場	なはんプラザ〔花巻市定住交流センター〕会議室1 （花巻市大通り1-2-21）
会 費	1,000円（当日受付。資料代ほか。）
応募作品	未発表作品3編以内、A4判原稿用紙使用、 <u>1編につき3枚以内</u> で右とじのこと。ワープロ原稿はA4判に印字のこと。選者の講評をご希望の方は82円切手を貼った返信用定形封筒に本人宛先を記入の上、同封のこと。
投 稿 料	1,000円郵便為替同封のこと。（為替の入っていないものは受け付けません）
選 者	山下 正彦 伊藤 諒子 北原 陽子
表 彰	文芸祭賞、優秀賞、奨励賞、佳作ほか。
公募期間	平成29年7月1日（土）より9月1日（金）《必着のこと》
事 務 局	岩手県詩人クラブ文芸祭「詩の大会」事務局
（応募先）	〔〒020-0124 盛岡市厨川3-7-3 東野方 北原 陽子 電話019（641）3476〕
運営委員	北原 陽子 兒玉 智江 松崎みき子
(7) 短 歌	
日 時	平成29年10月14日（土）午前10時～午後3時頃
会 場	盛岡市勤労福祉会館（盛岡市紺屋町2-9）
会 費	出詠料1,000円、当日会費1,000円（弁当代含む） （後日、互選のための詠草集に同封する払込取扱票にて払い込むこと）
詠 草	1首（未発表作品、はがきを使用のこと）

選 者	佐藤 怡當 岡田 紘子 酒井 久男 松田 久恵 吉田 史子
表 彰	優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、それぞれ副賞を添えて贈る。
応募締切	平成29年8月31日（木）必着
事 務 局	赤澤 篤司
（応募先）	〔〒020-0016 盛岡市名須川町11-8 電話・FAX 019（625）5874〕
運営委員	赤澤 篤司 外館 克裕 山本 豊
(8) 俳 句	
日 時	平成29年10月21日（土）午前10時～
会 場	岩手県公会堂（盛岡市内丸11-2）
会 費	1,500円（「県民文芸作品集」入選作品集代を含む）
作 品	当季雑詠3句（投句締切 午前11時30分）
選 者	小畑 柚流 小菅 白藤 川原 道程 小林 輝子 吉田 一路 名久井清流 服部 常子
表 彰	優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞を贈る。
事 務 局	佐々木 昌子 〔〒020-0611 滝沢市菓子856-74 電話 019（688）2046〕
運営委員	山火 律子 佐々木昌子 長谷川かよ子 兼平 玲子 工藤 幸子 及川 永心
(9) 川 柳	
日 時	平成29年10月14日（土）午前9時30分～
会 場	アイーナ（いわて県民情報交流センター）501号室 （盛岡市盛岡駅西通1-7-1）
会 費	2,000円（昼食・発表誌）／懇親会3,000円（希望者）
宿題と選者	（各題2句） 「何 故」 紫波町 鷹 賢 選 「睨 む」 盛岡市 河野 康夫 選 「 月 」 花巻市 及川洋一郎 選 「 罪 」 奥州市 角掛往来児 選 「雑 詠」 奥州市 佐藤 岳俊 選

席題と選者（各題2句）当日10時発表

「 」 紫波町 熊谷 岳朗 選
「 」 盛岡市 徳田ひろ子 選

投 句 用紙自由・住所、氏名、電話番号明記、投句料1,000円

締 切 平成29年9月30日（土）消印有効

投 句 先 〒028-3309 紫波町北日詰大日堂18-2

熊谷 岳朗宛 電話019（676）3751

賞 文芸祭賞、優秀賞、奨励賞ほか

事 務 局 熊谷 岳朗

〔〒028-3309 紫波町北日詰大日堂18-2

電話019（676）3751〕

運 営 岩手県川柳連盟

平成29年度・第70回 岩手芸術祭音楽部門演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に在住する音楽研究者に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

2 主 催

岩手県、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手

3 後 援

盛岡市、NHK盛岡放送局、盛岡タイムス社、胆江日日新聞社、岩手日日新聞社

4 運 営

第70回岩手芸術祭実行委員会、岩手音楽研究会

5 募集内容

演 奏 日 時	平成29年11月4日（土）午後1時30分より
会 場	岩手県民会館中ホール
応 募 資 格	年齢18歳以上の岩手県在住者、又は岩手県に本籍がある者
演 奏 内 容	歌曲・オペラのアリア等、ひとり8分以内
伴 奏 者	各自、準備すること。事務局でも斡旋可能。
申 込 締 切	平成29年8月31日（木）
出 演 経 費	12,000円（チケット負担金を含む）

応 募 方 法	所定の申込用紙に記入の上、下記申込先に郵送すること。
そ の 他	・著作権料のかかる曲目は演奏者の負担とします。 ・公募出演は連続2年までとします。
申 込 み ・ 問 い 合 せ 先	（〒020-0133）盛岡市青山一丁目20-26 丸 岡 千奈美 宛（電話019-647-1850）

※出演申込書 省略

第70回 岩手芸術祭音楽部門ピアノ演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に居住するピアノ学習者及び演奏家に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

また、ピアノ音楽の活性化を願い、ジュニア部門、一般部門共に演奏会とし、一般部門は審査制を導入している。

2 主 催

岩手県 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局 盛岡タイムス社 胆江日日新聞社 岩手日日新聞社

4 運 営

第70回岩手芸術祭実行委員会 （一社）岩手県ピアノ音楽協会

5 開催日時

平成29年10月21日（土）（開場14：30）開演15：00～

6 会 場

岩手県民会館中ホール

7 応募資格

一 般 部 門 県内在住もしくは、県内に本籍がある18歳以上（年齢制限なし）の方。

ジュニア部門 一般部門と同じ条件で高校生以下の方。

8 審査員

第70回岩手芸術祭実行委員会が委嘱した下記の審査員により、審査を行う。（ジュニア部門及び一般部門の演奏者に対して審査員のコメントを貰える。）

審査員 林 苑子（ピアニスト）
佐々木 素（ピアニスト）
赤松林太郎（洗足学園音楽大学客員教授・ピアニスト）

9 表彰

- ・最も優れた演奏に対して芸術祭賞を贈る。副賞として一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会より芸術祭賞には賞金30,000円。その他に、1年間一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会が主催するコンサート及び第71回岩手芸術祭に招待演奏する資格が与えられる。
- ・70回を記念して、第70回岩手芸術祭実行委員会より第70回記念賞が贈られる。
- ・部門賞として各審査員から審査員特別賞を贈る。

10 演奏内容

ジュニア部門 10分以内の任意の曲（ソロ・連弾）
一般部門 20分以内の任意の曲（ソロ・連弾）
エントリー後の曲目の変更は認められません。

11 参加料

ジュニア部門 出演料12,000円 チケット負担金 3,000円（3枚分）
計15,000円
一般部門 出演料15,000円 チケット負担金 3,000円（3枚分）
計18,000円

12 応募方法

所定の申込書に記入の上、それぞれの参加料を添えて9月6日（水）までに、下記申込先に現金書留にて郵送すること。（当日消印有効）
〒020-0117 盛岡市緑が丘2-2-11
一般社団法人 岩手県ピアノ音楽協会 事務局
電話・FAX019-661-2927

13 その他

- (1) 連弾の出演料は、ワンステージとする。但し、チケットは、出演者人数分の負担とする。
- (2) 申し込み後の返金は致しかねます。
- (3) 問い合わせ先は、申込先に同じ。
URL <http://tototyran.wix.com/piano>
E-mail iwatepref-piano@iaa.itkeeper.ne.jp
※出演申込書 省略

第70回岩手芸術祭 小・中学校美術展作品募集要項

1 趣 旨

第70回岩手芸術祭の一環として、県内小・中学校児童、生徒の書写・美術を展示し、広く県民に児童、生徒の作品について鑑賞の機会を提供するとともに、本県小・中学校の書写・美術教育の振興をはかる。

2 主 催

岩手県、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手

3 後 援

岩手県教育委員会、盛岡市、岩手県小学校長会、岩手県中学校長会、岩手県小学校教育研究会国語部会、岩手県書写書道教育研究協議会、岩手県小学校教育研究会図工部会、岩手県中学校教育研究会美術部会、NHK盛岡放送局、盛岡タイムス社、胆江日日新聞社、岩手日日新聞社

4 運 営

第70回岩手芸術祭実行委員会、岩手県小・中学校美術展協会

5 応募資格と出品点数

岩手県内の小・中学校に在籍している児童、生徒の作品で個人制作、各部門1人1点とする。

6 応募作品

- 平成29年度に制作した作品で、各部門の定める規定に合致するものとする。
- 出品料は無料とする。
- 書写の応募作品は返却しない。美術作品について返却を希望する学校は、出品目録に記入すること。

7 出品方法

作品は学校を経由して所定の出品票（書写は不要）、出品目録及び出品者名簿を必ず添付して出品すること。

各様式は、岩手県教育研究会美術部会ホームページ（<http://www.iwarte.com/>）からダウンロードのこと。必ずホームページを開いて名簿の様式を確認の上、応募してください。

8 受付期間

平成29年9月20日（水）から10月3日（火）まで。10月3日（火）必着のこと。

9 送 り 先

〈小学校絵画作品送付先〉

〒020-0816 盛岡市中野2-12-1
盛岡市立中野小学校内 加 藤 均 宛
T E L 019-653-4302

〈中学校美術作品送付先〉

〒020-0013 盛岡市愛宕町1-1
盛岡市立下小路中学校内 大 坂 忍 宛
T E L 019-623-7358 (7359)

〈小・中学校書写作品送付先〉

〒020-0815 盛岡市小杉山3-1
盛岡市立山王小学校内 谷 藤 みゆき 宛
T E L 019-622-2230

★小・中学校美術展にかかわるお問合せは中野小学校副校長加藤均へ
お願いします。 T E L 019-653-4302

10 審 査

岩手県小・中学校美術展協会会長が委嘱した審査員により審査する。

11 入賞入選者の発表

入賞・入選者は審査終了後、出品学校長宛通知するほか、入賞者については岩手日報を通じて発表する。

12 褒 章

すぐれた作品に対し、各部門ごとに芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、第70回記念賞、その他の賞を贈る。

13 展 示

展示は入賞・入選作品のみとし、展示方法は岩手県小・中学校美術展協会へ一任する。

14 展示期間

平成29年11月23日（木・祝）から11月26日（日）までの4日間とする。
（11月23日～25日は9時から17時まで、11月26日は9時から16時まで）

15 展示会場

盛岡市内丸 岩手県民会館

16 巡 回 展

第70回岩手芸術祭巡回小・中学校美術展開催要項にもとづき、県内各地で巡回展示する。（作品は学年別、書写、絵画作品300点程度）巡回コースおよび日程については後日決定する。（巡回展の事務局は岩手県文

化振興事業団総務部）

17 協 賛

第32回国民文化祭・なら2017協賛事業

小・中美術作品応募について

1. 募集する作品

- (1) 種目 絵画、版画、デザイン（平面）とする。
いずれか一人一点とする。
- (2) 主題 自由
- (3) 画材 クレヨン、パス、水彩などいずれでもよい。
- (4) 用紙 原則として4つ切（36cm×54cm）とする。台紙に貼り付けないこと。但し、版画の用紙が4つ切より小さい場合には、作品を台紙に貼りつけ4つ切サイズにそろえること。

2. 出品方法

- (1) **出品票・出品目録・出品者名簿**を指定の様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会美術部会ホームページからダウンロードのこと）
- (2) 出品票は作品裏面右下に天地を正しくして糊付けすること。
- (3) 作品は丸めたり折ったりしないで応募すること。
- (4) 県内小・中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。
- (5) 例年三千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも必ず平成29年度版の出品票・出品目録・出品者名簿を使用し正確に記入、締切厳守のこと。
- (6) 入賞作品は、県教育長室への展示などのため、返却が翌年度になる場合がある。

※出品票 省略

小・中書写作品応募について

1. 募集する作品

- (1) 種目
小学校1・2年は硬筆、3年以上は毛筆半紙（国産半紙判）とする。
中学校は毛筆半紙か条幅のいずれか一人一点とする。
- (2) 用紙

硬筆用紙は、岩手県書写書道研究会の書写コンクール硬筆用紙（Ｂ５判４ます×８ます：１ます２.５cm）とする。

毛筆半紙は国産半紙判、条幅は縦書きとする。

(3) 課題

硬筆 小１年 ぼくは、でんしゃにのることがすきです。けしきが見えるからです。

小２年 牛は、くるとむきをかえると、風のように走っていきました。

毛筆

	半紙課題	条幅課題
小３	光	
小４	立 秋	
小５	進 歩	
小６	街 灯	
中１	探 究	温 故 知 新
中２	銀 河	新 た な 目 標
中３	栄光のかけ橋	生 命 を 尊 ぶ

(4) 小学校の書体はかい書、中学校の書体はかい書または行書とする。

(5) 毛筆作品の氏名は墨書すること。（表装しない）

硬筆・毛筆とも、氏名をひらがなで書いた場合は欄外に漢字氏名を鉛筆で書くこと。学年は書かなくてもよい。

(6) 作品の左上部に校名（〇〇立〇〇学校）を記すこと。（ゴム印可）

(7) 作品の裏側右下に出品者名簿の番号を鉛筆で書くこと。

(8) 規格に合わない作品は審査しない。

2. 出品方法

(1) **出品目録**（下記の通り）、**出品者名簿**（昨年同様に迅速な受付・結果処理のため、書写作品についても出品者名簿を添付すること。様式は美術作品のものと同じ）を指定の様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会美術部会ホームページからダウンロードのこと）

(2) 県内小・中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。

(3) 例年三千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも必ず平成29年度版の出品目録・出品者名簿を使用し正確に記入、締切厳守のこと。

※書写出品目録 省略